

i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）年報



第 4 号

2017（平成 29）年 3 月

愛知県立大学

i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa (多言語学習センター) 年報



第 4 号

2017 (平成 29) 年 3 月

愛知県立大学

目次

はじめに	1
1. iCoToBa 概要	3
2. iCoToBa ガイダンス	6
2.1. iCoToBa Welcome Week	6
2.2. iCoToBa 新入生ガイダンス	7
3. iCoToBa の授業	12
3.1. 2016 年度前期開講授業	12
3.2. 2016 年度後期開講授業	37
3.3. 2016 年度サマープログラム	60
3.4. 2016 年度スプリングプログラム	64
4. iCoToBa のイベント	67
4.1. 2016 年度 iCoToBa 開催イベント	67
4.2. 留学報告会	75
4.3. グローバル関連イベント	76
4.4. 第 9 回多言語競演レシテーション大会	78
5. 教育活動	82
6. e-Learning プログラムの概要	88
最終年度の e-Learning と今後の展望	88
7. アドバイジング	92
7.1. 語学学習アドバイジング	92
7.2. 留学アドバイジング	94
8. 学生活動	95
9. 教材開発・教育実践	97
9.1. 教材開発	97
9.2. 教育実践に関する報告	98
10. 広報活動	99
10.1. web による広報活動	99
10.2. manaba コミュニティ:みんな集まれ iCoToBa 広場	100
11. 資料	102
11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧	102
11.2. iCoToBa 開講授業	103
11.3. iCoToBa 授業アンケート集計結果	111
11.4. iCoToBa 施設見学者	116
11.5. 高等学校の iCoToBa 施設見学	117
11.6. 2016 年度 iCoToBa イベントポスター	119
編集後記	124

はじめに

四ツ谷 亮子(iCoToBa 委員長・ドイツ語圏専攻)

iCoToBa(多言語学習センター)は、2012年度に採択された文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の中核事業として2013年度4月に開設され、今年度末で4年目を迎える。この間、中心的な活動としての語学の授業の他に、さまざまな活動を行ってきた。

まず、語学の授業と言っても、教員が学生に一方的に働きかけるものではなく、学生が学習する言語を実践的に使えるようになるための工夫がこらされている。これは大多数の学生の母語である日本語でもなかなか難しいことであり、ましてや対象言語を使って調べ、発表するのは、かなり高度な作業であると考えられる。

それ以外にも、学生は授業の空き時間にiCoToBaへ通い、留学生との会話を楽しんだり、昼食を取ったりしている。そこにiCoToBa教員や学部の外国人教員が加わることによって、日常的に外国語で会話をするという敷居の高さは意識されにくくなってきているのではないだろうか。

さらに、学生サークルの活動のように、iCoToBaやその教員を中心としたイベントが多数企画、運営されている。

このような中で、iCoToBa利用者数は順調に伸びており、今後も有効利用が見込まれる。これはiCoToBaが本学に着実に定着してきたことを示している。このようなiCoToBaの活動やそこで提供されている授業、e-Learningのプログラムを通して、学生にはみずから専門とする言語の上達を図るとともに、さまざまな言語や文化に積極的に触れる機会を得てほしいものである。

グローバル人材育成事業は今年度末で期間を終了する。私達は、学生の学習意欲をさらに高めるためにも、この事業を本学の教育課程の中で明示的に位置づけて行かなければならない。この4年間の実績が、新たな学びと発信の苗床として受け継がれていくことを祈念する。

1 iCoToBa 概要

(四ツ谷 亮子 ドイツ語圏専攻)

iCoToBa(多言語学習センター)は、2013 年 4 月に本学の外国語学習支援と異文化理解および異文化交流推進を目的に開設された。iCoToBa には、英語 2 名、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語各 1 名の外国人教員がバラエティ豊かな語学授業を提供してきた。また、留学アドバイザー教員と語学学習アドバイザー教員による個別指導も行っており、学生の外国語能力養成と留学計画を含めた計画的な学修ができるようサポートしている。

ここでは、iCoToBa が果たしている役割を概観した上で、開講科目と施設、運営体制について述べる。

iCoToBa の役割

1) 語学授業の提供

英語 45 時間(90 分×30 コマ)、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語は、各 15 時間(90 分×10 コマ)の語学授業を開講している。語学授業は、専攻外国語と第 2 外国語の授業や外国語学部学生の必修科目の時間帯を調査し、できるだけ学生が履修しやすい時間帯に設定するように工夫している。(第 2 章、第 3 章、第 5 章参照)

2) 語学学習アドバイジングと自律学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS など、英語圏の大学への留学に必要な試験準備の指導に加え、留学準備に関する個別相談にのっている。また、e-Learning を用いた語学学習に学生が自主的に取り組めるよう、e-Learning ガイダンスを立案・実施している。英語以外の e-Learning については、各学科・専攻の iCoToBa 委員が中心となり、使用方法や勉強方法について説明会を開催している。(第 6 章、第 7 章参照)

3) 留学アドバイザーによる個別指導および留学体験報告会の実施

留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に応じている。加えて、留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生への留学への動機づけを目指したイベントを計画・実施している。(第 4 章、第 7 章参照)

4) 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。これは、本学の学生にとって、異文化を理解し実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営をするのではなく、企画段階から学生も参加することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。(第 4 章参照)

5) 学生活動のサポート

4 の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBa では、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club (ISC)が組織化され、iCoToBa の

運営に積極的に参画している。(第 8 章参照)

6) 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧グローバル人材育成推進事業)」の促進

2012 年 9 月に採択された上記事業の推進のため、グローバル人材育成推進室や教養教育センターと協働して事業を実施している。(第 4 章参照)

7) 情報発信

HP や manaba を活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとして manaba コミュニティを立ち上げ、運営している。(第 10 章参照)

加えて、iCoToBa で取り組んでいる語学授業や教育手法について研究会での実践報告や教材開発も行っている。(第 9 章参照)

iCoToBa では、2013 年度より外国語学部で導入したインターネット・ポートフォリオシステム manaba を、iCoToBa の科目履修システムや学生指導などのコミュニケーションツールとして積極的に活用してきた。

iCoToBa 開講授業の目的

iCoToBa では、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の 5 言語とこれらの言語圏の文化について、学生のレベルに応じ 4 種類の授業を開講している。

1) 総合的な語学能力養成

「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能に基づいた授業、および、留學生活に必要となる場面でコミュニケーション能力養成を目指した授業

2) 言語圏の社会や文化について理解を深める

視聴覚教材やインターネット、レアーリア(実物教材)を取り入れ、ディスカッションや学生による調査を取り入れた授業

3) グループで課題を決め、外国語を用いてプロジェクトワークを行う授業

学生自身がリサーチし、外国語でまとめ、発表する、情報リテラシーについても学べる授業

4) 語学検定対策

外国語学部「グローバル人材プログラム」で指定されている語学検定対策授業、および英語圏への留学に必要な TOEFL、IELTS の授業

なお、iCoToBa で開講されている各言語の「日本紹介」、「比較文化セミナー」、「リサーチ発信プロジェクト[1]」、「リサーチ発信プロジェクト[2]」、「学生共同プロジェクト」は、「グローバル人材プログラム」の指定科目である。

施設の特徴

iCoToBa は、交流スペースである「iLounge」、パソコンを利用し e-Learning コンテンツなどを学習できる「Self Study Space」、語学授業やミーティングに活用できる「Activity Space」からなる。

1) iLounge

学生が自由に会話を楽しめるスペースで、昼休みにはいつも多言語が飛び交っている。

Visual-Study スペースでは、海外のテレビ番組を視聴したり、海外映画を楽しむことができる。また、語学学習や留学のための雑誌や書籍なども自由に閲覧できる。

2) Self Study Space

Self Study Space には、パソコンが 14 台設置され、自由に使うことができる。すべてのパソコンには、ロゼッタストーンソフトがインストールされており、e-Learning システムなども活用して自分のペースで語学学習に取り組むこともできる(受付でヘッドホンの貸し出しも行っている)。また、場に縛られない自由な学習のために、貸出用の iPad を 10 台、ノートパソコンを 5 台設置している。

3) Activity Space

可動式のテーブルと椅子が配置され、特大サイズのホワイトボードとインターネット対応電子ホワイトボードを完備している。このスペースでは、プロジェクト型の授業やピア学習など、さまざまな形態の授業を行うことができる。

iCoToBa 運営体制

2016 年度の iCoToBa は、以下のスタッフにより運営された。

[iCoToBa(多言語学習センター)]

専任講師	英語担当	Fern Sakamoto
専任講師	英語担当	Brett Hack
専任講師	フランス語担当	Morgan Dalin
准教授	スペイン語担当	Sergio Neri
専任講師	中国語担当	顧 令儀
委員	語学学習アドバイザー	寺澤 君江
非常勤講師	留学アドバイザー	大山 守雄
事務職員	iCoToBa 受付	岩井 美樹

[iCoToBa 委員会]

委員長	四ツ谷 亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
委員	宮谷 敦美 (グローバル人材育成推進室副室長)
委員	袖川 裕美 (英米学科)
委員	佐藤 久美子 (ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
委員	渡会 環 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
委員	中西 千香 (中国学科)
委員	高阪 香津美 (国際関係学科)
委員	寺澤 君江 (iCoToBa 語学学習アドバイザー)
担当事務職員	水野 淑子 (グローバル人材育成推進室)
	岩井 美樹 (グローバル人材育成推進室)

2 iCoToBa ガイダンス

iCoToBa では新年度に 2 種類のガイダンスを実施している。iCoToBa の存在を知り、身近に感じてもらうことを目的とした iCoToBa Welcome Week と、外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼に置いた iCoToBa 新入生ガイダンスである。iCoToBa 新入生ガイダンスは、グローバル人材育成推進室と協働で実施している。以下、ガイダンスの実施内容について紹介する。

2.1. iCoToBa Welcome Week

2016 年度の iCoToBa Welcome Week は、4 月 8 日(金曜日)から 4 月 14 日(木曜日)にかけて開催された。Welcome Week 期間中は、1)各言語の授業説明会と体験授業、2)異文化理解イベント、3)自由会話を楽しむ時間が毎日設定され、多くの学生が参加した。(スケジュールは pp.10-11 参照)。昨年度同様、学生が集中し混乱するのを避け、より多くの学生が参加できるよう言語ごとにスケジュール調整した。

英語のガイダンスでは教員とコーヒーを片手に iCoToBa で何ができるか紹介する時間を設けたほか、TOEIC 対策授業の説明会を行った。フランス語、スペイン語ではお茶や昼食をとりながら教員から iCoToBa 授業について説明し、学生が iCoToBa 活用法をイメージできる時間を設けた。中国語のガイダンスでは、iCoToBa 教員による中国茶のデモンストレーションを行い、学生の語学学習に対する関心を高めた。



Welcome Week 最終日には、世界のパンケーキ試食会を開催した。1 年生を中心に 103 名の学生が参加し、多くの学生に iCoToBa を利用する機会を提供した。学生ボランティアおよび留学生の積極的な参加がイベントを盛り上げた。(詳細は第 4 章参照)

期間中、語学学習アドバイザーによるカウンセリングも実施し、のべ 36 名の学生に対応した。相談内容は検定試験対策に関することが多かった。



Welcome Week 期間中に iCoToBa を利用した学生数はのべ 453 名(1 日平均 90 名)であり、学年では 1 年生が最も多く全体の 69%(311 名)であった。Welcome Week の開催により、新入生に iCoToBa の施設や授業内容について十分に周知できた。

2.2. iCoToBa 新入生ガイダンス

新入生を対象とした iCoToBa ガイダンスは、目的別に iCoToBa ガイダンス I と iCoToBa ガイダンス II として、各学科・専攻ごとに 2 回実施された。iCoToBa ガイダンス I については、昨年同様に合同で開催した学科・専攻もあった。それぞれのガイダンスの目的は下記のとおりである。

iCoToBa ガイダンス I : iCoToBa の説明、グローバル人材プログラムの説明・履修方法、
外国語学習の動機づけ
iCoToBa ガイダンス II : e-Learning、manaba の使い方の理解

以下は、各学科・専攻が行ったガイダンス内容に関する報告である。

[英米学科・国際関係学科]

新入生対象 iCoToBa ガイダンス I



4 月 8 日(金)に英米学科、国際関係学科合同で、新入生対象の iCoToBa ガイダンス I が H004 で実施された。本ガイダンスでは、グローバル人材育成プログラムとはどのようなものなのかに関する導入として、英語に対するこれまでの関わりがどのようなものだったかを考え、グローバル人材になるためにはどのような能力や知識が必要になるかについて話し合った。具体的には、まず、英語そのものや英語話者に対して、どのようなイメージを持っているか、どのような国や文化で使われているかという質問から始まり、なぜ、英語を勉強するようになったか、英語で将来何をしたいかなどを問い、話し合った。最後に、英語の勉強法についても考えた。成功した方法、失敗した方法について、新入生の体験だけでなく、教員の意見も紹介され、とても盛況となった。以上の議論の後、グローバル人材育成プログラムについての説明がなされ、次回の iCoToBa ガイダンス II の開催日時・場所等を学生に周知して、終了となった。(袖川裕美)

新入生対象 iCoToBa ガイダンス II

iCoToBa ガイダンス II は、英米学科、国際関係学科の新入生を対象に、それぞれの学科単位で、英米学科は 4 月 13 日(水)、20 日(水)、27 日(水)の 3 日に分けて、また、国際関係学科は 4 月 14 日(木)に、C217、C218 教室で開催された。本ガイダンスの目的は、e-learning と manaba の使い方を理解することである。自律学習を促す e-learning と自身の学びの足跡を残す manaba を使っていったいどんなことができるのか、また、どのように用いるのかを、e-learning については、実際に英語の例題を解くことで、また、manaba については、あらかじめ、担当者が作成しスレッドをたてておいた外国語学習に関するアンケートに回答することにより学んだ。

授業時間数は限られている。だからこそ、外国語能力を高めるためには当然、授業時間外の学習が求められる。manaba で自身を客観視しながら、e-learning を授業時間外の学習にぜひ役立ててもらいたい。(高阪香津美)

[ヨーロッパ学科フランス語圏専攻]

2015 年度と同様、4 月に二度にわたり新入生ガイダンスを行った。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 6 日)

初回は、フランス語圏専攻対象のグローバル科目の中の 1 年生対象の科目に焦点を絞り、それらの科目の内容等について、フランス人教員とともに詳細に説明した。特に、今年度からは、フランス人教員による、フランス語の発音矯正のクラスを二つに分け、1 学年からのフランス語の正しい発音習得の重要性について強調したところ、1 年生全員がこの 2 つのクラスのどちらかに登録する結果になり、最終的に、今年度の 1 年生の発音習得に極めて有効なものとなった。



第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 13 日)

2 回目は、グローバル人材育成プログラムの修了までの履修方法や、iCoToBa、manaba、e-Learning の活用方法、学習方法などについて、実際にパソコンを触りながら説明をした。本学の iCoToBa、manaba、e-Learning は、それぞれ活用の頻度を上げることで、自分のスキルアップや視野を広げられる。日々の外国語学習の中で、これらをフルに活用して、さらなるスキルアップに努めてもらうことを促した。

(佐藤久美子)

[ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻]



2015 年度同様 2016 年度も、iCoToBa 教員とともに、専攻独自のガイダンスをおこなった。スペイン語圏専攻では、毎年 5 月に 1 泊 2 日で新入生研修合宿を実施しており、iCoToBa ガイダンスの目的および内容について、研修合宿と重複する部分が多いことが単独開催の理由である。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 6 日)

上記研修合宿において、スペイン語を学ぶ目的、スペイン語を使って何がしたいか、何ができるかなどを考えながらレポートにまとめ、グループ討論を実施している。そのため、本ガイダンスでは、グローバル人材プログラムの説明と iCoToBa の利用法、1 年生対象の iCoToBa プログラムおよび教員紹介をおこなった。

第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 8 日)

e-ポートフォリオ manaba の利用法についてのオリエンテーションを目的とし、ログイン方法から始め、各自語学に関するアンケートに回答し、manaba のレポート機能を使って担当教員に提出するところまでをおこなった。スペイン語オンラインコースについては、5 月中旬からの使用となるため、語学検定試験 DELE との対応を説明し、簡単な紹介のみにとどめ、別日程でガイダンスをおこなった。

(渡会環)

[ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻]

iCoToBa 教員が前年度末に突如退職の意思を示して大学を離れるという不測の事態が起こり、今年度はイレギュラーな対応を迫られた。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 8 日)

第1回目のガイダンスには、国際交流推進委員、iCoToBa 委員が参加し、iCoToBa のドイツ語以外の授業プログラム内容の紹介と、協定大学留学の概要についての説明を行った。

第2回新入生対象ガイダンス(4月13日)

第2回目は、e-ポートフォリオ manaba のガイダンスとし、前年度同様ログインから始め、これまでの外国語学習を振り返るレポート提出までを義務づけた。また、e-Learning プログラム利用の導入も行った。
(四ツ谷亮子)

[中国学科]

2016 年度も 2015 年度同様、中国学科のみで、研究概論(中国語)の授業の中の 3 回を利用して、新入生ガイダンスを行った。

初回は、グローバル人材育成プログラムの修了までの履修方法や、iCoToBa、manaba、e-Learning の活用方法、学習方法などについて、実際にパソコンを触りながら説明をした。二回目、三回目は、中国語をこれから 4 年間学ぶことになる学生たちに、1 年後、2 年後、3 年後、卒業後の自分がイメージできるように、語学的な動機付けとグローバル人材とはどういった人間を指すのかなど、幅広い論点でそれぞれのグループでディスカッションを行い、個々の考えを出し合い、まとめ、グループの代表を決めて、考えを発表した。



まだ、入学間もない彼らにとって、仲間と議論しながら何らかの答えを導くということは、それほど容易ではない。しかし、それぞれのグループで話し合った内容を、自分たちで考えて、ことばを選びながらまじめに取り組んでいた。

毎回、より学生に自発的に行動を起こせるよう、県大生として、4 年間、どんな過ごし方をすべきかを早いうちから計画的に描けることができるようになるために議論をさせ、注意喚起をしたつもりである。とかく県大生は、おとなしく、まわりの様子を伺ってから行動をするタイプが多い。時にプライドが邪魔して、上手に立ち振る舞えないことも多い。典型的な県大生から脱出するべく、活発で明るく、自分をしっかり持てる人材になってもらいたいと強く願っているが、時間がたつとまた結局戻ってしまうことが残念でならない。私一人の力ではなかなか難しいと強く感じる次第である。なるべく若い学年のうちから社会にでるまでにどういった人材になりたいのか、しっかり自覚をもって動けるようにこれからも注意喚起はできる限りしていきたい。

人間的な向上と同時に、語学スキル、IT スキルなどの社会にでるまでに必要なスキル、リテラシーをしっかり身につけて、まわりのものへの気づきを感じ、学生同士で切磋琢磨しながら、充実した大学生活を送ってもらいたいと強く願う。
(中西千香)

2016 iCoToBa Welcome Week Schedule

	4月8日(金)	4月11日(月)	4月12日(火)	4月13日(水)	4月14日(木)
1限			Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (9:50~10:20)		
2限	顧先生：中国茶会与中国語 1年生対象 (10:30~11:15)	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (10:30~11:00)	Sergio 先生： スペイン語圏の文化と言語 (11:30~12:00)	顧先生：中国茶会与中国語 2・3年生対象 (10:30~11:15) Sergio 先生：スペイン語圏文化 (11:00~11:30)	TOEIC 説明会@A.S. (10:30~11:00)
ランチ タイム	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time (12:10~12:40)		顧先生：中国語とランチ (12:00~12:50) Sergio 先生：1年生対象 スペイン語とランチ (12:15~12:45)	Sergio 先生：2・3年生対象 スペイン語圏の文化と言語 (12:15~12:45) Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (12:30~13:00)	Sergio 先生：1年生対象 スペイン語とランチ (12:15~12:45)
3限	TOEIC 説明会@A.S. (13:00~13:30)	顧先生：中国茶会与中国語 個別相談(中国語) (13:30~14:15)	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time (13:30~14:00) Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (12:50~13:20)	顧先生：中国茶会与中国語 1年生対象 (12:50~13:35)	顧先生：個別相談(中国語) Sergio 先生： スペイン語圏文化 (13:00~13:30) Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (12:50~13:20)
4限	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (14:30~15:00)	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (14:30~15:00)	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (14:30~15:00)	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time(14:30~15:00)	
5限					要申込み！ 世界のパンケーキ試食会 先着 60名！ 申込み先：iCoToBa

Hungry?

Come & eat pancakes from around the world!

**Thursday April 14th
16:10 ~ 17:40 @ iCoToBa
Cost: ¥300**

**Sign-up & pay @ iCoToBa
by Tuesday April 12th**

Places are limited! Don't miss out!



iCoToBa (多言語学習センター E棟2階) の語学授業

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→ 授業開始 4月15日(金)

受講申込受付 4月8日(金)～21日(木) 締切厳守

授業内容をチェックするには？

- ① iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる
- ② インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
※ iCoToBaガイダンスIIで説明
- ③ iCoToBa HP「新着情報」から「2016前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/cotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには？ →manaba の「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む
※ iCoToBaガイダンスIIで説明

どの授業を選べばいい？

- ① iCoToBa Welcome Week [4月8日(金)～14日(木)] のイベントに参加して
直接先生に質問しよう
- ② 新入生iCoToBaガイダンスI、IIで説明を聞く

International Cultural Events

大学生なんだから、いろんなコトしようよ！

① iCoToBaの異文化交流イベント

iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう

② iCoToBa Supporters Club (ISC)に参加しませんか？

学生のiCoToBaサークル活動！企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください！

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

- ①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談
4月7日(木)13:00-17:00 ※同じ時間に学部の履修相談有
場所:iCoToBa (E棟2階) Activity Space
- ② iCoToBaのアドバイザーに相談する
寺澤先生(語学学習)、大山先生(留学、木曜のみ)
- ③ 学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く
委員 英米:久田、フランス:原、スペイン:江澤、
ドイツ:池田、中国:川尻、国際:宮谷

留学情報にも目配りを！

2016夏ショートプログラム説明会 4月20日(水)12:10-12:50 @H004/各大学の説明会 4月21日～5月13日 休休み
@iCoToBa

留学説明会 6月15日(水)12:50-14:20 @S201

協定大学への留学、奨学金情報を知りたい → 国際交流室(E棟1階)で予約して相談

留学ってどんな感じ？ゼロから相談したい → iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談(要予約:木曜日2～5限)
留学に関する質問はabroad@for.aichi-pu.ac.jpへメールでも受け付けます

経験者の意見を聞きたい! → iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週木曜 休休み 4月21日～)

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa (多言語学習センター) 新入生用

iCoToBa (多言語学習センター E棟2階) の語学授業

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→ 授業開始 4月15日(金)

受講申込受付 4月8日(金)～21日(木) 締切厳守

授業内容をチェックするには？

- ① iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる
- ② インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
- ③ iCoToBa HP「新着情報」から「2016前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/cotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには？ →manaba の「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む

どの授業を選べばいい？

- ① iCoToBa Welcome Week [4月8日(金)～14日(木)] のイベントに参加して
直接先生に質問しよう

International Cultural Events

大学生なんだから、いろんなコトしようよ！

① iCoToBaの異文化交流イベント

iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう

② iCoToBa Supporters Club (ISC)に参加しませんか？

学生のiCoToBaサークル活動！企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください！

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

- ①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談
4月7日(木)13:00-17:00 ※同じ時間に学部の履修相談有
場所:iCoToBa (E棟2階) Activity Space
- ② iCoToBaのアドバイザーに相談する
寺澤先生(語学学習)、大山先生(留学、木曜のみ)
- ③ 学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く
委員 英米:久田、フランス:原、スペイン:江澤、
ドイツ:池田、中国:川尻、国際:宮谷

留学情報にも目配りを！

2016夏ショートプログラム説明会 4月20日(水)12:10-12:50 @H004/各大学の説明会 4月21日～5月13日 休休み
@iCoToBa

留学説明会 6月15日(水)12:50-14:20 @S201

協定大学への留学、奨学金情報を知りたい → 国際交流室(E棟1階)で予約して相談

留学ってどんな感じ？ゼロから相談したい → iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談(要予約:木曜日2～5限)
留学に関する質問はabroad@for.aichi-pu.ac.jpへメールでも受け付けます

経験者の意見を聞きたい! → iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週木曜 休休み 4月21日～)

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa (多言語学習センター) 2年生以上用

忘れちゃいけないガイダンス

①新入生対象グローバル人材育成推進事業ガイダンス

4月6日(水)13:00-14:00 場所:講堂

②iCoToBaガイダンスI

英米・国際 4月8日(金)16:10-17:40 場所:H004

フランス iCoToBa Welcome Weekで教員から説明します

スペイン 4月8日(金)10:30-12:00 場所:H204

ドイツ 学科ガイダンスの時間で教員から説明します

中国 授業時間内で学科教員から説明します

③iCoToBaガイダンスII (e-LearningとmanabaのID忘れずに！)

英米 4月13日(水)16:10-17:40 場所:C217, C218

フランス 4月13日(水)12:50-14:20 場所:H204

スペイン 4月8日(金)10:30-12:00 場所:H204 * Iと同時に

ドイツ 4月13日(水)12:30-13:30 場所:H205

中国 4月12日(火)10:30-12:00 場所:C218

国際 4月14日(木)14:30-16:00 場所:C218

重要！

e-LearningとmanabaのIDは入式で配布された資料に入っています。iCoToBaガイダンスIIに必ず持って来てください。

e-Learning せっかくのチャンス最大限に活かさないや！

① ALCネットアカデミー2(十ロゼッタストーン)ガイダンス

4月18日(月) 19日(火) 20日(水) 21日(木) 22日(金)

すべて 12:10-12:35 場所:H205

② マンツーマンで質問できるセッション 4月25日(月)～5月13日(金)

月曜日:13:00-14:15 火曜日:14:40-15:55 水曜日:13:00-14:15

金曜日:10:30-11:45

場所:iCoToBa SSS わからないことは 寺澤先生に質問しよう！

※第2外国語(対象言語のみ)のIDとマニュアルは、5月に授業で配布

グローバル人材プログラムガイダンス

履修ルールがよくわからない人

今年のiCoToBa科目、どれをとればいい？ ここで解決！

4月7日(木)13:00-17:00

場所:iCoToBa (E棟2階) Activity Space

注意！ グローバル人材プログラムの

修了を目指す人は！

「グローバル人材プログラム」の「インターンシップ」は教養教育科目「インターンシップ」のみです！

チャレンジしようと思っている人、必ず履修登録を！

インターンシップ説明会 4月13日(水)12:50～ S棟201

e-Learning

せっかくのチャンス最大限に活かさないや！

① ALCネットアカデミー2(十ロゼッタストーン)ガイダンス

4月18日(月) 19日(火) 20日(水) 21日(木) 22日(金)

すべて 12:10-12:35 場所:H205

② マンツーマンで質問できるセッション 4月25日(月)～5月13日(金)

月曜日:13:00-14:15 火曜日:14:40-15:55 水曜日:13:00-14:15

金曜日:10:30-11:45

場所:iCoToBa SSS わからないことは 寺澤先生に質問しよう！

※第2外国語(対象言語のみ)のIDとマニュアルは、5月に授業で配布

3 iCoToBa の授業

iCoToBa では、5 言語 (英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語) の語学授業を開講している。授業はレベル別 (CEFR 基準 A1~C1)、目的別 (4 技能別、留学準備、外国語学部グローバル人材プログラム対象科目) に設定している。そして、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、運用能力を身につけると、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語を使って調べ発信することを目指した授業設計をしている。

以下では、2016 年度に開講した授業について報告する。開講授業一覧と各受講者数は、「11. 資料 (pp.102 -111)」を参照されたい。

3.1. 2016 年度前期開講授業

【英語】

Global Leader (Fern Sakamoto, Monday 2nd period)

Objective: To learn vocabulary related to world issues.

To further understanding of and ability to think critically about global issues.

To be able to express ideas clearly and participate actively in a discussion.

To gain leadership confidence and experience.

Course contents: This class was student-focused, with students taking turns to prepare and lead a class and discussion related to a world issue of their choice. Students developed management, presentation, critical thinking and communication skills while furthering their understanding of world issues and broadening their English vocabularies.

General Overview and agenda: This class was attended by students from a range of departments and grades, all of whom participated actively in discussions and prepared carefully when leading the class. Students were able to express their opinions and hold relatively in-depth discussions on a number of topical themes. Many expressed interest in taking the course again. Survey results showed some students felt their language skills did not directly improve a great deal as a result of this course, but specific language learning was not a goal of this course, and all students felt that they had achieved the objectives of the course.

Topic Talk (Fern Sakamoto, Monday 4th period)

Objective: To learn useful vocabulary related to everyday topics and areas of personal interest.

To enhance natural conversational ability related to a broad range of topics.

To develop effective communication strategies.

To gain confidence and enjoy communicating in English.

Course contents: Each class students learned some new words and expressions related to an

everyday topic, then used them in extended conversation. Students worked in pairs to choose a topic and prepare a handout with new word and questions to start conversation. They then lead one class, together with the teacher.

General Overview and agenda: A good number of students enrolled in this class, but attendance was rather sporadic. The casual week-by-week nature of the class may have contributed to this lack of continuity. Most students failed to complete weekly vocabulary homework, and it was eventually abandoned half-way through the course. Student surveys showed that students were very aware of their own lack of application to the course. The aim was to allow students to learn words that applied to their own interests and needs, but students seemed unwilling or unable to take on this responsibility. Many indicated that they did not feel they had learned any language learning method through the class, indicating that a more structured approach to vocabulary acquisition may be necessary.

J-Ambassador (Fern Sakamoto, Tuesday 2nd period)

Objective: To reflect critically upon Japanese culture, identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use

Course contents: Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. A large part of the course focused on a project to create an Aichi guidebook to complement an Aichi Prefecture tourism campaign.

General Overview and agenda: Students were eager to speak in English, and later worked well to complete the project task to a high standard. Some students expressed disappointment with the amount of improvement in their English conversation skills. This is not actually a goal of the course, but students were certainly hoping for more English conversation. Next semester the teacher will strive for a better project/conversation balance, so students have an opportunity to use spoken skills more, whilst still developing critical thinking skills.

The Global Food Industry: What are we eating?

(Fern Sakamoto, Tuesday 3rd period)

Objective: To broaden awareness of world issues and consider implications for Japan.

To develop critical thinking skills and practice exchanging opinions in English.

To improve English listening and discussion skills.

Course contents: Students watched documentaries and considered a range of issues including food prices, safety, labelling, distribution and sustainability. Students researched and recorded a short youtube video about one food issue in Japan.

General Overview and agenda: This class was small with only four students. Attendance was consistent however, and a good camaraderie soon developed between students. Students

expressed a high degree of satisfaction with the course and felt that they were able to achieve the course objectives. The final video project was a nice departure from regular presentation tasks and will be used again in the future. Introducing the task earlier in the class would allow students to devote more time to the project and achieve a higher quality result.

Student Collaborative Project (Fern Sakamoto, Wednesday 4th period)

Objective: To improve communication skills and communicate effectively with teammates and company representatives.

To develop problem-solving and management skills.

To consider different cultures and how to communicate effectively with them.

To learn written and spoken presentation skills and deliver polished articles and presentations.

Course contents: Students researched and learned techniques for interviewing and fieldwork, then applied those in a field trip to gather information about one local business. Students identified target audiences and promotion concepts, then crafted articles in a range of languages to promote the businesses to domestic and international audiences. The course culminated in a presentation of results to company representatives.

General Overview and agenda: The workload in this class is very heavy and the schedule was tight. This semester students benefited from targeted teacher guidance and from an earlier start to the course, and were able to write their articles in relatively good time. Presentation preparation was rather last-minute, but students were able to deliver high quality presentations. Many students commented that the workload was too extreme for this course, but also professed a high degree of satisfaction with the end results. A heavy workload would seem to be necessary in order to achieve such results and students were made aware of this at the beginning of the course. The inclusion of “senior” students as supporters was effective, but met with some confusion as to the roles of seniors. This will be more explicitly discussed in the next class.

Survival English (Fern Sakamoto, Thursday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To gain confidence using English to communicate.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each unit students looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. There was a lot of role-play and speaking practice time in this class.

General Overview and agenda: This class was popular among first grade students and was full to capacity. Attendance remained consistent throughout and the class atmosphere was very positive. Students were nervous at the beginning of the course, but were able to relax and

overcome their fear of mistakes as the course progressed. Survey responses indicate that students did not put much effort into this class, but enjoyed it and felt that the class increased their motivation for learning. As an introductory class for first grade students this class is an effective way to get students in iCoToBa, but more opportunity for personal growth needs to be considered. Many students commented that they enjoyed frequent group work and were able to make many new friendships in this class. Some also commented that they desired more opportunity to talk one-to-one with the teacher. With the number of students enrolled in this class that is not really viable. A better option is to encourage students to attend iContact to meet with the teacher individually.

TED Talks (Fern Sakamoto, Thursday 4th period)

Objective: To enhance listening skills and get used to a range of accents.

To broaden awareness of world issues.

To enhance critical thinking skills and practice exchanging opinions in English on a range of topics.

Course contents: Each week students watched one TED Talk and discussed the topic it raised.

Students used audio scripts to navigate spoken academic language, learn new words, and gain familiarity with English spoken in a range of accents. In the latter part of the course students chose their own TED Talk, and prepared and led the class based on their talk.

General Overview and agenda: This class attracted a range of grades and ability levels. The nature of the TED Talks materials however, meant that students were able to access it at their own level, by watching before class, or printing out the audioscript if they wished to. Attendance was consistent, and the classroom dynamic was relaxed and positive. Students commented in the surveys that they enjoyed being able to choose their own talks and lead a class, however results also indicated that students would benefit from more detailed explanations and explicit teaching of learning strategies. Finding a better balance between student- and teacher-led activities may help this.

Survival English (Fern Sakamoto, Thursday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To gain confidence using English to communicate.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each unit students looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. There was a lot of role-play and speaking practice time in this class.

General Overview and agenda: This class was popular among first grade students and was full to capacity. Attendance remained consistent throughout and the class atmosphere was very positive. Students were nervous at the beginning of the course, but were able to relax and

overcome their fear of mistakes as the course progressed. Survey responses indicate that students did not put much effort into this class, but enjoyed it and felt that the class increased their motivation for learning. As an introductory class for first grade students this class is an effective way to get students in iCoToBa, but more opportunity for personal growth needs to be considered. Many students commented that they enjoyed frequent group work and were able to make many new friendships in this class. Some also commented that they desired more opportunity to talk one-to-one with the teacher. With the number of students enrolled in this class that is not really viable. A better option is to encourage students to attend iContact to meet with the teacher individually.

Pronunciation Profiles 1 (Brett Hack, Monday 2nd period)

Objective: To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.

To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.

To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course contents: Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point.

After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

General Overview and agenda: The student makeup for this class was ideal for the course: over 24 students, all first-year International and Cultural Studies majors. Consequently, the class dynamic was very good. This year's group of students were very excited, sometimes a bit unruly, but always interested in the class. Survey results indicated that students enjoyed the applied learning style of the class.

Real-Life English Expressions (Brett Hack, Monday 4th period)

Objective: To acquire new vocabulary and expressions used in daily life.

To shift understanding of vocabulary towards real-life application.

To develop the ability and motivation to learn new words by oneself.

Course contents: This class focused on practical vocabulary acquisition, particularly on figurative expressions, idioms, and other "natural" phrases that are difficult for beginners to learn. The class also taught beginners how to "be their own teachers" when it comes to acquiring new vocabulary.

General Overview and agenda: Student attendance was very poor for this class, making it difficult to conduct activities. Therefore, more casual "free talk"-style lessons were implemented. We also watched English-language television shows, listening for and discussing the slang terms used therein.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World

(Brett Hack, Monday 4th period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This class had a small number of students, which made for a quieter class. However, the small number made it easier to conduct student care and guide conversations. Therefore, the students improved conversations skills more than in larger classes. Survey results showed that students felt satisfied with improvements in their discussion skills.

Get Good at Speaking (Brett Hack, Tuesday 4th period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This class combined methods from 3 previous iCoToBa conversation classes – English Improv, Group Discussion, and Conversation Coach – into one course. The course featured a rotating series of units on group discussion, flexibility and quick response, and free talk.

General Overview and agenda: Moving this class to a non-Wednesday school made for a smaller number of students (13) but attendance was far more stable and the students were dedicated. They responded well to activities and towards the end of the course I implemented more experimental and challenging lessons to suit their abilities. Student wrote on surveys that the class was “fun” and that they enjoyed the conversation-centered activities. One student wrote that he/she wanted even more free talk time.

Study English with Movies (Brett Hack, Tuesday 5th period)

Objective: To learn methods for independent English study using movies.

To improve listening and vocabulary.

To become more motivated to study at home.

Course contents: This was not exactly a class but more of a study skills workshop. American films were shown in class. After this, the instructor showed various methods through which one might use the film at home to work on developing English language skills. These methods were utilized in class, and students were encouraged to try them at home using films of their choice.

General Overview and agenda: Unlike the previous semester, this class suffered from a lack of unity. Unstable student number and attendance during registration period made the class unable to agree on films to watch. This led to many students leaving the class. By the middle of the term, student number had dropped from over 20 to 9. However, after this, the class stabilized and the lessons became productive. Student surveys indicated that the class was edifying, not least

because it introduced them to English-language films they would not have deigned to watch themselves.

Research Project and Presentation 1 (Brett Hack, Wednesday 2nd period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This class only had a single product group of 5 students, but they were of the highest caliber. Intelligent, organized, and highly motivated, they completed a complex theoretical project (about American politics) largely on their own. They conducted meeting almost entirely in English, including discussions about the difficult subject matter. The class, project, and presentation all ended smoothly.

The Cultural Imagination of Manga and Comics (Brett Hack, Thursday 2nd period)

Objective: To perform cultural comparisons of English and Japanese cultural products

To gain practice reading multilingual sources in English.

To be able to express opinions in English.

Course contents: In this class, the students read both manga and English-language comics to uncover their similarities and differences. Each week feature 1 Japanese manga and 1 English-language comic with connected themes (love, war, youth, etc.) Students wrote responses to the sources and shared them. After that, we discussed how each text dealt with the common theme using the cultural and stylistic tools at their disposed. For a final project, students translated sections from manga into English. The finished products were displayed in iCoToBa lounge.

General Overview and agenda: This class had seven students of varying years and majors, including one guest student from the Department of Japanese history and culture. However, they shared an image in visual narrative and culture, so they discussed actively and the class became very fruitful. This was a very educational class for all concerned, including the instructor. Survey results that the students all enjoyed the class dynamic and the discussion that resulted. One student suggested that some time to review the English-language comics in class might be helpful.

Plan a Trip in English (Brett Hack, Thursday 4th period)

Objective: To understand the basics about independent travel.

To learn English vocabulary and phrases related to traveling.

To practice using printed and online materials in English.

Course contents: This is a workshop-style class gave students the chance to plan a trip abroad

using English. Students were introduced to useful travel websites and applications, as well as important English words and phrases regarding travel. They practiced essential skills such as booking flights and hotels, reading guidebooks, and planning an itinerary. For a final project, student planned a unique in groups and finally shared the results with other groups.

General Overview and agenda: This class had a solid student number of around twenty students.

As this was a non-global credit class, student attendance was sometimes a problem. Absences and neglect of homework assignments made it sometimes difficult to conduct activities. I finally sent an email to all students explaining the difficulty caused by poor participation. After that, students returned to the class and participated fully. Some survey responses even indicated regret for the absences. The surprisingly positive response to my “scolding” email indicates that most absent students are excited about iCoToBa classes, but simply get distracted with other activities in the middle of the semester.

Pronunciation Profiles 2 (Brett Hack, Thursday 5th period)

Objective: To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.

To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.

To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course contents: Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point.

After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

General Overview and agenda: This was a much smaller group than the Monday class. However, the class dynamic was equally positive. Classes were a little less rushed, and I could go into more detail regarding the pronunciation points. Most survey results indicated that student in fact enjoyed the small class size and the more detailed learning that it enabled.

Talking Better with Movies (Brett Hack, Friday 2nd period)

Objective: To become able to talk about movies at an advanced, academic level.

To improve English skills and thinking skills through discussion about movies.

To understand movies as reflecting and commenting on concrete social issues.

Course contents: In this class, students watched and discussed English movies. They also read short pieces about the movies - about the director, actors, social background, etc. The goal was to train all four skills and learn how to become intelligent speakers about any topic. On the last day of class, each student presented a short section of a film of their choice and talk about it, using the themes of the class.

General Overview and agenda: I had originally intended this class to be a slight readjustment of the “Society through Film” class of previous semesters. However, the average student ability in this class was much lower than in Society through Film. Therefore, I changed the course direction and made a set of “film discussion questions” vocabulary lists and model conversations. This change was very successful, and the students were able to speak and think more confidently. Survey results indicated that students felt better able to isolate talking

point from movies and discuss them.

Research Project and Presentation 2 (Brett Hack, Friday 4th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This class had the highest number of students for the course this semester. The planning documents and vocabulary-use goals I implemented in the previous semester worked well; English-use during the class meetings was notably higher than in previous large classes. Students were all positive and dedicated. About half the groups – composed of friends – worked largely independently, while other groups – composed of strangers – required more guidance at the beginning. As usual, many students wrote on the surveys that they enjoyed the self-guided nature of the class. One student described it as “equality.”

TOEIC Intensive 1, 2, 3, 4

(寺澤君江、月曜日 10:30～12:00、17:50～19:20、火曜日 10:30～12:00、17:50～19:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート 4 に焦点をあて、公式問題を用いたシャドウイング練習を位置づけた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 効率のよい授業展開が学生には好評であった。授業の中核となる問題傾向の分析を通して、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。試験の際、特に Part3 および Part4 の攻略法が役立ったと報告を受けた。また、本学の学生が苦手とするリーディングパートの時間配分に関しては、実践することにより感覚的に理解できたように思われる。解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。ボキャブラリーチェックを授業の中に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEIC Early Birds 1, 2 (寺澤君江、水曜日 8:50～10:20、木曜日 8:50～10:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。演習を中心に授業を展開した。リスニングとリーディングそれぞれの攻略方法および問題解説に重点を置いた。水曜日はスコア

800 を目標とし、木曜日はスコア 900 を目標とする内容を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題演習により、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。解説の時間がやや不十分であったという意見が聞かれた。特に、リスニングにおいてはスクリプトを提示してほしいという要望があった。語彙力強化に関しては、学生のニーズに応じることができていた。目標スコアと達成スコアを明確にすることで、学生の意欲が持続された。

Strategic TOEFL (寺澤君江、水曜日 10:30～12:00)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験の 4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における攻略方法を身につけることができるように授業を展開した。スピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力も必要とされるため、特に、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題によるミニ模擬試験を実施した。スピーキング力強化に関しては、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励し、そのための課題も個々のレベルに合わせて提供した。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、問題の解き方のコツをつかめた学生が多かった。授業を通して、リスニングにおけるノートテイキングやスピーキングにおける内容構成を理解するきっかけとなったように思われる。しかしながら、全 13 コマ(1 コマ 90 分)という限られた時間で 4 つのパート全てをカバーするには時間が足りないと感じた。

Successful IELTS (寺澤君江、木曜日 10:30～12:00)

授業目的: イギリス留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)を全てカバーできるように授業を展開した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツに触れながら、演習を位置づけた。学生の苦手とするライティングは重点的に指導にあたった。スピーキングセクションに関しては、テーマを提供し、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励した。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生が苦手とするライティングパートに関しては、プレライティングとして、クリティカルシンキングのトレーニングに時間を費やすことが求められた。留学を見通し、講座終了後も個人で継続的に努力することが望ましい。

Listening for Exams (寺澤君江、火曜日 12:50～14:20)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のためのリスニング力強化

授業内容: 全ての検定試験に対応できるよう、様々な題材を取り上げた。上記の 3 種類の検定試験で出題される英文を用いて、シャドーイング、ディクテーション、内容理解、サマリーなどにより、多面的に学習を展開した。

アンケート結果分析・来期の課題: 大学受験レベルのリスニングからの脱却を図ったため、学生にとっては難しく感じたようである。理解するので精一杯となり、問題に正解するところまでたどり着けなかったことが多かった。しかしながら、この講座はチャレンジ精神を喚起することに貢献できていたようである。学生の知的好奇心を刺激するため、今後さらにオーセンティックな教材を用いた学習の機会を提供していきたい。リスニング力向上のため、iCoToBa の外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を学生に勧めたい。

Speaking for Exams (寺澤君江、金曜日 12:50～14:10)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験のスピーキングパート(インテグレイティッド)の実践演習。スピーキングセッションではリスニング力も必要とされるため、シャドーイング実践を毎時、位置づけた。また、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題による模擬試験を実施することにより、パブリックスピーキングの力を向上させることにつながった。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら授業を展開し、学生は自らの上達を実感することができた。この講座により、TOEFL の問題の解き方のコツをつかめただけでなく、一般的な英語のスピーキング力が向上したと感じる学生が多かった。このスタイルの授業を増やしてほしいと言う要望が多く聞かれた。

Writing for Exams (寺澤君江、月曜日 14:30～16:00)

授業目的: 英語圏留学を目指す学生の TOEFL/IELTS 受験対策

授業内容: 試験のライティングパートの実践演習。TOEFL integrated ライティングセッションではリスニング力も必要とされるため、リスニングプラクティスにも時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題による模擬試験を実施した。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら授業を展開し、学生は自らの上達を実感することができた。この講座により、TOEFL の問題の解き方のコツをつかめただけでなく、一般的な英語のライティング力が向上したと報告を受けた。

Vocabulary for Exams (寺澤君江、水曜日 14:30～16:00)

授業目的: 他学部生対象の TOEIC 受験対策

授業内容: TOEIC スコア 600 に必要な語彙力を定着させるための講座として実施した。TOEIC 検定試験に出題されやすい語句を用いて、リスニング、ディクテーション、フレーズのマッチングなどの演習中心に授業を構成した。

アンケート結果分析・来期の課題: 個々の弱点に焦点を合わせながら授業を展開したが、学部や学年が様々であったため、習熟度に差があり、難しいと感じた学生もいた。この講座により、TOEIC に対する学習意欲を高めるきっかけとなった。

【フランス語】

フランス語圏なう。 (ダレン モルガン、木曜日 12:50～14:20)

登録人数:15名

授業目的: フランスの海外県・海外領土やフランス語圏の国へ留学する事について具体的に考え、準備する。具体的なプロジェクトを通して、選んだ土地の知識を共有する。フランス語で情報を検索する。フランス語を話す力、書く力、グループワークの能力を高める。

授業内容:一つ目は、フランスの海外県・海外領土を紹介するためのプレゼンテーションの準備・発表を行った。二つ目は、フランス語圏の国を紹介するためのプレゼンテーションの準備・発表を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 参加した学生のモチベーションが低かったが、一つ目の発表は普通のレベルであり、二つ目の発表は結構よいレベルの発表になったと思う。ただ、グループ間において、準備までの差が大きかった。パワーポイントの使い方も、一回目の発表と二回目の発表で明らかな上達が見えた。準備中に各グループを回り、フランス語で相談を受けたり、会話する機会を増やした。最終的には、フランス語圏等について具体的な知識が得られたし、フランス語での検索の仕方、プレゼンテーションの練習にもなったので、授業の内容的には良かったと思う。アンケートでは、「少人数のため、一人ひとりきちんとチェックしてくれる点がよかった」「自分の言葉でフランス語を話す力がついた」「フランス語を人前で発表する力、ジェスチャーを使えるようになった」という意見があった。自分で調査したことについて発表することで、学生それぞれが、プレゼンテーションのスキルアップが必要だと感じるいいきっかけになればよいと思う。

ニッポンなう。 (ダレン モルガン、月曜日 16:10～17:40)

登録人数:19名

授業目的: 日本の文化や観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語を使って上手に説明できるように学ぶ。発表力とフランス語のレベルを向上させる。

授業内容: 日本の習慣、宗教、考え方、音楽、社会、労働や文化など、様々な事柄について、質問し合ったり会話をしたりして、学生が自分の意見を言葉にする能力を向上することを目指した。また、学生自身が選んだ話題について、2～3名のグループで協力して取り組み、フランス語での説明や、演技を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 登録人数が非常に多かったので、2～3名で作ったグループ数が多く、各グループが選んだ話題についての発表に時間を取られてしまった。私としては、もっと掘り下げた内容まで発表に盛り込んで欲しかったが、全グループに平等に発表時間を取ることを考えると難しかった。2年生としては話す力が若干低く、シャイな学生がほとんどだったが、学生同士、昨年からお互いを知っていたので、いい雰囲気の中で発表はうまく出来たと思う。最終的には、話す力、書く力ともに上達しているのが分かった。アンケートでは、「フラ

ンスの文化をネイティブから聞けて、普段の講義ではできない実践的な練習ができたのがよかった」「先生と生徒の距離が近く、とても楽しい授業になった。フランス語をもっと学びたいと思うようになった」「フランス語をふんだんに使って授業をすることで、フランス語に対するイメージが身近になった」という意見があった。パワーポイントの作り方、発表の仕方についても上達したと思う。

リサーチ・発信プロジェクト (ダレン モルガン、火曜日 8:50～10:20)

登録人数:28名

授業目的: フランスの地方や町とその遺産等について知識を得る。海外生活の目的・計画を組み立てる。フランス語で情報を検索して、フランス語で発表する。いろんな側面から総合的にフランス語を上達させる。

授業内容: 1つ目は、学生が興味のある町を決め、インターネットを利用して情報収集した。その結果を、2～3名のグループになり、パワーポイントで発表した。2つ目は、地方の料理や名物、伝統的な祭りなどについて調べ、これについてもグループごとに発表した。フランス語によるプレゼンテーションとクイズ等を通して、正しいフランス語、パワーポイントの作り方と人前での発表の仕方を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 全体的にモチベーションが低い学生が多かった印象がある。うまく発表できたグループもあったが、準備不足、発表の苦手意識からうまく発表出来なかったグループも見られた。学生同士が、作業中に日本語で相談しているのが気になり、フランス語を使うようにと何度か言ったが、最後まで日本語を使っていて残念だった。ただ、フランスの知識が増えたとし、フランス語も上達したと思う。アンケートでは、「フランス語を間違えてもいいから積極的に話そうと思った」「フランス語の文の組み立てが早く出来るようになった。フランス語のキーボードに慣れた」「教員とのコミュニケーションが多いところが良い」「フランスの地域について調べることが中心だったので、自分の行きたい場所や留学についての目標が少しクリアになった」という意見があった。自分で情報収集したことをフランス語でプレゼンテーションすることは学生にとっていい経験になったと思う。

めざせ仏検準2級 (ダレン モルガン、金曜日 14:30～16:00)

登録人数:5名

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 聞き取り、書き取り、または会話を通して、徹底的な練習のプログラムを行った。試験に出る単語と文法のルールをしっかりと学び、日常生活で使うフランス語(熟語、ことわざ等)も勉強した。仏検二次試験の面接の準備、画像の描写の練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生のモチベーションが高く、よい雰囲気での授業を進められたと思う。一般的に、試験対策というと、つまらなくなりがちだが、楽しみながらも試験対策になるような練習を多く取り入れた。話す力、文法力ともに上達しているのが感じられた。毎回違う練習をしたことによって、仏検用の語彙だけでなく、日常でよく使う単語の知識も増えたと思

うし、発言力と書く力も増えたと思う。アンケートでは、「仏検問題の解説がとても分かりやすく、雑学なども含めて楽しく授業してくれるところが良かった。」「とても楽しく飽きない。しっかり学べる。」「楽しみながら学習できる」とあり、良い授業ができたと思う。来期も同じように継続していきたいと思う。

めざせ仏検準1級 (ダレン モルガン、月曜日 10:30～12:00)

登録人数: 5名

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 上記の「めざせ仏検準2級」の授業と同じように、試験に必要な練習を重ねて行った。学生が既に学ぶコツを知っていたので、優先的に会話を通して言語の構造を習得できるようにした。とっさにフランス語が口から出る力を向上するために、聞き取り、言葉遊び、なぞなぞ、即興等の練習を多く行った。また、2次試験対策として、哲学的な質問に論理的に答えられるよう、さまざまな世界観について会話し、大人らしい意見交換が出来たと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数のグループであったが、受講した学生のモチベーションが非常に高かったため、とても内容の濃い授業になったし、とてもよい雰囲気です。授業を進めることができた。仏検のためのフランス語だけでなく、日常会話で使う単語と文法も学んだ。iCoToBa マガジン第2号を授業で活用できた。アンケートでは、「少人数で行われるのがよい。」「学生側が求めるものに対して真摯に答えてくれる点が良い。」という意見があった。

発音サロン (ダレン モルガン、火曜日 12:50～14:20、金曜日 10:30～12:00)

登録人数: 火曜日30名、金曜日17名

授業目的: 基礎の語彙と文法の知識を得る。フランス語は意外と難しくなく楽しい言語だと知ってもらうための授業。上手な発音をするための近道を教える。

授業内容: 練習とゲームを通して、正しい言い方と発音を学ぶ。発音の基本的な構造を習得する。毎回違う話題を選んで、それについて基本的な説明をした後、構造を理解した後で、ペアで実践練習をする。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講者が多く、火曜と金曜の2回に分けて授業を行った。火曜日はとても人数が多く、モチベーションが高い学生もいたが、モチベーションが低い学生もいて、授業中に大きな声でふざけたり、課題をやらない等、授業を進めにくかった。金曜日は、人数が少なめだったが、最初から最後までモチベーションを保てていて、授業もやりやすかったし、上達していると感じた。アンケートでは、「勉強だけでなく、フランスでのタブー等はとても参考になった。週2回参加したい。」「ネイティブの発音が聞ける」「実践練習が多く、体験談などが取り込まれていて面白かった。」「質問がしやすい」「フランス人の性格・考えを知れてよかった」等、全体的に満足度が高い印象がした。iCoToBa への要望としては、「留学生との交流の場を増やして欲しい」「出来れば単位が欲しい」等があ

った。フランス語を楽しみながら学べたと思う。

フランス語クラブ初・中級 （ダレン モルガン、水曜日 12:50～14:20）

登録人数:27名

授業目的:「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行う。

授業内容: 授業の内容については、あらかじめ用意した13のアクティビティを、学生が自由に選んで、その内容をネイティブ教員と一緒に رفتり、グループで行う。語学を学ぶことは楽しいということを再認識してもらえるように努める。フランス語学科の宿題、会話、ゲーム、フランス語での映画鑑賞など幅広く対応する。

アンケート結果分析・来期の課題: 登録した学生は多かったが、毎回、人数、参加する学生が違ふ為、1回の授業の中でアクティビティがかなり多数に分かれることがあり、準備や授業中の対応が大変だった。毎回参加した学生は、きちんとやりたい事が出来たと思うし、楽しみながら上達しているのが分かった。アンケートでは、「宿題をサポートしてくれるのが良かった」「和気あいあいとしているのが良かった」「会話中心でネイティブの先生をはなせるところが良い」「ゲームなどをして楽しんで勉強できた」とあり、フランス語クラブの目的が達成できていると思う。学生がフランス語を楽しみ、難しい言語ではないことを感じてもらえたと思う。来期も継続していきたい。

フランス語クラブ中・上級 （ダレン モルガン、木曜日 16:10～17:40）

登録人数:6名

授業目的:「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」という事を意識して行う。

授業内容:学生が何をやりたいかはっきりとした意思があったため、仏検対策、次の留学の準備、フランス語圏で実際に生活するための準備等を行った。

アンケート結果分析・来期の課題:授業の雰囲気もよく、少人数で、学生間のレベルの差はあったが、うまく進めた。少人数だったからこそ、試験対策、留学前の準備など、個人個人へのサポートが出来た。留学後の学生もいたので、その経験なども授業で取り上げ、留学前の学生の興味を引き上げたと思う。モチベーションが高かった。アンケートでは、「各自のペースで学習でき、それに合わせて最適なサポートをしてくれるところがよかった」「先生が上手にフォローしつつ、学生中心の活動をするのでフランス語の自信もついた」「普通の授業と違って気軽に分からないことが聞ける」「他の授業では出来ない学び方が出来た」という意見があった。役に立つフランス語、文化や一般的な情報を得ることができたと思うし、楽しくて充実した授業にすることができた。

フランス語クラブ 前期最終回 (ダレン モルガン)

7月20日(水) 12:50~14:20 (参加16名)

7月21日(木) 16:10~17:40 (参加5名)

フランス語クラブの前期最終日に、調理室を使ってクレープを作った。フランス語で材料を説明したり、伝統的な焼き方などを伝え、楽しく出来たので学生には好評だったと思う。

フランス語ではなそう! (ダレン モルガン、火曜日 14:30~16:00)

登録人数:4名

授業目的: 日常的な出来事について、受講者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。

授業内容: 留学中によく使う単語、その目的地について情報収集する。またリアルなフランス語を身につける。留学を経験した学生には、自身の留学経験を分析して、フランスへまた行きたいという気持ちが芽生えるように促す。

アンケート結果分析・来期の課題: 非常に人数が少なく、学生間のレベルの差が大きかったし、とてもシャイな学生がいたが、全体的にいい雰囲気を楽しみながらフランス語を話すことが出来たと思う。また、少人数だったので、学生が積極的に発言したり、質問したりすることが容易だったと思う。アンケートでは、「毎回違う時事的な内容で新鮮だった。」「インターネットを使って、家でも見られるフランス語の番組を紹介してくれたのがよかった。」「留学帰りの学生の為に、とても役に立つと思うし、フランスの語学学校の授業と似ていてとても為になった」等、学生も楽しみながらフランス語が上達できた授業になったと思う。また、iCoToBaへの要望としては「言語を増やして欲しい」という要望があった。

【スペイン語】

DELE B1対策 / Preparación para el Examen DELE B1

(Sergio Neri, Monday 4th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeeding in the DELE B1 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE B1. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the

completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the may test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

DELE A1対策 他学科 2 年生とスペイン語学科 / Preparación para el Examen DELE A1 para Estudiantes de Otros Departamentos

(Sergio Neri, Monday 5th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeeding in the DELE A1 test to be conducted in May and in November. This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: Since the students from departments other than Spanish have less time of Spanish instruction, more practice was needed for them in order to communicate enough and acquire the skills needed for having a good performance during the test in May. Since the time between the start of the course and the date of the test was only a few weeks, we had to work very rapidly, covering the most important contents and practicing with extensive homework. After the exam, the rest of the course we were working over the weak points that the students thought they had during the test.

読解と討論 1 / Lectura y Conversación・Grupo 1

(Sergio Neri, Tuesday 2nd period)

Objective: The aim of this course is to help students increase their reading skills and their ability to communicate orally. This course was prepared specially for students who had low results in tow parts of the DELE A2 test: reading comprehension and oral interaction

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts compound by short stories that had relation with cultural topics of life in Spain and other Spanish speaking countries. The vocabulary and structures within the text, were according to those of level A2 of the Common European Framework of Reference for Languages.

General Overview and agenda: We connected the reading with oral discussions about the subject of each text, comparing certain aspects of the life described in the text with the students' real life. Emphasis was made on expanding vocabulary and structures, with which students expressed their opinions, feelings and discussed about their real life contexts.

初級スペイン語 A1・クラス1 / Español Básico Nivel A1・Grupo 1

(Sergio Neri, Tuesday 4th period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their 1st year, students need more support in getting the foundation of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

リサーチ発信プロジェクト: グローバル科目 / Metodología y Léxico para

Proyectos de Investigación

(Sergio Neri, Wednesday 3rd period)

Objective: To better understand some research methods, to manage a research project and to acquire certain vocabulary in academic Spanish related to the subject. That will help students to join regular courses in Spanish speaking universities and to conduct research in those countries for their assignments or for their graduation papers.

Course contents: Strategies for choosing a subject of research and how to delimitate it. Types of research approach. Research methods. Research design. Research management. How to design and conduct interviews and surveys, discourse and vocabulary. Data analysis. Discussion. Each topic includes academic vocabulary and discourse analysis.

General Overview and agenda: Students learned some strategies that help choosing a subject for research and delimitating it into feasible objectives, they chose a research method that suited their objectives and made a group research that included interviews and a survey. This proved to be useful because most students did not have a clear idea of what they wanted to research during their study abroad, which was going to start the next semester. Then they learned how to analyze the results of the interviews and how to design a survey accordingly in order to find out if the opinions expressed in the interviews were shared by other Japanese. The

students commented that they had lots of fun in these last two steps of the research. Finally, we learned how to analyze and discuss the results of the surveys.

比較文化研究（比較文化セミナー） / Estudios Culturales

Comparativos

(Sergio Neri, Wednesday 4th period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: Students had very active discussions and showed a high sense of respect and understanding for the culture of the other. That will certainly produce good results when students confront multicultural issues in their future careers.

読解と討論 2 / Lectura y Conversación • Grupo 2

(Sergio Neri, Thursday 3rd period)

Objective: The aim of this course is to help students increase their reading skills and their ability to communicate orally. This course was prepared specially for students who had low results in two parts of the DELE A2 test: reading comprehension and oral interaction

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts compound by short stories that had relation with cultural topics of life in Spain and other Spanish speaking countries. The vocabulary and structures within the text, were according to those of level A2 of the Common European Framework of Reference for Languages.

General Overview and agenda: We connected the reading with oral discussions about the subject of each text, comparing certain aspects of the life described in the text with the students' real life. Emphasis was made on expanding vocabulary and structures, with which students expressed their opinions, feelings and discussed about their real life contexts.

第2 外国語としてのスペイン語 1、他学科 A1 / Español como Segunda

Lengua Extranjera para Estudiantes de Otros Departamentos, Nivel A1

(Sergio Neri, Thursday 5th period)

Objective: This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program. The aim of this course is to help students develop a level of Spanish that enables them to join other courses of iCoToBa addressed to students

of the Spanish specialty. Since the former have less time of Spanish instruction, more practice is needed for them in order to communicate with the students of Spanish department.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: The level of the students were very different on person to person basis, as consequence of this the results were mixed. Some students were motivated enough that they were frequently found in iCoToBa talking in Spanish with students of the Spanish department, their communication was effective. But the results on other students were more limited and they were not able to sustain conversation in Spanish with other students. More work needs to be done in order to find possible answers to this disparity.

初級スペイン語 A1・クラス 2 / Español Básico Nivel A1・Grupo 2

(Sergio Neri, Friday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their their 1st year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

スペイン語圏世界とグローバリティ1 / El Mundo Hispánico y la Globalidad

(Sergio Neri, Monday 4th period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization: Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa,

Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief description of phenomena and processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: Topics were covered in a general but solid manner, with simple, easy to understand terms for students who have completed the level B1 and above. These terms, despite being simple, are used in university education in Spanish-speaking countries. This can be useful for the students aiming to study in Hispanic countries and for those who will make a research in Spanish.

【ドイツ語】

日本紹介 Japanbotschafter (シュトラール美保、月曜日 3 限)

授業目的: ドイツ語圏で日本について話すことを想定したクラス。自国日本について考える機会を与え、一緒に考察をする。授業はドイツ語で行い、考察内容の発表やまとめをドイツ語で行うことを通じてドイツ語の向上も目指す。

授業内容: 日本の特徴は何なのか、食文化や、しきたり、世界でも独特な宗教観等、改めて考えることがないようなテーマを取り上げ、話し合いや考察を繰り返すことにより自ら自分の言葉で説明ができるようにする。テーマによってそれぞれの課題をこなす。

アンケート結果分析・来期の課題: 今期初めての担当となり、前任者のシラバス等を参考に授業を組み立てた。少人数でコミュニケーションもとやすい分全体の雰囲気も良く、進め方や内容について良い評価となった。この授業では、取り上げるテーマについて自ら調べて発表する機会が多いので、学生達は積極的に参加し取り組んでいたが、来期は発表内容や知識の習得だけでなく、効果的なプレゼンテーションの内容や話し方にも言及していきたい。

ドイツ日常語と実践会話 (Martin Niers、木曜日 1 限)

授業目的: 1 年生向けのクラスで、基本的なドイツ語を身につけるための語彙や、ドイツ語特有の発音及びリズムなどを習得し、反復練習を行うことで、実践的な会話ができるようになること。

授業内容: 基本のドイツ語を習得するために、パートナーと数を数えたり簡単な会話をしたり、繰り返して練習する。自己紹介やパートナーとの練習、教壇に立って発言する機会も取り入れた。一人称だけでなく、二人称、三人称と言い方を変えたり、遊びを取り入れたりしながら学習を行った。一つのモデルケースに対して、様々なバリエーションを用いた練習を行った。家族をテーマにして、それぞれがドイツ語で説明する時間を設けた。本物のユーロ硬貨を用い、ドイツのスーパーの広告を見ながら買い物をするという実践的な練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 基本的なドイツ語を身につけられるように興味を喚起し、自分自

身の言語で説明できるようにする。DVD を見ながらの発音練習を積極的に行う。食べ物や住まい方などの文化についても紹介する。CD や講師の朗読により、ヒアリングを強化する。ドイツのポップスなどのビデオを見て、興味を促す。ドイツという国についての紹介もする。

リサーチ発信プロジェクト - Forschungs- und Präsentationsprojekt

(Martin Niers, 木曜日 2 限)

授業目的: 様々なテーマを提示し、それぞれをプレゼンテーションができるだけのドイツ語力を身につける。

授業内容: 様々なケースでの外国人の生活について、写真やプロフィールを見ながらプレゼンテーションする。余暇の過ごし方について説明する。好きなイベントを紹介する。旅のお土産について話す。人の性格や特徴について詳しく説明する。一つの国について、あらゆる角度から人に紹介する。映画祭を紹介する。モハメッド・アリについて説明する。EU 映画祭 (東京) についての紹介。ライプツィヒという街についてプレゼンテーションする。ドイツのミュージシャンについて語る。

アンケート結果分析・来期の課題: まずは簡単なテーマを人に説明することから始めて、ゆつくりと難易度をあげて、それぞれのテーマについて要点をまとめてプレゼンテーションができるようにする。最初は一人称で説明を始め、徐々に人の意見を他の人に説明できるようにしていく。厳格にやり方を決めた課題も与えつつ、テーマから自分で考える自由な課題も用いることで、説明する力を身につけさせる。また、自分自身の発言について、良かった点や改善すべき点を挙げさせたり、他の生徒の発言についても同様に、良い部分や改善できる部分を列挙することで、相互にレベルアップをはかる。

比較文化セミナー Deutsche Kultur Auslandsstudiumsbetreuung

(Frank Schäfer, Friday 1st period)

Objective: This class is taking a closer look at German culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at both returnee students and students who have not (yet) been abroad. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: The class aims at taking students with higher than average ability in German - for example due to an extended study period abroad- and to allow them to improve their language skills even further. The content featured debates about social issues in Germany and Japan such as the changing family, personal relationships, internet dating, the nature of love, as well as discussing job prospects, exploring personal job preferences, creative business concepts and many other engaging subjects.

General Overview and agenda: Rescheduling the class proved tricky after the extracurricular departure of Morten Hunke. However, in the end a slot could be found that 2 students a week could make with admirable consistency. The students felt their motivation had increased and thought the course met its aims (4.5 out of 5 points).

【中国語】

リサーチ・発信プロジェクト（顧 令儀、月曜日 1 限）

授業目的:グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決する)に必要な能力や方略を学ぶ。

授業内容:学生たちに先ずブレインストーミングにより関心のテーマを決めてもらい、そのテーマに対して如何なる調査をすれば良いということを討論させ、実際に調査を行ってから、学期末に調査結果を発表した。受講者は中国の年中行事をテーマにし、参考書やネット資料を参考にしながら、発表用原稿を作り、多くの中国学科学生の前で発表した。

アンケート分析・来期の課題:「本を読むのが楽しくなった」「発表の仕方が進歩した」「中国語で積極的に話したい、伝えたいと思うようになった」等の点で学生から良い評判を受けている。また調べる能力や、問題提起能力などの面で学生は力が付いたと思われたことから、講義の目的はほぼ達成した。ただ計画的に日程を管理するところはやや弱いので、今後の講義でこの点においてももう少し力を入れたいと思う。

中国と日本の比較文化（顧 令儀、月曜日 3 限）

授業目的:学生たちの興味がある分野を選んで、スライドを使いながら、中国の文化を紹介し、日中文化を比較しながら、異文化理解を身に付けることが目的である。

授業内容:中国の南北文化の違いや食文化および年中行事などの写真や説明図をスライドで見せながら、中国語で説明を行い、日本との違いを学生に話してもらい、両国の文化を比較することによって学生の理解を深めた。

アンケート分析・来期の課題:授業の内容は学生と相談した上で決めたもので、学生たちは興味を持ち、積極的な姿勢を示してくれた。パワーポイントが分かりやすく、料理実習もあったため、受講者からは良い評判を得ることができた。また、「専門授業では習わない中国文化について詳しく知れた」や「友達と中国の面白い文化について話した」などの評価から、講義の目的をほぼ達成したと思われる。不足点としては受講者が少なく、学生からも「みんなに参加してほしい」という声が出たので、来期はもっと宣伝に力を入れるべきだと思う。

実践中国語(聴解と会話)（顧 令儀、月曜日 4 限）

授業目的:中国のテレビ番組を学生と一緒に見て、その内容を学生に確認し、学生に各自の感想を発表したり全員で討論したりすることによって、聴解力と会話を高めることを目的とする。

授業内容:中国での人気番組「缘来非诚勿扰」や中国映画「非诚勿扰」を見て、実際の生活の中で使われている中国語を学生に聞かせ、その内容について中国語で討論を行った。

アンケート分析・来期の課題:受講者全員が「聴解力」がアップしたと評価した。また「楽しくおしゃべりしながら中国語が身につく」「おもしろく実際に使える表現や単語」で良い評判を

受けている。ただ、授業外での学習や実践があまりなさそうで、今後はこの授業がより一層学生に中国語に対する興味を引き出して、授業外でも自主的に中国語を勉強するように工夫することが必要と思われる。

複文トレーニング (顧 令儀、火曜日 3 限)

授業目的: 複文に関わる接続詞を勉強し、より複雑な中国語を使える能力を身に付け、苦手な表現を克服することをこの授業の目的とする。

授業内容: 日常生活に使われる中国語の接続詞の意味と使い方、そして注意点を紹介し、似たような接続詞と比較しながら、様々な練習を繰り返す。学期末には習ったすべての接続詞を使って作文を行うことによって、接続詞の復習と整理を一層強化した。

アンケート分析・来期の課題: 受講者は少人数だったので、学生と相談しながら、学生の苦手なところを徹底的に説明し、トレーニングをしてきた。学生からも「文法の細かい違いが分かり、中検2級の対策にもなった」「前より文と文の関係がわかるようになった」という評判から、この授業は目的をほぼ達成したと思われる。ただ中国語を上達させるには、複文は避けて通れないところで、今後はより多くの学生が受けることができるように時間の調整を考えて授業を設定する必要があると思われる。また、学生から「難しい単語が多い」と言われたので、今後はもっと身近な単語で授業を進めて生きたいと思う。

発音特訓講座 A、B、C、D、E、F (顧令儀、水曜日 9:35～10:20、12:50～13:35、

金曜日 8:50～9:35、9:35～10:20、10:30～11:15、11:15～12:00)

授業目的: 中国語発音の基礎となる声調や、日本人にとっての発音の難点をクリアし、安定した正しい発音を身につけることを目的とする。

授業内容: 基本的な発音注意点を教えてから、ゲームをして、学生が気楽に発音できる環境を作り、一人一人に発音させ、それぞれの問題点を直す。またピンインで中国語の短文や詩を読ませることで、中国語の発音を馴染ませた。

アンケート分析・来期の課題: 「あいまいだった中国語の発音がよくなった」、「発音するときに、特に何に留意すべきか良く理解できました」と学生の満足した声がよく見られる一方で、「もうすこし授業時間を伸ばして欲しい」、「上級生向けの発音講座が欲しい」などの意見もあった。確かに 45 分でちょっと短くて、学生の興味を引き出して、ちょっと練習すればもう終わるというパターンに陥り、今後は一時間の設定で講義を設計していく必要があると思われるが、現実的に難しいところもある。限られているコマ数の中で、時間を延ばすと、必然的に一クラスの人数が増えて、練習が減る。今の状況でレベルほぼ同じで少人数のクラスだからこそ、学生も積極的に参加できたと思うので、今後は少人数のまま授業する予定である。また、上級生向けの「発音と朗読」の授業を後期に開設予定である。

中検2級対策 (顧 令儀、水曜日 2 限)

授業目的: 中検 2 級を受ける学生向けに、中国語検定試験 2 級対策の授業で、中検 2 級を

合格させることを本講義の目的とする。

授業内容: 学生に対して、事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくるように指示したので、授業するまでに、学生の問題点を把握して、授業中は学生にとっての難点を集中的に説明し、練習をした。

アンケート分析・来期の課題: この授業で、学生からも文法力や語彙力が上がって、「中国語の長文を読むときに、しっかり文の本質を見抜く、というような中国語読解の基本が身についた」などの評価があったため、学生の言語能力向上に繋がったと思われる。ただ授業の復習を十分行っていないようで、今後は宿題を出して、授業外の自主努力を促進することが必要と思われる。

中国語で日本を紹介する (顧 令儀、木曜日 3 限)

授業目的: 日本の生活や文化を中国語で紹介することによって、中国語学力やプレゼンテーション能力のアップを目指すことを本授業の目的とする。

授業内容: 受講者は4人であり、2つのチームに分かれ、それぞれのテーマについて調べ、中国語で報告書を作り、学期末に中国語で発表した。テーマは学生と相談した上で決め、1つチームは日本人の一生の行事について発表し、もう1つのチームは日本人の恋愛と結婚について発表を行った。日本の魅力を中国人に知ってもらい、日中文化の差異を中国人に伝えたいという学生の要望からこの2つのテーマに至った。

アンケート分析・来期の課題: 学生たちは目標を持っているので、積極的に授業に取り組んでいた。学生からは「中国語の文章を書く力、パワポ作成能力、プレゼン能力」が進歩した、「プレゼンをすることで、中国語を話す機会が得られる」などの評価があった。しかも、文法、作文力や語彙力がアップしただけでなく、日本の文化について改めて知れたこともたくさんあった。しかし、この授業にも課題が残されている。それは実践的会話があまり多くなかったという点である。今後はできれば中国人の留学生にも協力を依頼し、実際に授業の内容を留学生に話す機会を作る必要があると思われる。

慣用句でリアルフレーズ (顧 令儀、木曜日 4 限)

授業目的: 日常生活によく使われている慣用句を理解し、使えることを目的とする。

授業内容: 日常生活によく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、その慣用句に纏わる物語や歴史背景を紹介することによって、学生の記憶を深めた。また、毎回必ず復習の時間を設け、状況や場面を出して、学生に慣用句を使わせて、練習を繰り返した。

アンケート分析・来期の課題: 少人数のクラスで、慣用句は多くの物語や風習などの文化的な要素が含まれていたため、学生たちは積極的に取り組んで、楽しい授業となった。学生から「より実用的な中国語が身についた。また中国人の習慣や性質も知ることができた。」「伝えたいことを表現する力がついた」という評価があった。毎回みんなで楽しくクイズや例文を出して授業を進めることによって慣用句が印象に残りやすかったため、学生から高い評価を得ている。ただ授業外の自主勉強が足りないようで、今後は授業外でも勉強させるように努力したと思う。

3.2. 2016 年度後期開講授業

【英語】

Global Leader (Fern Sakamoto, Monday 2nd period)

Objective: To learn vocabulary related to world issues.

To further understanding of and ability to think critically about global issues.

To be able to express ideas clearly and participate actively in a discussion.

To gain leadership confidence and experience.

Course contents: This class was student-focused, with students taking turns to prepare and lead a class and discussion related to a world issue of their choice. Students developed management, presentation, critical thinking and communication skills while furthering their understanding of world issues and broadening their English vocabularies.

General Overview and agenda: This class was attended by students from a range of departments and grades. Attendance was problematic, however when in the class all students participated actively in discussions and prepared carefully when leading. Students were able to express their opinions and hold relatively in-depth discussions on a number of topical themes. Survey results showed that all students felt they had achieved the aims of the course. Students appreciated the extended discussion opportunities that the class afforded and felt that their abilities to formulate and express their own opinions on a range of matters had improved as a result of the course.

One-minute Speech (Fern Sakamoto, Monday 4th period)

Objective: To gain confidence speaking in front of an audience.

To be able to deliver clear, interesting, effective speeches.

Course contents: Each class focused on one speech writing/presentation skill. Students practiced short individual and pair tasks related to the skill and then applied what they had learned to write and deliver short speeches. The course culminated in the composition, practice and final presentation of one longer speech by each student.

General Overview and agenda: Attendance in this class initially fluctuated a great deal, but a core group of students remained dedicated throughout and delivered high-quality speeches at the end of the course. The small class size was brought up by students on the surveys as both a positive and a negative aspect of this class. Students felt that they were successful in learning how to construct quality speeches, and appreciated the chance to practice regularly in front of the class. Student feedback in the final class indicated that their confidence in speaking publicly in English had improved through this course.

J-Ambassador (Fern Sakamoto, Tuesday 2nd period)

Objective: To reflect critically upon Japanese culture, identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.
To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a video project, where students put together a video introducing one aspect of Japanese culture for viewing by exchange students within the university.

General Overview and agenda: This class had just three students, but all students were committed to the class and were able to build a good class dynamic. Survey comments indicate that students felt that they had achieved the course aims of becoming more able to introduce Japanese culture in English and were challenged to think more about their own culture.

The Global Food Industry: What are we eating?

(Fern Sakamoto, Friday 2nd period)

Objective: To broaden awareness of world issues and consider implications for Japan.

To develop critical thinking skills and practice exchanging opinions in English.

To improve English listening and discussion skills.

Course contents: Students watched documentaries and considered a range of issues including food prices, safety, labelling, distribution and sustainability. Students researched and recorded a short Youtube video about one food issue in Japan.

General Overview and agenda: This class was small with only five students. Attendance was consistent however, and a good camaraderie soon developed between students. Students expressed a high degree of satisfaction with the course, enjoying studying through English rather than focusing on the language itself. Students felt their problem-solving skills and global awareness had improved as a result of the course. They did not feel that their specific language skills had improved a great deal, but this was not an aim of this course.

Student Collaborative Project (Atsumi Miyatani & Fern Sakamoto, Wed. 4th period)

Objective: To improve communication skills and communicate effectively with teammates and company representatives.

To develop problem-solving and management skills.

To consider different cultures and how to communicate effectively with them.

To learn written and spoken presentation skills and deliver polished articles and presentations.

Course contents: Students researched and learned techniques for interviewing and fieldwork, then applied those in a field trip to gather information about one local business. Students identified target audiences and promotional concepts, then crafted articles in a range of languages to promote the businesses to domestic and international audiences. The course culminated in a presentation of results to company representatives.

General Overview and agenda: The workload in this class was quite heavy and the schedule was

tight. At the time of writing students were making good progress on their articles and presentation preparations. Student survey comments indicated that students recognized the usefulness of this course and felt that they were developing a range of different skills (eg. information literacy, communication skills, international outlook, team work). This class often ran over time and student comments indicated their desire for teacher to finish within the allotted period.

Survival English (Fern Sakamoto, Thursday 1st period)

Objective: To develop effective communication strategies for dealing with new situations.

To gain confidence using English to communicate.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each unit students looked at a different social situation that they might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. There was a lot of role-play and speaking practice time in this class.

General Overview and agenda: This class was popular among first grade students and though there were some problems with attendance (which students attributed to the first period scheduling), a fairly consistent number of students joined the course each week. Survey responses indicate that students enjoyed this course and all felt that the class increased their motivation for learning. Many students commented that they enjoyed the free conversation at the start of each class and the realistic roleplay activities.

TED Talks (Fern Sakamoto, Thursday 4th period)

Objective: To enhance listening skills and get used to a range of accents.

To broaden awareness of world issues.

To enhance critical thinking skills and practice exchanging opinions in English on a range of topics.

Course contents: Each week students watched one TED Talk and discussed the topic it raised. Students used audio scripts to navigate spoken academic language, learn new words, and gain familiarity with English spoken in a range of accents. In the latter part of the course students chose their own TED Talk, and prepared and led the class based on their talk.

General Overview and agenda: This class attracted a small but consistent group of students and the classroom dynamic was relaxed and positive. Students commented in the surveys that they felt their speaking and listening skills had improved as a result of the class, but the numerical response indicating the level of language improvement was not so high, suggesting some uncertainty on this point. Students may have expected to learn more specific language forms, which were not actually a goal of this course.

Word Power (Fern Sakamoto, Friday 3rd period)

Objective: To learn about online spaced repetition software and develop an effective autonomous learning practice.

To acquire (at least) 350 new vocabulary items and be able to use them in conversation.

To gain confidence and fluency in everyday conversation on a range of topics.

Course contents: Each lesson focused on a different theme, and students were required to learn set vocabulary and words of their own choosing related to the topic in advance of the class. Class time was spent in games and activities to further encourage word retention and discussion activities to practice using the words they had learnt in context.

General Overview and agenda: A small number of students regularly attended this class and most students made an effort to learn the new words and prepare for class. Students felt that the goals of the course were easy to understand and that they had achieved those goals. They did not all feel that they had learned language-learning methods through the course though, which is unfortunate as this is actually one of the goals. This course introduced some ways to learn vocabulary but left the decision of which style to employ up to students. A number of students did not actually try any of the methods suggested. It seems desirable to allow students to study using the tools most effective for them, but it may be useful to give focused guidelines to help students really experience the different learning methods at the beginning of the course before asking them to choose the style most suited to them.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World

(Brett Hack, Monday 2nd period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This class had a solid number of strong students all from the International Cultural Studies Major, all in their first year. The competitive “game show” aspect was successful, since the students already knew each other. Survey results showed that students appreciated the chance to talk independently in groups. The choices for the presentations this semester were intriguing, and the presenters utilized many different strategies to generate audience interest.

Research Project and Presentation (Brett Hack, Tuesday 3rd period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This class had the smallest student number for all semesters of teaching this course; only three students participated. However, this small number enabled the teacher and students to work closely together. Consequently, the students fully absorbed the English presentation style and strategies taught in the course. The students were highly motivated to succeed on their project, as well as to use English in their group work. Survey results showed that the students also felt that they could apply what they learned.

Get Good at Speaking 1 (Brett Hack, Tuesday 5th period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This class combined methods from 3 previous iCoToBa conversation classes – English Improv, Group Discussion, and Conversation Coach – into one course. The course featured a rotating series of units on group discussion, flexibility and quick response, and free talk.

General Overview and agenda: This class had a steady and regular attendance from students, so the rotating structure of the course was able to be carried out smoothly. Many of the students in this class were a little shy, making the quick response sections a little difficult at first. However, by the final quick response lesson, almost all students had made improvements in spontaneity and creativity. Survey results praised the types of games played in class, although a few responses indicated a desire for more free talk time.

Get Good at Speaking 2 (Brett Hack, Wednesday 3rd period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This class combined methods from 3 previous iCoToBa conversation classes – English Improv, Group Discussion, and Conversation Coach – into one course. The course featured a rotating series of units on group discussion, flexibility and quick response, and free talk.

General Overview and agenda: The class quickly understood the rotating structure and thus became more adapt at cultivating the skills trained. Although student absences were a problem, as with all Wednesday afternoon courses, the regular participants were able to improve their skills and develop personal friendships. The students in fact showed satisfaction with the small student number, and the ability to speak casually with their classmates.

English: Basic to Basics (Brett Hack, Wednesday 4th period)

Objective: To get practice with basic English grammar and speaking points.

To become comfortable speaking English.

To improve speaking speed and pronunciations.

Course contents: This class featured simple English skills that were studied in high school, but might have been forgotten. Classes alternated between grammar points and speaking functions. The class was a safe space for students still not comfortable with English. All Schools and Departments were welcome.

General Overview and agenda: This class suffered greatly from the Wednesday slot, the class slowly lost out to orientations, standardized tests, and other activities that were scheduled on the same day. The original number of 25 students dwindled slowly. Since the course contained both beginners from departments outside the School of Foreign Studies and 4th non-English majors within it, there were some difficulties in pairing students for activities. However, the more advanced students were very gracious to the newcomers. Some students indicated a desire for more details and examples written on the homework handouts. It might be the case that a class like this requires a pre-written textbook.

Politics, Social Change, and the Japanese 2 (Brett Hack, Thursday 2nd period)

Objective: To develop a critical awareness of Japan's political history and action.

To be able to form opinions on and discuss contemporary social issues.

To learn how to speak authoritatively about politics in English.

Course contents: This class investigated what political consciousness means in the context of Japan. The students discussed both historical events and current social issues. They also developed critical thinking, speaking, and writing skills through a collaborative project in which they formed an argument and action plan about a chosen political issue.

General Overview and agenda: This second class for the Politics, Social Change, and the Japanese course was opened in the second week of the semester, in response to: a) an open slot in my schedule, and b) a special request from students who wanted to take the course but were unable to attend the original 3rd period slot. With only four students, it was of course necessary for the teacher to engage a little more directly in discussion. However, the four participants were excellent, and all that I will write below for the main course applies here as well.

Politics, Social Change, and the Japanese 1 (Brett Hack, Thursday 3rd period)

Objective: To develop a critical awareness of Japan's political history and action.

To be able to form opinions on and discuss contemporary social issues.

To learn how to speak authoritatively about politics in English.

Course contents: This class investigated what political consciousness means in the context of Japan. The students discussed both historical events and current social issues. They also developed critical thinking, speaking, and writing skills through a collaborative project in which they formed an argument and action plan about a chosen political issue.

General Overview and agenda: The students in this class were amazing. They were mainly fourth-year students in the British and American Studies department, although some others were represented as well. Many students had participated in the Global Jinzai program for its full four years, so it was inspiring to see how they applied the skills developed throughout the program to this difficult topic of how to reinvigorate Japanese political culture. Discussions were always lively, and the students showed great enthusiasm, critical-thinking, and creativity. As of this writing, the projects have yet to be completed, but there is every indication that they will be a great success.

Plan a Trip in English (Brett Hack, Thursday 4th period)

Objective: To understand the basics about independent travel.

To learn English vocabulary and phrases related to traveling.

To practice using printed and online materials in English.

Course contents: This is a workshop-style class gave students the chance to plan a trip abroad using English. Students were introduced to useful travel websites and applications, as well as important English words and phrases regarding travel. They practiced essential skills such as booking flights and hotels, reading guidebooks, and planning an itinerary. For a final project, student planned a unique in groups and finally shared the results with other groups.

General Overview and agenda: Student attendance was much more stable in this class than in the previous semester. Unlike the previous semester, the class was mainly composed of first-year students. Consequently, they were a little quieter, but more diligent in both attendance, homework, and participation. For the final trip plan report, I employed a “two-tier” discussion strategy. Each student presented their trip briefly as part of a larger group. After this was completed, students formed pairs and were given a longer time to explain the same contents. As expected, the students showed greater confidence, clarity, and smoothness in the second round. Survey results especially praised the opportunities for group work in the class.

Japan Contents Culture Translation Project (Brett Hack, Friday 2nd period)

Objective: To get practice translating from Japanese to English.

To think about how one culture’s ideas can transfer into another.

To decide what is cool about “cool Japan.”

Course contents: In this class we looked at contemporary Japanese cultural contents - novels, manga, movies, and television. After discussing the contents and themes of these works, we practiced translating them into English. In the final weeks, students formed groups and chose a text to translate fully.

General Overview and agenda: Since this was the second time teaching the class, I adjusted the course structure to improve aspects that seemed lacking the first time. I decreased time for advanced conversation in favor of at least thirty minutes of translation practice. Consequently, the second phase of the final translation projects were done with much more time to spare.

Survey results indicated that many students now feel more confident translating Japanese into English. Some responses also shared how they enjoyed learning how Japanese cultural works are seen from outside Japan.

Global News and You

(Brett Hack, Friday 4th period)

Objective: To learn more about global events.

To connect global events to life and society in Japan.

To gain experience leading a class in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This class had only five participants; consequently the original goal of having a student present and lead the class for all lessons was unfeasible. Therefore, in the second half of the course, after everyone had had their turn, I asked students to send in articles to me. I chose from student selections and led the final classes. This tactic was successful. The lessons with student leaders were very well-done. Although they did not deviate so much from the original style presented on the first day, they exhibited good preparation, and sensitivity in getting the other students to talk.

TOEIC Intensive 1, 2, 3, 4 (寺澤君江、月曜日 10:30～12:00 火曜日 10:30～12:00 水曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート 4 に焦点をあて、公式問題を用いたシャドウイング練習を位置づけた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 効率のよい授業展開が学生には好評であった。授業の中核となる問題傾向の分析を通して、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。リスニング強化に役立ったと報告を受けた。また、各授業の導入に位置づけた単語チェックにより語彙力の向上がみられたようである。本学の学生が苦手とするリーディングパートの時間配分に関しては、実践することにより感覚的に理解できたように思われる。解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。ボキャブラリーチェックを授業の中に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEIC Early Birds 1, 2, New (寺澤君江、火曜日 8:50～10:20)

水曜日 8:50～10:20、金曜日 8:50～10:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。演習を中心に授業を展開した。リスニングとリーディングそれぞれの攻略方法および問題解説に重点を置いた。Early Bird 1 はスコア 800 を目標とし、Early Bird 2 はスコア 900 を目標に内容を設定した。Early Bird New は 2016 年 5 月より始まった新形式 TOEIC テストに対応した内容とした。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題演習により、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。リスニングにおいてはスクリプトを提示してほしいという要望があった。語彙力強化に関しては、学生のニーズに応じることができていた。目標スコアと達成スコアを明確にすることで、学生の意欲が持続された。

Listening for Exams (寺澤君江、月曜日 12:50～14:20)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のためのリスニング力強化

授業内容: 全ての検定試験に対応できるよう、様々な題材を取り上げた。上記の 3 種類の検定試験で出題される英文を用いて、シャドーイング、ディクテーション、内容理解、サマリーなどにより、多面的に学習を展開した。

アンケート結果分析・来期の課題: この講座はチャレンジ精神を喚起することに貢献できていたようである。学生の知的好奇心を刺激するため、オーセンティックな教材を用いたことは効果的であった。リスニング力向上のため、iCoToBa の外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を学生に勧めたい。

Speaking for Exams (寺澤君江、火曜日 12:50～14:10)

授業目的: TOEFL 受験対策

授業内容: 試験のスピーキングパート(インテグレイティッド)の実践演習。スピーキングセッションではリスニング力も必要とされるため、シャドーイング実践を毎時、位置づけた。また、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題による模擬試験を実施することにより、パブリックスピーキングの力を向上させることにつながった。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら授業を展開し、学生は自らの上達を実感することができた。この講座により、TOEFL の問題の解き方のコツをつかめただけでなく、一般的な英語のスピーキング力が向上したと感じる学生が多かった。

Writing for Exams (寺澤君江、水曜日 12:50～14:30)

授業目的: 英語圏留学を目指す学生の TOEFL/IELTS 受験対策

授業内容: 試験のライティングパートの実践演習。IELTS と TOEFL のどちらにも対応できるようにシラバスを編成。受験に合わせ、スケジュールをフレキシブルに変更するなど、学生のニーズに応えるよう努力した。必要に応じて個人セッションも提供した。

アンケート結果分析・来期の課題: 個々の弱点に焦点を合わせながら授業を展開し、学生は自ら

の上達を実感することができた。この講座により、問題の解き方のコツをつかめただけでなく、一般的な英語のライティング力が向上したと感じる学生が多かった。

【フランス語】

フランス語圏なう。 (ダレン モルガン、木曜日 12:50～14:20)

登録人数: 7名

授業目的: フランスの海外県・海外領土やフランス語圏の国へ留学する事について具体的に考え、準備する。具体的なプロジェクトを通して、それぞれの学生が選んだ土地の知識を共有する。フランス語で情報を検索する。フランス語を話す力、書く力、グループワークの能力を高める。

授業内容: 1つ目は、フランスの海外県・海外領土を紹介するためのプレゼンテーションの準備・発表を行った。2つ目は、フランス語圏の国を紹介するためのフランス語の記事を作成し発表を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 登録した7名のうち、最後まで出席したのは4人であり、2名ずつの2グループで作業をした。学生のモチベーションは低くなかったが、もう少し積極的だと更にレベルアップできたと思う。準備中に各グループを回り、フランス語で相談を受けたり、会話する機会を増やそうと努めたが、結局、準備に集中している学生らとフランス語の会話が少なくなってしまったのが残念だった。ただ、2グループとも真面目に準備をし、発表は上手に出来たと思う。アンケートでは、「一人ひとり丁寧に指導しているところが良い」「フランス語に触れる機会を増やせてよかった」「授業の熱心さが良い」という意見があった。また、発表の準備について「どうしても宿題になってしまうので改善して欲しい」という要望があった。自分で調査したことについてフランス語で記事を書く力がついたし、発表する力も向上したと思う。この科目は、グローバル人材指定科目だが、前期に多くの学生が履修したので、後期は履修した学生が非常に少なかった。バランスよく割り振れるような履修システムがあったらよいと思う。

ニッポンなう。 (ダレン モルガン、月曜日 16:10～17:40)

登録人数: 4名

授業目的: 日本の文化や観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語を使って上手に説明できるように学ぶ。

授業内容: 伝統的な日本文化や、現代の少し変わった日本文化について意見を出し合い、情報を共有し、その中から、学生自ら選んだ話題について記事を作成し、発表を行う。また、学生らが書いた記事は、iCoToBa マガジン第3号に掲載した。

アンケート結果分析・来期の課題: これまでは、一般的にグループワークで行ってきたが、登録人数が非常に少なかったため、選んだ話題によっては、グループではなく学生一人ですべての記事を作ることがあった。iCoToBa マガジン第3号には、和菓子、日本料理・食品サンプル、アイドル、オノマトペの4つの記事を掲載した。アンケートでは、「教員と学生との距離が近く、疑

問点や小さな質問等、何でも気軽に聞くことが出来る空気でもよかった」「もう少し人数がいたらもっと楽しいと思う」「少人数だから一人ひとりきちんと見てくれた」という意見があった。また iCoToBa への意見としては「フランス文化のイベントを増やして欲しい」「もっとネイティブ教員が増えて、いつでもネイティブ教員が iCoToBa にいたら会話しに行きやすい」という要望があった。

リサーチ・発信プロジェクト (ダレン モルガン、火曜日 8:50～10:20)

登録人数: 6名

授業目的: フランスの地方や町と、その遺産等について知識を得る。海外生活の目的・計画を組み立てる。フランス語で情報を検索して、フランス語で発表する。いろんな側面から総合的にフランス語を上達させる。

授業内容: 1つ目は、学生が興味のある町を決め、インターネットを利用して情報収集し、その結果をパワーポイントで発表した。2つ目は、1つ目で決めた地方の名物料理について調べ、情報を共有した。フランス語によるプレゼンテーションとクイズ等を通して、正しいフランス語、パワーポイントの作り方と人前での発表の仕方を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 遅刻や欠席が多く、授業に対するモチベーションが全体的に低かった。グループワークだったので、ペアの片方が休むと、もう片方がデータを持っていなかったり、計画通りプロジェクトを進めなかったりして、随時、解決方法を探さなければならず、当初の計画通り進めることが出来なかった。よって、アンケートでは、「授業の初めに、計画をひと通り説明してプリントにして配って欲しかった」「授業プランを最初に決めたらそれに従って進めてほしい、急な変更は困る」という意見が出た。また、参加した学生らは、授業の時間帯が1限ではなかったら良いのにという意見があった。ただ、自分で情報収集したことをフランス語でプレゼンテーションすることは学生にとっていい経験になったと思う。

めざせ仏検3級・準2級 (ダレン モルガン、金曜日 14:30～16:00)

登録人数: 2名

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 聞き取り、書き取り、または会話を通して、徹底的な練習のプログラムを行った。試験に出る単語と文法のルールをしっかりと学び、日常生活で使うフランス語(熟語、ことわざ等)も勉強した。仏検二次試験の面接の準備、画像の描写の練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生のモチベーションが高く、よい雰囲気の中で授業を進められたと思う。一般的に、試験対策というと、つまらなくなりがちだが、楽しみながらも試験対策になるような練習を多く取り入れた。話す力、文法力ともに上達しているのが感じられた。毎回違う練習をしたことによって、仏検用の語彙だけでなく、日常でよく使う単語の知識も増えたと思うし、発言力と書く力も増えたと思う。アンケートでは、「生徒に合わせて、随時、その人に合ったテキスト等を提案してくれるところが良い」「語の説明だけでなく、文化的・社会的背景まで説明してくれるところがよい」「仏文読解力がついた」「ラテン語源の語幹理解がで

きた」とあり、意義がある授業ができたと思う。

めざせ仏検準1級 (ダレン モルガン、月曜日 10:30～12:00)

登録人数: 11名

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 上記の「めざせ仏検準2級」の授業と同じように、試験に必要な練習を重ねて行った。学生はすでによりレベルだったので、優先的に会話を通して言語の構造を習得できるようにした。とっさにフランス語が口から出る力を向上するために、聞き取り、言葉遊び、なぞなぞ、即興等の練習を多く行った。また、2次試験対策として、哲学的な質問に論理的に答えられるよう、さまざまな世界観について会話し、大人らしい意見交換をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 1次試験までは出席率がわりと良かったが、1次試験が終わった後は非常に少ない学生しか出席しなくなったので、もう来なくなった学生が、1次試験に受かったのか受からなかったのか不明である。個人的には仏検対策だけではなく、日常会話で使う、語彙や文法を学べたと思う。iCoToBa マガジンの中にあるゲーム等を授業で活用できた。アンケートでは、「新しい単語や言い回しをたくさん知れた」「仏検対策の問題以外にも、日常生活で用いる俗語表現を知れて、豊かな表現力がついた」「正規の授業ではなかなか学べない、フランス人が日常的によく使う表現を学べてよかった」「学生一人ひとりと話そうとしているところがよかった」「質問しやすい雰囲気よかった」という意見があった。

発音サロン (ダレン モルガン、火曜日 12:50～14:20、金曜日 10:30～12:00)

登録人数: 火曜日11名、金曜日6名

授業目的: 基礎の語彙と文法の知識を得る。フランス語は難しくなく楽しい言語だと知ってもらうための授業。上手な発音をするための近道を教える。

授業内容: 練習とゲームを通して、正しい言い方と発音を学ぶ。発音の基本的な構造を習得する。毎回違う話題を選んで、それについて基本的な説明をした後、構造を理解し、ペアで実践練習をする。

アンケート結果分析・来期の課題: 火曜日は、前期に比べ人数は少なかったが、フランス語やフランスの文化に対して興味があるのがわかり、モチベーションが高い学生が多かった。金曜日は、控えめな学生もいたが、全体的に真面目に授業に参加し、上達していると感じた。アンケートでは、「毎回様々なスタイルで授業を進めていくのが良かった」「人数が少なくて良い」「発音と語彙力がついた」「映像や音楽を用いたり、作文や音読を頻繁に行うところが良かった」「文法など、時には日本語で説明してくれて分かりやすかった」「フランス語だけでなく、フランス社会についても学べてよかった」等、全体的に満足度が高い印象がした。iCoToBa への要望としては、「留学生との交流の場を増やして欲しい」という意見があった。

フランス語クラブ初・中級 (ダレン モルガン、水曜日 12:50～14:20)

登録人数: 6名

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような楽しくて気軽な雰囲気で、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行う。語学を学ぶことは楽しいということを認識してもらえるように努める。

授業内容: 授業の内容については、あらかじめ用意したアクティビティを、学生が自分のレベルに合わせて自由を選んで、その内容をネイティブ教員と一緒にいたり、グループで行う。フランス語学科の宿題、会話、ゲーム、レシテーション大会の練習など幅広く対応した。

アンケート結果分析・来期の課題: 登録した学生は前期に比べだいぶ少なかったが、最後まで授業に参加した学生は更に少なく残念だった。しかし、マンツーマンに近い状況になり、フランス語で会話する機会が多く、中身の濃い授業になったと思う。最後まで参加した学生は、フランス語を楽しみながら確実に上達しているのが分かった。アンケートでは、「普段の授業では知ることができないフランスの文化についての知識を知れた」「円滑にコミュニケーションをとるための表現や言い回しの知識を多く得れた」「説明がとても分かりやすく、言語としてのフランス語だけでなく、文化や生活にも触れてくれるので、とても面白く飽きない」「映像、ゲーム、会話、作文など、様々な媒体、方法を通してフランス語に触れることができてよかった」とあり、フランス語クラブの目的が達成できていると思う。

フランス語クラブ中・上級 (ダレン モルガン、木曜日 16:10～17:40)

登録人数: 3名

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」という事を意識して行う。語学を学ぶことは楽しいということを再認識してもらえるように努める。

授業内容: 学生が何をやりたいかはっきりとした意思があったため、DELTA 対策、会話、動画や文章を読んで議論、iCoToBa マガジン第3号の記事作成などを行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数で授業の雰囲気もよく、留学後の学生らだったので、レベルも高く、内容の濃い授業が出来たと思う。学生らは、会話や議論を通して、フランスの文化や語彙も増え、レベルアップしたのがはっきりと分かった。学生のモチベーションが高かったため、作成した iCoToBa マガジンの記事の内容も素晴らしいものになった。アンケートでは、「他の授業では学べない“生きた”会話表現が学べてよかった」「会話中心で、“学習”という思いイメージがないところがよかった」「様々な学習方法を知れた」「フランス人の考え方、フランス人を知るための授業を取り上げて欲しい」という意見があった。役に立つフランス語、文化や一般的な情報を得ることができたと思うし、フランス語クラブの目的が達成できていると思う。

フランス語ではなそう！ (ダレン モルガン、火曜日 14:30～16:00)

登録人数: 5名

授業目的: 日常的な出来事について、参加者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。

授業内容: 留学で学んだフランス語を思い出しながら、それをベースにさらに流暢に話せるようレベルアップする。自身の留学経験を分析して、フランスへまた行きたいという気持ちが芽生えるように促す。

アンケート結果分析・来期の課題: 人数が少なかったが、留学後の学生らで、皆フランス語で会話ができ、とても良い雰囲気です。授業を進めることができた。全体的にフランス語に積極的な学生で、楽しみながらフランス語を使うことが出来たと思う。アンケートでは、「少人数でよかった」「フランス語だけでなくフランスの文化も同時に学べてよかった」「文法以外のフランスの雑学が増えた」「わかりやすく、日常会話を思い出せてよかった」等、学生も楽しみながらフランス語が上達できた授業になったと思う。

【スペイン語】

スペイン語圏世界とグローバリティ 1 / El Mundo Hispánico y la

Globalidad

(Sergio Neri, Monday 4th period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization: Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa, Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief description of phenomena and processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: Topics were covered in a general but solid manner, with simple, easy to understand terms for students who have completed the level B1 and above. These terms, despite being simple, are used in university education in Spanish-speaking countries. This can be useful for the students aiming to study in Hispanic countries and for those who will make a research in Spanish.

読解と討論 1 / Lectura y Conversación • Grupo 1

(Sergio Neri, Tuesday 2nd period)

Objective: The aim of this course is to help students increase their reading skills and their ability

to communicate orally. This course was prepared specially for students who had low results in two parts of the DELE A2 test: reading comprehension and oral interaction

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts compound by short stories that had relation with cultural topics of life in Spain and other Spanish speaking countries. The vocabulary and structures within the text, were according to those of level A2 of the Common European Framework of Reference for Languages.

General Overview and agenda: We connected the reading with oral discussions about the subject of each text, comparing certain aspects of the life described in the text with the students' real life. Emphasis was made on expanding vocabulary and structures, with which students expressed their opinions, feelings and discussed about their real life contexts.

初級スペイン語 A1・クラス 1 / Español Básico Nivel A1・Grupo 1

(Sergio Neri, Tuesday 4th period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their first year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

リサーチ発信プロジェクト: グローバル科目 / Metodología y Léxico para

Proyectos de Investigación

(Sergio Neri, Wednesday 3rd period)

Objective: To better understand some research methods, to manage a research project and to acquire certain vocabulary in academic Spanish related to the subject. That will help students to join regular courses in Spanish speaking universities and to conduct research in those countries for their assignments or for their graduation papers.

Course contents: Strategies for choosing a subject of research and how to delimitate it. Types of

research approach. Research methods. Research design. Research management. How to design and conduct interviews and surveys, discourse and vocabulary. Data analysis. Discussion. Each topic includes academic vocabulary and discourse analysis.

General Overview and agenda: Students learned some strategies that help choosing a subject for research and delimitating it into feasible objectives, they chose a research method that suited their objectives and made a group research that included interviews and a survey. This proved to be useful because most students did not have a clear idea of what they wanted to research during their study abroad, which was going to start the next semester. Then they learned how to analyze the results of the interviews and how to design a survey accordingly in order to find out if the opinions expressed in the interviews were shared by other Japanese. The students commented that they had lots of fun in these last two steps of the research. Finally, we learned how to analyze and discuss the results of the surveys.

比較文化研究（比較文化セミナー） / Estudios Culturales

Comparativos

(Sergio Neri, Wednesday 4th period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: Students had very active discussions and showed a high sense of respect and understanding for the culture of the other. That will certainly produce good results when students confront multicultural issues in their future careers.

読解と討論 2 / Lectura y Conversación • Grupo 2

(Sergio Neri, Thursday 3rd period)

Objective: The aim of this course is to help students increase their reading skills and their ability to communicate orally. This course was prepared specially for students who had low results in tow parts of the DELE A2 test: reading comprehension and oral interaction

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts compound by short stories that had relation with cultural topics of life in Spain and other Spanish speaking countries. The vocabulary and structures within the text, were according to those of level A2 of the Common European Framework of Reference for Languages.

General Overview and agenda: We connected the reading with oral discussions about the subject

of each text, comparing certain aspects of the life described in the text with the students' real life. Emphasis was made on expanding vocabulary and structures, with which students expressed their opinions, feelings and discussed about their real life contexts.

初級スペイン語 A1・クラス 2 / Español Básico Nivel A1・Grupo 2

(Sergio Neri, Thursday 4th period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their their 1st year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

DELE A1 対策他学科2年生とスペイン語学科 / Preparación para el

Examen DELE A1 para Estudiantes de Otros Departamentos

(Sergio Neri, Thursday 5th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeeding in the DELE A1 test to be conducted in May and in November. This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: Since the students from departments other than Spanish have less

time of Spanish instruction, more practice was needed for them in order to communicate enough and acquire the skills needed for having a good performance during the test in May. Since the time between the start of the course and the date of the test was only a few weeks, we had to work very rapidly, covering the most important contents and practicing with extensive homework. After the exam, the rest of the course we were working over the weak points that the students thought they had during the test.

第 2 外国語としてのスペイン語 1、他学科 A1 / Español como Segunda Lengua Extranjera para Estudiantes de Otros Departamentos, Nivel A1 (Sergio Neri, Friday 4th period)

Objective: This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program. The aim of this course is to help students develop a level of Spanish that enables them to join other courses of iCoToBa addressed to students of the Spanish specialty. Since the former have less time of Spanish instruction, more practice is needed for them in order to communicate with the students of Spanish department.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: The level of the students were very different on person to person basis, as consequence of this the results were mixed. Some students were motivated enough that they were frequently found in iCoToBa talking in Spanish with students of the Spanish department, their communication was effective. But the results on other students were more limited and they were not able to sustain conversation in Spanish with other students. More work needs to be done in order to find possible answers to this disparity.

DELE B1 対策 / Preparación para el Examen DELE B1

(Sergio Neri, Friday 5th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeeding in the DELE B1 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE B1. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the

completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the may test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

【ドイツ語】

日本紹介 Japanbotschafter (シュトラウアー美保、月曜日 3 限)

授業目的: ドイツ語圏で日本について話すことを想定したクラス。自国日本について考える機会を与え、一緒に考察をする。授業はドイツ語(場合によっては日本語も)で行い、考察内容の発表やまとめをドイツ語で行うことを通じてドイツ語の向上も目指す。

授業内容: 日本の特徴は何なのか、食文化や、しきたり、世界でも独特な宗教観等、改めて考えることがないようなテーマを取り上げ、話し合いや考察を繰り返すことにより自らの言葉で説明ができるようにする。テーマによってそれぞれの課題をこなす。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数でコミュニケーションもとりやすい分全体の雰囲気も良く、日本語を織り交ぜることで理解しやすい点が、特に良い評価となった。この授業では、取り上げるテーマについて自ら調べて発表する機会が多いので、学生達は積極的に参加し取り組んでいたと思う。また今期は、発表内容や知識の習得だけでなく、話し方やプレゼンテーションのコツなども少しではあるが伝授、実践できたのではないかと思う。

ミュンスターアフターケア (Martin Niers、木曜日 2 限)

授業目的: 短期留学でミュンスターに行った生徒たちが得た、基本的な言語や文化、ドイツに対する知識等を更に深めて、より自分のものにする手助けをする。

授業内容: 講師が作成したオリジナルのドイツ語練習帳を用い、多くの実用的な内容を学習した。基礎的な文法の練習や文法学習のためのボードゲームも行なった。ビデオを使った聞き取りの練習や読みのトレーニングでリスニング力を高める授業をした。また、文化や国の情報などについても多く話し、語学の授業を受けながら、国の事情をも深く知ることができる授業を行った。

アンケート結果分析: 生徒同士でも積極的にドイツ語で話すように促し、分からないことは何度も説明したことで、リスニング力や会話力がついたとの結果が得られた。また、語彙の不足やもっと複雑な会話をできるようにになりたいなど、生徒の向上心が見られる結果が得られた。

ドイツの文化: 留学ケア (Frank Schäfer, Friday 1st period)

Objective: This class is taking a closer look at German culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at both returnee students

and students who have not (yet) been abroad. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: The class aims at taking students with higher than average ability in German - for example due to an extended study period abroad- and to allow them to improve their language skills even further.

General Overview and agenda: The content featured debates about social issues in Germany and Japan such as the changing family as well as discussing job prospects, exploring personal job preferences and creative business concepts. The class was visited by one student who felt that her ability to express herself in German had improved and her expectations to maintain the proficiency level she had reached during a one-year sojourn at Leipzig University were met.

ドイツ日常語と実践会話 (Frank Schäfer, Friday 2nd period)

Objective: 1. Follow up on Schritte International1 with additional material and special focus on reading and listening comprehension and writing.

2. Improvement of conversational skills based on the previously studied material.

Course Contents: Conversation and writing exercises assisting the acquisition and retainment of the necessary vocabulary and grammar to talk about following topics: Self introduction, greetings, hobbies, describing one's living conditions, food and shopping.

General Overview and agenda:

This course was visited by five students from Sascha Monhoffs German class on Wednesdays and was without exception met with favorable reviews. According to the questionnaire the students enjoyed their time and found that they had improved their ability to express themselves as well as their listening and writing skills.

【中国語】

実践中国語B(聴解と会話) (顧令儀、月曜日 3 限)

授業目的: 中国のテレビ番組を学生と一緒に見て、その内容を学生に確認し、学生に各自の感想を発表したり全員で討論したりすることによって、聴解力と会話力を高めることを目的とする。

授業内容: 中国での人気番組「缘来非诚勿扰」を見て、実際の生活の中で使われている中国語を学生に聞かせ、その内容について中国語で討論を行った。

アンケート分析・課題: 「中国の番組を見ながら、楽しく学べる」「今現在使われている表現を知ることができた」で良い評判を受けている。また「会話能力が上がった」ところから、授業目的は達成したと思われる。ただ、授業外での学習や実践があまりなさそうで、今後はこの授業がより一層学生に中国語に対する興味を引き出して、授業外でも自主的に中国語を勉強するように工夫することが必要と思われる。

複文トレーニング (顧令儀、月曜日 4 限)

授業目的: 複文に関わる接続詞を勉強し、より複雑な中国語を使える能力を身に付け、苦手な表現を克服することをこの授業の目的とする。

授業内容: 日常生活に使われる中国語の接続詞の意味と使い方、そして注意点を紹介し、似たような接続詞と比較しながら、様々な練習を繰り返す。学期末には習ったすべての接続詞を使って作文を行うことによって、接続詞の復習と整理を一層強化した。

アンケート分析・課題: 受講者は少人数だったので、学生と相談しながら、学生の苦手なところを徹底的に説明し、トレーニングをしてきた。学生からも「文法の細かい違いを学べる」「複文のロジックに基づいて正確に文が作れるようになった」という評判から、この授業は目的をほぼ達成したと思われる。また、授業内で文法を習った後に、練習問題で確認することは学生の作文能力に繋がった。ただ中国語を上達させるには、複文は避けて通れないところで、今後はより多くの学生が受けることができるように時間の調整を考えて授業を設定する必要があると思われる。

実践中国語A(作文) (顧令儀、火曜日 3 限)

授業目的: 書き言葉と話し言葉の違いや、固定形式を学び、中国語でメールや日記、エッセイを書くことによって語学力を高める授業である。中検試験の翻訳対策ともなる。

授業内容: HSK試験と中国語検定試験の作文問題を元に、文法や文章の構成を説明した上で、学生に文章を書かせた。学生が書いた作文を添削しながら、その理由を説明した。

アンケート分析・課題: 少人数の授業だったので、細かな指導ができた。学生からも「自分の表現力をみがけた」「作文能力が向上した」との評価を受けた。しかし、如何にして学生の語彙力を増やし、より豊かな表現を引き出すかは課題として残されている。また文法の説明を受けても、その文法を文章の中で活用することがなかなか難しく、練習をたくさんする必要があると思われる。

発音と朗読A・B (顧令儀、水曜日 1 限 9:35～10:20 ; 水曜日 3 限 12:50～13:35)

授業目的: 中国語のきれいな響きを感じながら、文献を声に出して読んでみる。朗読を通じて、よりきれいな発音と中国語の語感をつかむことを目的とする。

授業内容: まず朗読に必要な中国語の語調、ポーズ、アクセントを理論的に紹介し、学生の発音を指導しながら、多くの中国語の文学作品を感情を込めて読む練習をした。

アンケート分析・課題: 学生は真剣に取り込んで練習し、少人数のクラスだったので、徹底的な練習と指導はできたと思われる。「以前より文をつまることなく読めるようになり、発音が良くなった」「発音や表現の仕方」が進歩したという学生の評価を受け、授業の目的を達成したと思われる。またこの授業を受けた学生が日中友好協会のスピーチコンテストや京都外国語大学の日本全国中国語スピーチコンテストおよび愛知大学の江蘇杯中国語スピーチコンテストに積極的に参加し、優秀な成績を獲得した。

中国と日本の比較文化（顧令儀、水曜日 2 限）

授業目的: 学生たちの興味がある分野を選んで、スライドを使いながら、中国の文化を紹介し、日中文化を比較しながら、異文化理解を身に付けることが目的である。

授業内容: 中国の南北文化の違いや食文化および神話伝説などの写真や説明図をスライドで見せながら、中国語で説明を行い、日本との違いを学生に話してもらい、両国の文化を比較することによって学生の理解を深めた。

アンケート分析・課題: 授業の内容は学生と相談した上で決めたもので、学生たちは興味を持ち、積極的な姿勢を示してくれた。パワーポイントが分かりやすく、料理実習もあったため、受講者からは良い評判を得ることができた。また、「中国の文化について理解するとともに日本文化を中国で紹介することができた」や「日本と中国の違うもの、共通なものなどを理解した」などの評価から、講義の目的をほぼ達成したと思われる。学生からも「こういう授業がもっとほしい」という声が出た。

慣用句でリアルフレーズ（顧令儀、木曜日 3 限）

授業目的: 日常生活によく使われている慣用句を理解し、使えることを目的とする。

授業内容: 日常生活によく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、その慣用句に纏わる物語や歴史背景を紹介することによって、学生の記憶を深めた。また、毎回は必ず復習の時間を設け、状況や場面を出して、学生に慣用句を使わせて、練習を繰り返した。

アンケート分析・課題: 少人数のクラスで、慣用句は多くの物語や風習などの文化的な要素が含まれていたため、学生たちは積極的に取り組んで、楽しい授業となった。学生から「慣用句や単語を応用する力が進歩した。」「伝えたいことを表現する力がついた」という評価があった。毎回みんなで楽しくクイズや例文を出して授業を進めることによって慣用句が印象に残りやすかったため、学生から高い評価を得ている。ただ意味が分かっても、実際に使うときに使いこなせるまではまだ練習が必要と思われる。

中検 3 級対策（顧令儀、木曜日 4 限）

授業目的: 一年生および教養外国語で中国語を勉強している学生向けに、中国語検定試験 3 級対策の授業で、中検 3 級を合格させることを本講義の目的とする。

授業内容: 学生に対して、事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくれるように指示したので、授業するまでに、学生の問題点を把握して、授業中は学生にとっての難点を集中的に説明し、練習をした。

アンケート分析・課題: この授業で、学生の過去問成績は 30 点くらい上がり、学生からも文法力や語彙力が上がって、正解率が上がったとの評価があったため、この授業は授業の目的を達成したともいえる。12 月にアンケートを実施した時、人数は登録者数より少ないのは、11 月時点ですでに中検 3 級に合格した学生がいたからである。問題点としては、事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやるように指示したが、やってく

る学生はわずか数人で、学生の予習と復習が足りないと思われる。

発音と初級会話（顧令儀、金曜日 2 限）

授業目的: 問題になりやすい発音を練習しながら、日常生活で使える簡単なフレーズを学習し自然に使えること、そして中国語に対する興味を引き出すことを授業の目的とする。

授業内容: 初級レベルの学生対象の授業であるため、発音を練習し、自己紹介や買い物などの初級の中国語常用文を学習した。クラスをグループ分けして、学生同士での練習を行った。また、練習を楽しませるために、カードや実物を使って授業を行った。

アンケート分析・課題: 学生からは「現実的な言い回し、すぐに現地で使えるフレーズが身についた。」というコメントを受け、内容の実用性が評価されている。また「発音する量が増えた。」「発音の細かい部分が上手くなってきた」という評価から、この授業の発音と初級会話の目的はほぼ達成したと思われる。また学習内容は日常的に役に立つことなので、そういう場面に出くわした時に安心できるという学生の意見もあった。課題として残されていることは、学生はまだプリントの通りにしか言えず、臨機応変に対応する能力が足りない。これは練習時間や学生の語彙量に関わっている問題で、今のところでは最低限のことしか教えられないというのは現実である。

リサーチ・発信プロジェクト（顧令儀、金曜日 3 限）

授業目的: グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決する)に必要な能力や方略を学ぶ。

授業内容: 学生たちに先ずブレインストーミングにより関心のテーマを決めてもらい、そのテーマに対して如何なる調査をすれば良いかということ进行讨论させ、実際に調査を行ってから、学期末に調査結果を発表した。受講者は中国の教育の格差と中国人の恋事情をテーマにし、参考書やネット資料を参考にしながら、発表用原稿を作り、多くの中国学科学生の前で発表した。

アンケート分析・課題: 「中国についてたくさん知れた」「中国の読解力が進歩した」「中国語で積極的に話したい、伝えたいと思うようになった」等の点で学生から良い評判を受けている。また調べる能力や、問題提起能力などの面で学生は力が付いたと思われたことから、講義の目的はほぼ達成した。ただ計画的に日程を管理するところはやや弱いので、今後の講義でこの点においてももう少し力を入れたいと思う。

中国語で日本を紹介する（顧令儀、金曜日 4 限）

授業目的: 日本の生活や文化を中国語で紹介することによって、中国語学力やプレゼンテーション能力のアップを目指すことを本授業の目的とする。

授業内容: 受講者は7人であり、三つのチームに分かれ、それぞれのテーマについて調べ、中国語で報告書を作り、学期末に中国語で発表した。テーマは学生と相談した上で決め、学生は日本料理の魅力、日本の人間関係と日本の「道」と「美」について発表を行った。

日本の魅力を中国人に知ってもらい、日中文化の差異を中国人に伝えたいという学生の要望からこの三つのテーマに至った。

アンケート分析・課題: 学生たちは目標を持っているので、積極的に授業に取り組んでいた。

学生からは「中国語の文章を書く力、パワポ作成能力、プレゼン能力」が進歩した、「プレゼンをすることで、中国語を話す機会が得られる」などの評価があった。しかも、文法、作文力や語彙力がアップしただけでなく、日本の文化について改めて知れたこともたくさんあった。しかし、この授業にも課題が残されている。それは実践的会話があまり多くなかったという点である。今後はできれば中国人の留学生にも協力してもらい、実際に授業の内容を留学生に話す機会を作る必要があると思われる。

3.3. 2016 年度サマープログラム

【英語】

Presentation Contest Class (Fern Sakamoto, September 21 & 23, 9:00-16:00)

Objective: To consider what Japanese culture is, and how to talk about Japan in English.

learn vocabulary related to world issues.

To consider how to present new information clearly and logically and improve written and spoken English skills.

To prepare an individual, pair or group entry to a Japan culture presentation contest.

Course contents: This class ran over two full days. On the first day students considered the nature of culture and what “real” Japanese culture is. Students decided which contest to enter and chose their topic. Students then prepared their presentation outline for homework. On the second day, students shared their presentation outlines, refined their ideas, studied some writing and presentation skills, and prepared a presentation summary to use in their contest entries.

General Overview and agenda: Nine students attended this class, which was a better result than previous summer courses. Students were from a range of departments and were all enthusiastic about practicing English and challenging themselves to enter a national presentation contest. Students worked hard to choose interesting challenging topics and prepare presentation plans and summaries. All students decided to actually enter one or more contest and will continue to meet with the teacher to work on their presentation scripts and delivery. Overall this summer course worked well as an intensive course and seemed to motivate students to stretch themselves and try new things beyond the scope of their regular university classes.

Enjoying English with Kids (Fern Sakamoto, September 28, 09:00-12:00)

Objective: To consider activities to help children learn and practice English.

To try out some English activities and games.

To practice using conversational English.

Course contents: This was a workshop style class. Students brainstormed ideas, and tried out various activities and games suitable for kindergarten, elementary and junior high school students.

General Overview and agenda: Six students enrolled in this course but only three attended. It may be necessary to send reminder emails to student prior to summer courses to avoid this. The three students worked well together and enjoyed trying out English in a range of different activities and games designed for young learners. It was a good way to ease back into speaking English after summer vacation.

Get back in the Groove (Fern Sakamoto, September 28, 13:00-16:00)

Objective: To get back into the habit of speaking in English.

To gain confidence and practice speaking in a friendly low-stress environment.

To gain some new vocabulary.

Course contents: This was a fun afternoon of games and conversation to help students adjust back to using English after a long summer break. Students worked in pairs and as a team to brush up on their conversation skills and learn some new vocabulary.

General Overview and agenda: Four first-year students joined this class, and though some were a little nervous initially, soon relaxed and were able to speak a lot of English in the brief time we had together. This was an enjoyable afternoon to ease students back into English study.

Summer Presentation Workshop

(Brett Hack, August 5, 8,9,19: Periods 2,3,4)

Objective: To understand the structure of an English presentation.

To learn important English phrases and grammar for presenting.

To create a strong personal presence and attract audience attention.

Course contents: This was an informal workshop where students from all departments and schools at Aichi Prefectural University worked on English presentation skills. The workshop lasted four days. It focused on general presentation skills, the parts of presenting in English that are common to all fields and goals. Lessons included presentation structure, voice training, Q&A session strategies, and other useful items. Students applied skills by creating a “before” version of a presentation at the beginning of the course, and then revising it into an “after” version in the final lesson.

General Overview and agenda: This class was open to all majors and departments, and was largely attended by graduate students in the School of Information Systems, all there were a few other students too. However, all students chose to practice by using topics of general interest in their presentations. They were all very studious, and worked hard to absorb the lessons of

the course. While the “English study gap” between the newcomers and the School of Foreign Studies participants was present, it posed much less of a problem than anticipated, and both the lessons and the presentations were carried out convivially. Reports from the School of Information Systems advisors indicated that the students felt that the class was very useful.

TOEIC 新テスト対策 （寺澤君江、9 月 20 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20 14:30～16:00）

授業目的: 新 TOEIC 受験対策

授業内容: 新テスト対策のための授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、グラフや表の問題に焦点をあて、公式問題を用いてシャドウイングや Q&A によりリスニングコンプリヘンションに努めた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、新しい出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、模擬試験の時間を設定した。

TOEIC IP 試験 （寺澤君江、7 月 27 日 12:00～16:30）

授業目的: TOEIC 受験実施

授業内容: 全学部生対象に、TOEIC IP 試験を実施。34 名が受験。受験に対する意欲の喚起を目的とした。

TOEFL Integrated Speaking （寺澤君江、9 月 1 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00 2 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00 12 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00 13 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00）

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験のスピーキングパート(インテグレイティッド)の実践演習。スピーキングセッションではリスニング力も必要とされるため、シャドーイング実践を毎時、位置づけた。また、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題による模擬試験を実施することにより、パブリックスピーキングの力を向上させることにつながった。

IELTS listening and writing （寺澤君江、8 月 5 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00 22 日 8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00、16:10～17:50）

授業目的: 英語圏留学を目指す学生の IELTS 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、2 つのパート(リスニングセッション、ライティングセッション)を集中的に学習する授業を設定した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツにふれながら、演習を位置づけた。リスニングにおいては、学生の苦手とするサイエンス

を題材とする内容を重点的に扱った。ライティングでは、クリティカルおよびインタラクティブに表現する方法が身につくように演習問題にあたった。

【フランス語】

思い出しフランス語 I (集中講義)

(ダレンモルガン A2-B1 8月5日、8日、9日 10:30～12:00 12:50～14:30)

登録人数:3名

授業目的:初・中級レベル向けの授業。前期に学んだ内容の復習。留学前の準備・対策。

授業内容:前期に学んだフランス語の復習、また後期の授業に入れるようサポートする。学生の希望により、留学前の準備対策を行う。

授業の分析:参加者は非常に少なく、1年生2名と、国際関係学科4年生1名であった。また、その中でレベルの差があった。3人とも留学直前ではない学生だったため、留学前の準備対策は行わず、主にゲームをとおして、フランス語の復習を行った。雰囲気もよく、楽しみながら実践的にフランス語を使うことができた。

フランス語で楽しもう！(イマージョンプログラム)

(ダレンモルガン A1-A2 8月11～12日)

登録人数:参加者4名、リーダー2名

授業目的:楽しみながらフランス語をしっかりと使うこと。

授業内容:学生が簡単なフランス語で楽しむ為の時間帯。1日目のスキット練習では、参加した学生4名とリーダー2名が、タレントショーのための準備を行う。また、多言語アワーでは、教員とリーダーが基本的なフランス語を高校生らや他学科の学生を対象に体験授業を行う。2日目は、参加者4名とリーダー2名は、ゲームを通してフランス語を積極的に使う時間を過ごす。多言語アワーでは、いろんな学科の学生向けに教員とリーダー2名でフランス語の体験授業を行う。

授業の分析:今年のイマージョンプログラムは、リーダー2名がとても元気があり、かつ積極的に参加し、フランス語レベルも高かったので、参加者4名(1・2年生)も一緒に明るい雰囲気ですっかりフランス語を学んでいた。タレントショーも、緊張せず、楽しく演じることが出来ていた。参加者もリーダーも、日本語や英語に頼らず、しっかりとフランス語を使い、とても充実した2日間になったと思う。

【スペイン語】

夏休みスペイン語力向上講座(1年生対象) / ¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?

(Sergio Neri, August 5th, 8th, 9th, and 10th. From 10:00 to 11:15 and from 11:30 to 12:30)
(1 hour and 35 minutes per day)

Objective: The aim of this course is to help students develop strategies and attitudes to keep on studying and practicing Spanish during the vocational period in order to avoid forgetting and lowering their level of Spanish.

Course contents: The contents were focused on different strategies to keep on practicing and even learn vocabulary, conjugations, Syntax, pronunciation, and their use.

General Overview and agenda: Students were very participative in different many activities that were evaluated after the period of vacation has ended. A good number of them presented a good evaluation. While some did not fulfilled all of the tasks because they spent more time in other aspects of their lives like working in part time jobs, staying with their families, etc.

3.4. 2016 年度スプリングプログラム

【英語】

Conversation Café (Fern Sakamoto, February 3 12:30-14:35)

Objective: To practice using English acquired this year in conversation.

To gain confidence and practice speaking in a friendly low-stress environment.

To gain some new vocabulary.

To end the year on a positive and increase motivation for the new academic year.

Course contents: This was designed as a fun afternoon of games and conversation to encourage students to apply their linguistic knowledge in communicative activities and to increase motivation for learning English. Students work in pairs and teams to brush up on their conversation skills, learn some new vocabulary and develop their communicative competence.

General Overview and agenda:

This event had not actually been held at the time of writing and registration was still pending.

English for Exams (寺澤君江、12 月 27 日 8:50~10:20、10:30~12:00、12:50~14:20、14:30~16:00、16:10~17:40 17:50~19:20)

授業目的: TOEFL/IELTS 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。短期間の集中的な学習で効果のあらわれやすいリスニングパートとライティングパートを重点的に指導した。公式問題を用いて問題演習の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: パートごとの問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。受験直前対策という状況からか、難解な問題であっても学生の集中力を持続させることができた。授業時、ボキャブラリーチェックを授業に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEIC IP 試験（寺澤君江、1 月 18 日 12:50～16:20）

授業目的: TOEIC 受験実施

授業内容: 全学部生対象に、TOEIC IP 試験を実施。25 名が受験。受験に対する意欲の喚起を目的とした。

【フランス語】

思い出しフランス語 II (スプリング・プログラム)

(ダレン モルガン B2、B2 以上 2 月 6 日 10:30～12:00 12:50～14:20、
2 月 7 日 10:30～12:00 12:50～14:20、
2 月 8 日 10:30～12:00 12:50～14:20)

授業目的: 中級・上級レベル向け。前期に学んだ内容の復習、留学での経験を議論し、フランス語と異文化について分析する。

授業内容: これから再びフランスへ行くための準備、前期に学んだフランス語を復習し、さらにレベルアップする。iCoToBa マガジンを活用して授業を進める。

【スペイン語】

Via Lactea 冬休み短期講座 / Español Práctico

(Sergio Neri, February 6th, 7th, 8th and 9th, and 10th. From 13:30 to 14:45 and from 15:00 to 16:00)
(1 hour and 35 minutes per day)

Objective: This course will prepare students for real life's communication that could be useful in their travel to Spain, Portugal, Mexico and Peru.

Course contents: We see the use of Spanish in everyday life, enacting situations that Japanese students could face during their trip to study abroad. Topics include: What to do and how to talk at airports, customs, buses, trains, hotels, restaurants, how to do paperwork at universities, how to talk to teachers, administrative staff or other students, etc.

General Overview and agenda:

We work with videos of real situations, we discuss different reactions to the use of different expressions, vocabulary and structures. We try to be aware of differences in perception of the context by individuals of different cultures. It's very practical course.

【中国語】

中検3級対策（顧令儀、2月6日～2月8日）

授業目的:3 月の中検試験に備えて、3 級を受ける1年生および基礎的な文法を復習したい2年生向けの授業で、過去問をやることを通して、基礎的な文法と語彙とチェックしながら、学生が中検 3 級試験で合格することを目標とする。

授業内容:事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくるように指示し、授業までに学生の問題点を整理し、授業中では説明と練習を中心的に行う。

4 iCoToBa のイベント

4.1. 2016 年度 iCoToBa 開催イベント

iCoToBa では、本学学生の異文化理解および異文化交流の促進を目的に様々なイベントを開催している。以下、2016 年度に実施したイベントについて報告する。なお括弧内は報告者を示す。

World Pancakes (Brett Hack, Morgan Dalin, Sergio Neri, Gu Ling Yi, Fern Sakamoto)

This event was a combined event organized by iCoToBa teachers as part of iCoToBa Welcome Week activities. It was especially geared towards first grade students, to encourage them to get involved in iCoToBa events and classes. The event was held on Thursday April 14th from 16:10-17:40 and was attended by 103 students from a range of departments within the School of Foreign Studies. For ¥300, students enjoyed the chance to sample pancake variations and beverages from iCoToBa teachers' home countries, and to meet new people and try out their language skills chatting with teachers. The event was very well-received and was a good opportunity to introduce students to iCoToBa events, classes and staff.



留学生歓迎会 春 (岩井美樹)

4月27日(水)に iCoToBa Supporters Club (以下、ISC) 主催で留学生歓迎会を実施した。スペイン、ブラジル、メキシコ、台湾、中国、韓国等からの留学生 15 名を迎え、日本人学生は 66 名参加した。歓迎会是一部の日本人学生にとって留学生と知り合う貴重な機会として認識されており、特に 1、2 年生の参加者が多く集まる。

自己紹介から始め、「箸で豆つかみ」「ジェスチャーゲーム」「フリートーク」「世界の朝ごはんクイズ」を実施し、各国の文化について認識を新たにしつつ、留学生と日本人学生が打ち解けることができた。歓迎会終了後も多くの参加者が教室に留まり、交流を続けた。



Spielmeister ドイツ語学習ゲーム大会 (iContact Sprechstunde)

(Frank Schäfer, every Friday 2nd period and lunchtime in June)

The iCoToBa Sprechstunde was frequented by students having various objectives, ranging from small talk in German, questions about vocabulary and grammar, help with composition and translation of personal projects to assistance with the preparation of the annual Immersion Program. Worthy of special mention was the student-initiated "Spielmeister", an event where students made ample use of iCoToBa's rich collection of German language learning games to improve and review their skills in a playful way.



ASEAN カフェ (寺澤君江)

東南アジア諸国に対する興味関心を喚起することを目的として実施した。第1回は6月15日、第2回は11月25日、第3回は2月1日開催。第1回および第2回は事前アンケートを実施し、学生の東南アジア諸国に対する意識をもとに、テーマを設定した。第1回は「東南アジアの暮らし」をテーマとし、滞在経験のある学生がプレゼンテーション形式で紹介した。第2回は「東南アジアでできる体験や言語学習」をテーマとし、6名の学生が、ディスカッション形式で体験談を紹介した。第3回は「東南アジアの食文化体験」をテーマとし、東南アジアの食文化にふれるワークショップを実施した。



Australian Cooking (Fern Sakamoto)

This event was held on Wednesday June 22 from 12:00-14:20 and was open to all Aichi Prefectural University students for the cost of ¥600 per person. Thirty-eight students registered to participate, with thirty-six actual participants on the day, including foreign exchange students and students from other departments. One student joined as a volunteer, helping with preparation, cooking supervision and cleanup. Attendees worked in groups to follow English recipes and prepare and cook kangaroo hamburgers and apricot delight sweets. Results varied but all groups successfully prepared the meal and enjoyed the opportunity to meeting new people, use English in a low-stress environment and try something new.



ドイツ留学交流会 (四ツ谷亮子)

2016年6月29日、ドイツ語圏専攻の学生に、交換留学を中心に、ドイツの大学で学ぶための情報提供を目的とした、「ドイツ留学交流会(旧名称は「ドイツデー」)」がiCoToBaのラウンジで開催された。自身が留学を控えた3年生が中心となって企画運営をおこなったもので、協定大学(ケルン、ライプツィヒ、テュービンゲン、ミュンスター:短期留学プログラム)への留学経験のある上級生が各ブースに分かれ、各自用意してきたスライドや資料をPC上に示して、

下級生に留學生活の貴重な知恵を伝授した。留學を控えた3年生も、準備の段階で留意した点について積極的にフォローしていた。参加者は1年生20名を含む約30名で、下級生たちは入れ替え制のブースを回りながら、「顔の見える」上級生の体験談に真剣に聞き入っていた。

これまで過去3回にわたって開かれた「ドイツデー」では、教員側から働きかけて、ドイツ関係の外部の機関から演者を招待し、ドイツの文化や大学生活、奨学金等の講演をおこなってもらい啓蒙・広報活動が大きな柱の一つだったが、今回は学生による100%発信型のイベントで、「身近にある」留學生活をひろく知ってもらおうとの意図がより明確になった。会を企画して上級生との連絡を密にとっていた3年生からは、自分たちの出発後に帰国する上級生にも、下級生との縦のつながり作りを継続してほしいとの声が上がっており、今後同様に学年を超えた学生主導の催しが定着していくことが望まれる。



卓球大会（岩井美樹）

6月29日(水)に武道場で開催。留学生7名、日本人学生28名が参加した。

留学生に卓球を体験してもらいながら、日本人学生との交流を深めることを目的としてISCが初めてのスポーツイベントを企画・開催した。チーム別にトーナメント戦を行い、留学生チームが優勝。通常の文化交流イベントとは異なり、体を動かしながらより一層交流を深めることができた。



中国語映画鑑賞会 (中西千香)

前年度に引き続き「ちやい語 de 映画祭」と題して、今年度は二回行った。

第一回 7月6日 マレフィセント 《沉睡魔咒》 13名参加

第二回 12月21日 ズートピア 《疯狂动物园》 6名参加

いずれもディズニー映画であり、学生たちは中国語音声、中国語字幕でみる。

いずれのDVDも中西の私物を利用している。音声字幕ともに中国語、なおかつ、字幕と音声の内容が同じものを選んでみる。例えば、英語圏の映画や韓国ドラマの日本語字幕・日本語音声ではよく見られることなのだが、言っている内容(音声)と書いてある内容(字幕)が異なるのである。意味合いは同じでもまったく表現が異なる語をチョイスして、話が展開している場合がある。音声と字幕がかみ合わないものは、上級者向けではまったく問題ないが、留学をしていない学生もみるのであれば話は別である。教育的価値が下がるというか、難易度がぐんと上がってしまう。

また、映画の台詞は当然、口語である。基本的に子供がみるものとして作られたディズニー映画なので、かなり平易な表現で会話はつながっていくが、それは教科書にでてくるものとはまた異なる。習った文法事項を使って、日本語母語話者の思考回路とは異なる自然な言い回しがされるのである。つまり、学生にとって、これも一つの訓練になる。たとえ留学帰りだと言っても、すべてを簡単に理解できるものではないと思う。

同じ作品であっても、学習を経ながら繰り返すことで、理解できる範囲も増えていくはずである。来年度以降も学生たちのニーズを聞きながら、会の開催をしていきたい。



留学生送別会 夏 (岩井美樹)

7月13日(水)にISC主催で夏に帰国する留学生の送別会を行った。11人の留学生と55人の日本人学生が集まり、伝言ゲームやビンゴを楽しみながら別れを惜しんだ。最後は写真スライドを上映し、これまでの留学生活をともに振り返った。



留学生歓迎会 秋（岩井美樹）

10月19日(水)にISC主催で留学生歓迎会を実施した。イギリスから1名、フランスから5名、スペインから2名、メキシコから4名、韓国から4名、中国から2名、ロシアから1名、台湾から1名、インドネシアから1名の計22名の新しい留学生を迎え、60名の日本人学生と春からの3名の留学生が参加した。

留学生の自己紹介から始め、茶道部や空手部など日本文化に関わるクラブ活動の紹介、校内探検を兼ねたスタンプラリーをして交流を楽しんだ。その後、お菓子を食べながらのフリートークの時間を設けたが、とても盛り上がった様子であった。歓迎会終了の際には参加者全員で集合写真を撮った。

学生が中心となり計画・開催をすることができたイベントであった。



餃子パーティー（顧令儀）

中国ではお正月や冬至など特別な日に餃子を食べる風習があり、伝統的な中国文化を楽しむために、真冬の12月14日に餃子パーティーを開催した。中国学科の「桥梁会」のメンバーが中心となって企画、運営した。教員、学生と合わせて30人近くが集まり、学生は中国の餃子やお正月について紹介した後、グループに分かれて水餃子を皮から作り、本格的な中国式餃子を味わうができた。お正月の餃子では、中国人は餃子の中にナッツや餡を入れ、新しい年の運試しをする習慣がある。そこで学生もナッツや餡を餃子に入れ、運試しで盛り上がっていた。皮から餃子を作ることは、多くの日本の学生にとっては初体験であり、異文化に触れる良い機会となった。また、料理室では中国語が飛び交い、語学学習と文化体験がうまく融合したイベントとなった。



Egg Nog and Christmas Cookies (Brett Hack)

12月19日(月)の昼食時間帯に、ハック教員によるアメリカ風クリスマスの紹介プログラムが調理室で行われた。約30人の学生たちは教員手作りのクッキーに思い思いに絵付けをし、典型的なアメリカのクリスマスソングを聴いた。去年の成功を今年も繰り返すことができた。今年は伝統的飲み物「エッグノッグ」も提供した。今回は参加者が多く大規模に行われたので、学生ボランティアを集め、よりスムーズにイベントを実施することができた。



お茶会 (岩井美樹)

本イベントはISCと茶道部の共同主催で、普段からiCoToBaを利用している外国語学部生だけでなく、全学部生に参加してもらうことを目標に準備を進めた。企画者の勧誘の結果、初めてiCoToBaイベントに参加するという情報科学部生の参加もあった。

前半は茶道部によるお点前の解説の後、参加者一人ひとりが実際にお茶を点て、和菓子を囲んで談笑を楽しんだ。お茶会への参加は初めてという学生が8割を占め、留学生7名とともに新鮮な体験ができたようである。後半は調理室に移動し、抹茶の粉を使ったアイスを試食しながら抹茶クイズを楽しんだ。最後のアンケートでは「お茶会が開催されたら」という問いに対し全員が「また来たい」または「時間があれば来たい」と回答した。



留学生送別会 冬（水野淑子）

1月18日(水)にISC主催で冬に帰国する留学生の送別会を行った。参加者は20人弱と多くはなかったが、留学生と日本人学生と一緒にケーキをデコレーションしたり、ダンスをしたりして楽しんだ。自分たちで飾りつけたケーキを味わった後、写真スライドを上映し、これまでの留学生活とともに振り返りながら別れを惜しんだ。



[表1 2016年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数
4月14日	16:10~17:40	World Pancakes	103
4月27日	13:30~16:30	留学生歓迎会 春	89
6月 3日	12:10~12:40	Spielmeister ドイツ語学習ゲーム大会	6
10日			7
17日			10
24日			14
6月15日	12:00~12:50	ASEAN カフェ #1	23
6月22日	12:10~14:00	Australian Cooking	38
6月29日	12:10~14:20	ドイツ留学交流会	45

6月29日	13:30~15:30	卓球大会	35
7月6日	13:30~15:10	中国語映画鑑賞会 沉睡魔咒(マレフィセント)	14
7月13日	13:30~16:00	留学生送別会 夏	66
10月19日	13:30~16:00	留学生歓迎会 秋	85
11月25日	12:05~14:05	ASEAN カフェ #2	33
12月14日	14:30~17:00	餃子パーティー	25
12月19日	12:00~14:20	Egg Nog and Christmas Cookies	37
12月21日	13:30~15:30	中国語映画鑑賞会 疯狂动物城(ズートピア)	6
1月11日	13:00~15:00	お茶会	26
1月18日	13:30~16:00	留学生送別会 冬	19
2月1日	12:10~12:50	ASEAN カフェ #3	25

4.2. 留学報告会

大山守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)

最終年度の「留学報告会」は、木曜日のランチタイムに Activity Space (iCoToBa 内の授業スペース) で行った。交換留学や協定大学への留学体験にとどまらず、個人で応募手続きからすべてを行った学生たちの体験発表を重視し、何でも自分の力でできるように指導した。manaba 上の「留学について話そう」というコミュニティでは協定大学以外からの発信も充実した。特にグローバル人材プログラムがスタートした時に入学した学生が大量に帰国した現在は、積極的に情報収集をする気のある学生は、十分留学に備えることができるようになった。国際交流室主催の一般的な留学説明会ではできない、より詳細で具体的な発表をお願いしたことで、早くから留学に対する心構えもできつつある。12:10 にスタート、20 分のプレゼンに 10 分の質疑応答というパターンが定着し、弁当持ち込みで、気楽に話が聞けるよう配慮した。

[表 2 2016 年度留学報告会内容一覧]

<前期>	留学先(学校名)	国名	参加者数
4月21日	Finis Terrae 大学	チリ	8
4月28日	Tubingen 大学	ドイツ	20
5月12日	四川師範大学	中国	28
5月19日	Alicante 大学	スペイン	11
5月26日	トビタテ！留学 Japan	ミャンマー	31
6月2日	Swinburne 大学短期語学研修	オーストラリア	1
6月9日	Memorial University of Newfoundland	カナダ	17
6月16日	Otterbein 大学	米国	16
6月23日	サンチアゴ巡礼 (教員)	スペイン	12

7 月 7 日	Southeast Missouri State University	米国	4
10 月 6 日	プエブラ榮譽州立自治大学	メキシコ	20
10 月 20 日	Santiago de Compostela 大学	スペイン	14
10 月 27 日	Newcastle 大学	英国	12
11 月 10 日	Siberia 連邦大学	ロシア	11
11 月 17 日	A Coruna 大学	スペイン	6
11 月 24 日	Leipzig 大学	ドイツ	5
12 月 1 日	Alicante 大学	スペイン	4
12 月 8 日	Pompeu Fabra 大学	スペイン	6
12 月 15 日	Toulouse 大学	フランス	3
12 月 19 日	東呉大学	台湾	4
1 月 12 日	Zaragoza 大学	スペイン	1
1 月 19 日	上海外国語大学	中国	4

4.3. グローバル関連イベント

iCoToBa は、グローバル人材育成推進室と協働して、教育事業を行っている。2016 年度は、前期に中京大学の准教授を招いたセミナーとブラジルから日本語教師を招いたセミナーを実施した。以下、これらの実施報告を行う。

Visiting speaker on cultural research (Wednesday June 29th 3rd. period)

In iCoToBa, we had a guest speaker from Chukyo University: Francisco Barrera Rodriguez. He prepared a talk aimed at students from our university with the intention of orientating and clarifying doubts of students who want to do research for different purposes, such as assignments for the seminars they are enrolled in, do work related to their thesis, do some research during a study –abroad program or simply because they want to elucidate a subject that has fascinated them. There were students mainly from the Spanish major nevertheless, several students from the French major attended the talk, since it was performed totally in Japanese.

One of the main points of the session was to differentiate what kind of themes could feasibly become the subject of an investigation and how to treat it academically, especially when it comes to what we might think are aspects of the culture of the host country. Students exposed their doubts and discussed them in order to have a more clear idea about their academic significance of researching things they find interesting in the host country.



ブラジルで日本語教師をして知ったこと(7月19日)

講師: 藤森優氏 (JICA 日系社会青年ボランティア)

本学卒業生で、現在、JICA 日系社会青年ボランティアとして、ブラジル・サンパウロ州アチバイア市で日本語教師をしている藤森優さんを迎え、ブラジルの日系社会の様子や日本語学校での教育活動についてご自身の体験を基にお話しいただいた。日系社会における日本語学校の役割として、継承言語として日本語教育に加え、学習者が自身のルーツである日本について理解を深め、日系コミュニティとのつながりを作る場としての役割も期待されていることなど、日系社会独特のエピソードについてお話があった。

また、藤森さんは、ご自身の経験を基に、国外でキャリアを積んでいく上で、語学力以上に、失敗や変化を怖がらずに一步踏み出してみる勇気と、なにごとにも取り組む姿勢が重要であると学生にメッセージを送った。セミナーには、ブラジルからの交換留学生も参加し、ブラジルの社会・文化、JICA の制度などについて、活発な質疑応答がなされた。



4.4. 第9回多言語競演レシテーション大会

ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻
四ツ谷 亮子

「多言語競演レシテーション大会」は、本学が独立行政法人化した2008年以降、高等言語教育研究所主催の行事として開催されてきたが、同研究所の閉鎖にともない、本年度はiCoToBa委員会がその業務を引継いだ。

大会は例年どおり、大学祭二日目の11月5日(土)にS201教室で開催された。この催しは、学生が本学で学習中の外国語(留学生の場合は日本語)で文学作品などの一部を暗唱し、学習年数により2部に分かれてパフォーマンスを競い合い、聴衆による投票、および審査委員会による協議で優秀者が選ばれるものである。今年度は、第1部(学習1年目の履修者)に8組、第2部(学習2年目以上の履修者)に7組、計15組が参加した。当日は、午前10時半に米田雅彦副学長の挨拶で幕が開き、大会前日に行われたくじ引きにより以下の順でレシテーションが披露された。

【第1部】

1. フランス語: 古川 千紘 (ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻1年)
演題: Le Petit Prince (星の王子さま)
2. スペイン語: 橋本 悠、山本 莉菜 (ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻1年)
演題: Romancero Gitano (夢遊病者のロマンセ)
3. ドイツ語: 大櫛 啓 (ヨーロッパ学科 ドイツ語圏専攻1年)
演題: Als das Kind Kind war (子供が子供だった頃の詩)
4. 中国語: 伊藤 真衣、宇都宮 暉、春田 恵理、宮下 真優 (中国学科1年)
演題: 相信未来 (未来を信じて)
5. ポルトガル語: 山田 哲史 (国際関係学科1年)
演題: Diferenças culturais entre o Japão e o Brasil (日本とブラジルの文化的な違い)
6. 韓国・朝鮮語: 金 雪晶 (中国学科2年)
演題: 해님 달님 (お日さまとお月さま)
7. ロシア語: 吉田 智泰 (国際関係学科1年)、小野 弘晃 (歴史文化学科1年)
演題: Телефон (電話)
8. カタルーニャ語: 家田 佳奈、井澤 彩乃、村上 緋奈子 (ヨーロッパ学科 スペイン語圏)

専攻2年)

演題: Oda nova a Barcelona (新バルセローナ頌歌)

【第2部】

1. 英語: 田中 美穂、松下 景那 (英米学科1年)

演題: FROGGY GETS DRESSED (ある冬の身じたく)

2. 英語: 栗林 芽衣、長谷川 萌、山田 将輝 (英米学科1年)

演題: Flash, Flash! Hundred Yard Dash! (フラッシュフラッシュダッシュで行こうぜ!)

3. 英語: 大森 美紀 (国際関係学科1年)

演題: Hillary Clinton's Speech to the Democratic Convention, July 28th 2016
(2016年7月28日民主党全国大会での米国初女性大統領候補ヒラリー・クリントン前国務長官の演説)

4. フランス語: 岩田 清佳 (英米学科2年)

演題: Prince et Princesse (プリンス&プリンセス)

5. スペイン語: 岡本 奈美佳 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻2年)

演題: Discurso de José Mujica ante la Asamblea de las Naciones Unidas
(ホセムヒカ大統領の国連演説)

6. ドイツ語: 杉坂 夏代、古田 栞、南 美久理 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻2年)

演題: Ansprache zum Tag der Deutschen Einheit (ドイツ統一記念日に寄せて)

7. 中国語: 筏津 衣央 (中国学科2年)

演題: 刮眉毛 (眉毛をそる)

以上の発表に引き続き、投票が行われた。第1部で71名、第2部で68名の投票があり、以下のとおり最優秀賞と優秀賞が決定した。

【受賞者】

第1部 ■ 最優秀賞 中国語:伊藤 真衣、宇都宮 暉、春田 恵理、宮下 真優

■ 優秀賞 ポルトガル語:山田 哲史

第2部 ■ 最優秀賞 英語:大森 美紀

■ 優秀賞 中国語:筏津 衣央

さらに、審査委員による協議の結果、以下のとおり特別賞が決定した。

■ 学長賞 スペイン語:岡本 奈美佳

■ 学部長賞 ロシア語: 吉田 智泰、小野 弘晃

結果発表と吉池孝一外国語学部長による表彰のあと、iCoToBa 委員長四ツ谷より全体の講評を行い、今大会もつつがなく幕を閉じた。

【授賞式後の記念撮影】



今大会も多くの参加者と参観者がいらっしやり、熱気あふれる大会となった。ただし、運営の過程において、審査基準等をめぐって、これまでの大会のあり方に対する疑義も委員サイドから示された。また、今後は多くの学生が自主的に当日までの運営に携わり、「学生による学生のための」大会が望まれるとの、吉池学部長のコメントもあった。

今回も大会資料の準備や受け付け、司会進行、記録映像の撮影などの作業に学生スタッフの協力があり、円滑な大会運営に資するところがあった。ここにお名前を記して感謝の意を表したい。

上手 結有希 (国際関係学科)

張 方一鳴 (英米学科)

加藤 綾華 (中国学科)

野田 千咲 (中国学科)

最後に、本大会開催に向けご協力、ご支援をくださった教職員の方々に心よりお礼を申し上げたい。

多言語競演レシテーション大会実施要領の概要

- 暗唱者は、今年度、本学の外国語の授業(全学共通・外国語科目および外国語学部専門科目)を受講し、その言語を学習している学生とする。
- 第1部と第2部に分けて出場者を募る。第1部には当該言語を学習1年目で当該言語圏に3ヶ月以上滞在したことがない学生が、第2部には学習2年目以上の学生が参加できる。英語と日本語は第2部のみの募集とする。第2部についてはレシテーション、ショートドラマなどから選べる。ただし、歌唱や楽器演奏等は除く。
- 歌唱などを伴う演目の上演を希望する場合は、2013年度から導入された『自由演目』にエントリーすること。 ※今年度はエントリーがなかったため実施せず。
- 第1部と第2部、それぞれ1言語1件を担当教員が選抜する。ただし、英語は3～4件とする。規定時間内で2名以上が一つの作品を演じる場合、1件として参加できる。
- 1件につき暗唱時間は3分(移動、準備、片付けを含め4分)とする。その間、関連する写真等を投影する。
- 聴衆には暗唱内容の和訳と背景等を書いた印刷物を配布する。
- 暗唱度、表現力、映像・印刷物の準備度等を総合的に評価し、審査する。

(以上、本年度の出場希望者募集用ポスター等に基づく)

5. 教育活動

iCoToBa では、プロジェクト型学習（PBL 型学習）や交流型学習を積極的に取り入れている。第 5 章では、学習成果発表や外部機関との交流に基づく教育活動について紹介する。

JICA Cool Japan Workshop (Fern Sakamoto)

Previously organized as part of a formal class, this year's workshop was open to any interested students on a voluntary basis. Twelve students from first to fourth-year joined the project to organize and lead a workshop with Mexican trainees studying at JICA Chubu. The trainees were asked what “Cool Japan” themes they were interested in, then the students formed groups and decided a theme each to focus on. Final themes were marriage and *machikon*; religion; and 100 yen stores. Students prepared brief introductions using images and videos, and conversation-based activities to stimulate discussion. Students were also responsible for preparing an ice-breaking activity and for emceeing the workshop. The final workshop took place on Thursday July 21st at JICA Chubu from 17:00-18:30 with 12 Aichi Prefectural University students and 9 Mexican trainees. The event got off to a great start with lively with animated communication on both sides. Everyone involved enjoyed the workshop, and JICA staff expressed interest in holding a similar event next year.



イマージョン合宿 （大山守雄）

今年も 8 月 11 日（木）と 12 日（金）の 2 日間にわたって Immersion Program（外国語だけで生活することで、その言語能力を高めるプログラム）の合宿を開いた。今回が 5 回目となるが、初めて本学キャンパスにおいて開催した。5 言語（英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）全てをオファーしたが、今回は後援会が県大生の参加費を援助するというので、順調に参加者が集まった。高校生（英語）も例年通り参加し、にぎやかなプログラムとなった。

県大生はリーダーを含めて 55 名が参加したほか、高校生（スーパーイングリッシュスクールのハブ校で昨年の参加校を優先した）が英語枠で 8 名参加した。またグローバル人材育成室の外国人教員も全員参加して、学生リーダーの援護をした。それぞれの言語で 2 日

間を過ごしたほか、媒介言語を用いない直接法による各言語の入門講座と English Café を 2 コマ設け、マルチ・リンガル環境はどんなものかを紹介した。

初日は全参加者の 1 分間紹介のあと、言語ごとにわかれてアイスブレイキングの時間を設けた。そのあとスキット作りに取り組み、夜のタレントショーで発表する内容をチームごとに練習した。タレントショー後は入浴、そして自由時間は各言語で話し込んだりした。

2 日目は英語と中国語で指示が入るラジオ体操からスタート。朝食を終えたあと、各言語で独自のプログラムを 1 時間単位で行った。クイズ大会やゲームなどリーダーの創意工夫を競い合った。2 日間という短い時間だが、外国語でコミュニケーションをとり続けるのは案外大変だということは実感してもらえた。アンケートでもプログラムの長さについては 9 割以上から適当との評価を得た。高校生参加者からは大学のキャンパスも一緒に見ることができてよかったなどと高い評価をもらったので、願わくは入試にトライしてもらいたいものである。

学内で行うということで、食事の準備や入浴・宿泊の手配など裏方には非常に大変であったが、指導する教員や参加者には便利であった。また前期は留学から帰国する学生が少ないので、リーダー確保も課題となった。



Open Class: Politics Social Change, and the Japanese – Final Conference

(Brett Hack)

This event was simultaneously the final lesson for Brett Hack's advanced English course, "Politics, Social Change, and the Japanese" and a showcase for the global impetus within iCoToBa courses. Students in the course had completed collaborative projects in which they formed an argument and action plan about a chosen political issue. (See Section 9.1 of this report.) In order to strengthen students' sense of accomplishment and to increase the rigor of the class, the final lesson was conducted as an academic conference. This took place on February 2nd 2017 from 12:30 am to 16:30 pm. Four teams presented their findings with accompanying slides. The other class members read the presenters' arguments beforehand and prepared challenging questions. These were asked at the end of each reading, and were followed by lively discussions. Professors from other departments were also invited. A convivial reception with a selection of food and drinks followed the event.



地域ものづくり学生共同プロジェクト（宮谷敦美）

「地域ものづくり学生共同プロジェクト」は、「グローバル人材プログラム」指定科目として、2015年度前期から毎学期開講している。本授業の目的は、留学を経験した学生が、チームでプロジェクトに取り組み、自身の語学力と異文化経験を活かしながら、課題解決力やマネジメント能力を養成することを目指している。授業担当は、宮谷敦美（国際関係学科教員）と坂本ファーン（iCoToBa 教員）である。前期は、18名、後期は30名が受講した。

プロジェクトの課題は、東海地域にあるものづくり企業を取材し、企業ニーズや業界研究をしたうえで、読み手とコンセプトを決め多言語による広報記事を作成することである。プロジェクトでは、外国語での記事作成とあわせて、最後に企業関係者を前にプレゼンテーションを行い、記事作成の意図について説明するプロセスがある。そのため、外国語による文章表現力だけでなく、わかりやすく他者に伝える力を身に付けることも目的としている。



〔企業取材の様子〕

プロジェクト遂行に必要なスキルとして、学生は(1)業界研究のしかた、(2)インタビュー計画の設計方法、(3)効果的に質問するスキル、(4)記事タイトルと構成のつくりかた、(5)わかりやすいスライド作成とプレゼンテーションのしかたについて、プロジェクトと並行して学んだ。成果発表会は、前期は7月31日に三井物産中部支社で、後期は1月28日に名古屋テレビ塔で開催された。成果発表会でのディスカッションをもとに、学生は記事にさらに改善を加え完成させた。



〔成果発表会の発表の様子〕

学期	企業名	記事を作成した言語
前期	葛利毛織工業株式会社(愛知県一宮市)	英語、中国語、日本語
	株式会社南山園(安城市)	英語、スペイン語、ミャンマー語、日本語
	株式会社マキノ(常滑市)	英語、ドイツ語、日本語
	ニッケン刃物株式会社(岐阜県関市)	英語、ドイツ語、日本語
後期	澤田酒造株式会社(常滑市)	英語、スペイン語、ドイツ語、日本語
	株式会社田辺真珠養殖場(志摩市)	英語、中国語、ロシア語、日本語
	東海光学株式会社(岡崎市)	英語、フランス語、中国語、日本語
	宮田毛織工業株式会社(一宮市)	英語、スペイン語、日本語

[illegible]

「下：学生が作成した記事例」

[illegible][illegible]

MIYATA

ERCIENTOS CERCANOS CON LO HECHO EN JAPÓN

Historia de la empresa

Miyata SIF, S. de RL, fundada en 1951 en la Ciudad de Monterrey, perteneciente al grupo industrial, la que se ha desarrollado gracias a su calidad de vida. Desde su fundación en 1951, desarrollo y mejoramiento de sus productos como acero, laminado y otros productos de acero, de alta tecnología, producidos en su planta. Tiene una planta de acero y laminado de la marca Onoda y una planta de laminado de la marca Onoda. Desde su fundación en 1951, desarrollo y mejoramiento de sus productos como acero, laminado y otros productos de acero, de alta tecnología, producidos en su planta. Tiene una planta de acero y laminado de la marca Onoda y una planta de laminado de la marca Onoda. Desde su fundación en 1951, desarrollo y mejoramiento de sus productos como acero, laminado y otros productos de acero, de alta tecnología, producidos en su planta. Tiene una planta de acero y laminado de la marca Onoda y una planta de laminado de la marca Onoda.

Posición del Presidente

"Nuestro compromiso es ofrecer la mejor calidad de acero, laminado y otros productos de acero, de alta tecnología, producidos en su planta. Tenemos una planta de acero y laminado de la marca Onoda y una planta de laminado de la marca Onoda. Desde su fundación en 1951, desarrollo y mejoramiento de sus productos como acero, laminado y otros productos de acero, de alta tecnología, producidos en su planta. Tenemos una planta de acero y laminado de la marca Onoda y una planta de laminado de la marca Onoda."

Sección Oficial
Presidencia de la empresa

毎回、プロジェクト終了後にアンケートを実施し、学生自身の学びのふりかえりと、次期の授業改善に向けて情報を得ている。学生からの意見を基に 2016 年度は、「シニア制度」を導入し、このプロジェクトの経験者が、それぞれのチームにアドバイスを与えたり、成果発表会の運営を任せるなど、学生が自身の学びを還元するという機会も作った。以下に、「ふりかえりアンケート」での自由記述を紹介する。

- ・ チームの中で、それぞれ得意不得意ある中で、それぞれが得意な点を積極的にやり、みんながカバーしあうという体制を作ることができたことが何よりも大きな収穫でした。大学の勉強はどうしても、知識を得ることに集中しがちですが、このプロジェクトでは、知識だけでなく、チームワークをはじめプレゼンテーション能力など、社会でも通用する力を身に着けることができたと思います。また、いろんなことに対して、先生からアドバイスをもらいながら、自分たちで考え進めていくことにとてもやりがいを感じました。意見がぶつかることもたくさんあったけど、意見がぶつかるということは、それだけみんながこうしたいという思いを持ってやっているということで、大学の授業でよく味わうような静かな空間の何倍も心地よかったです。
- ・ このプロジェクトは本当に大変だった。もしかすると今までとってきた授業の中で一番と言えるくらい大変だった。何も知らないところから、調べて、インタビューして、情報をまとめて、言語ごと記事にして、それを 12 分で発表する。必修授業ではないけれど、みんなが真剣に、今まで感じたことのないくらい集中していて、一緒に取り組むなかで大変だけど少し楽しさ？やりがいを感じた。メンバーみんなが同じ方向を目指して試行錯誤していく中で、チームワーク力・言語力・情報処理能力等すべてにおいて成長しかしてないと思う。たぶん 4 月の私と今の私は少し違う人間だと思う。
- ・ このプロジェクトは本当に大変でしたが、やって良かったと心から思いました。将来役立つようなスキルを沢山学ぶことができ、アクティブで向上心のある学生たちと関わることができて良かったです。留学で鍛えた英語を生かすことができて良かったのと同時に、英語はツールでしかないということを実感しました。自分が英語を使って何ができるのか、どう生かすことができるのかということが重要だと思いました。この経験を今後の学生生活、就職活動、そして社会人になっても生かしていきたいです。

2016 年の本プロジェクトは、取材先の各企業をはじめ、NPO 法人 G-net、三井物産株式会社中部支社、百五銀行、JETRO 名古屋の協力により実施された。学生に大きな学びの機会を与えてくださった皆様に感謝します。また、学生の情報収集や外国語原稿にコメントをくださった皆様にもお礼をもうしあげます。

6 e-Learning プログラムの概要

6.1. 最終年度の e-Learning と今後の展望

四ツ谷 亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)

オンライン上で自主学習できるよう、iCoToBa の発足と同時に、以下の 6 つのプログラムが導入された。ロゼッタストーンの ID は外国語学部学生専用だが、その他のプログラムは、外国語学部学生以外の、第二外国語の授業で各言語を学習する他学部の学生も利用可能である。なお、今年度をもってプログラムの利用は事実上終了となる。

英語:ロゼッタストーン、ALC NetAcademy 2

本学に導入されている英語の e-Learning の教材には、ALC NetAcademy 2(以下、アルク)とロゼッタストーンの 2 種類がある。アルクは、利用可能なアカウント数は無制限なので、外国語学部学生のみならず、他学部の学生も TOEIC 対策を念頭において学習することができる。一方、ロゼッタストーンは英語だけではなく 30 言語が学習できるが、利用アカウント数に限りがあるため、各学科専攻によりアカウントの配布を工夫している。英米学科・フランス語圏専攻・スペイン語圏専攻では、希望者に先着順で与えている。国際関係学科では、前期は 2 年生に、後期は 1 年生に割り当てている。ドイツ語圏専攻は、前期は希望者に、後期は 1 年生に授業課題として配布している。中国学科は年間を通じて 3 年生に配布している。今年度は初めて外国語学部以外の利用希望者を募集し配布した。学習内容は発音をはじめ、コミュニケーションを重視している。

アルク ID の配布は、外国語学部では年度当初の学科・専攻ガイダンスにおいて行われたが、外国語学部以外では、5 月の中旬に、英語(教養教育外国語科目)の授業を通じて行われた。またアルク及びロゼッタストーンの講習会は 4 月から 5 月にかけて全 5 回、その後も随時昼休みを中心に開催された。

ロゼッタストーンの利用率について述べると、前述のとおり、英米学科では希望者のみの学習となっているが、アメリカ英語レベル 1 では、かなりの数の履修者があった。しかし、すべてをやり終える者は 20%未満である。一方、少数ではあるがレベル 5 まで達成した学習者もいた。

アルクの利用率では、昨年度同様に授業(リーディング)の課題とした国際関係学科 1 年生は 80%以上の高い利用率となった。また、外国語学部以外では、教養教育外国語科目(英語)の授業においてアルクが導入されたクラスもあり、利用率は 20%近くとなった。

利用率をあげるため、今後の課題としては、授業の一環として e-Learning を取り入れるべきかどうか検討する必要がある。また、休学して留学している学生の方が逆に時間ができたり、やる気が出たりするせいか、留学中の学生からの利用希望がいくつかあったので、これらの学生へのアカウント配布も今後検討する必要があるかもしれない。

フランス語:WORKOUT フランス語検定(スパーズ)

春季と秋季の年 2 回実施される「実用フランス語技能検定試験」(通称「仏検」)の対策のための e-Learning システムである。5 級、4 級、3 級、準 2 級、2 級、準 1 級の 6 つの級の練習 問題が用意されている。回答率、正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】利用率はあまり高くないが、本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、内容をさらに精査し、より良いものに仕上げ、今後の合格率上昇を図るべきであろう。平成 28 年度の秋季試験(受験料補助による団体受験)の一次試験の合格率は、準 1 級が 41.4%、2 級が 80%、準 2 級が 100%、3 級が 36%。(参考: 全国の合格率は、準 1 級が 25.6%、2 級が 35.6%、準 2 級が 61.6%、3 級が 53.6%)であった。

スペイン語:AVE Aula Virtual de Español スペイン語オンラインコース (Instituto Cervantes)

スペイン語を母語としない人のスペイン語運用能力を測るためスペイン文部省(スペイン国外ではセルバンテス文化センター)が実施しているスペイン語能力試験 DELE (CEFR のレベルに対応)に対応したオンラインコース。今年度本学部では、スペイン語圏専攻 1 年生およびスペイン語 II 履修者が A1 を、スペイン語圏専攻 2 年生が A2、専攻 3 年生が B1 (B1 合格者は B2 にレベルアップが可能)を利用している。

文法、語彙から、読解、作文などの練習にも対応。視聴覚問題が豊富で、使用されている会話やナレーションの速度がネイティブに準じるため、難易度は高いがヒアリング力向上には効果的である。またスペインのスペイン語だけでなく、ラテンアメリカのスペイン語も使用されている。スペイン語圏の文化や社会、歴史についての知識も身につけられる。

【利用状況】平成 28 年 5-6 月にかけて、スペイン語圏専攻 1 年生、全学共通外国語科目「スペイン語 II」履修者に対し、計 5 回ガイダンスを実施した。1、2 年生の語学の授業によっては AVE を課題として指示しているクラスもある。とくに、長期休業期間に既習事項の復習や、聴き取り能力を伸ばすには本オンラインコースは効果的である。秋の DELE 対策としても使用されてきた。

ドイツ語:WORKOUT ドイツ語検定(スパーズ)

春季と秋季の年 2 回実施される「ドイツ語技能検定試験」(「独検」)対策のための e-Learning システムである。5 級、4 級、3 級、2 級、準 1 級の 5 つの級の練習問題(聴解問題を含む)が用意されている。正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】2 年生以上の学生にプログラムの周知が進んでいる一方で、実際に上位級プログラムの学習を終えた学生からは、「問題数が少ない」との指摘もある。利用者の要望に合わ

せてカスタマイズすることが可能なコンテンツであるが、改訂には至っていない。また、独検の受験者数確保の観点から、就職活動の時期変更により 4 年生の受験者が減少しているという実情も考慮し、学習と受験のバランスをとる必要がある。

平成 28 年度春季の学内独検受験者の合格率は、2 級が 37.5%、4 級が 25%であった。

中国語:中国語検定過去問 WEB(高電社)

中国語検定過去問 WEB は、すべての級の過去問題を WEB 上で解くことができ、検定対策を行うことができる e-Learning 教材である。自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからもアクセスできる。誤答の分析などもでき、利用者が自分で弱点を知ることができる。

【利用状況】無料受験の結果を含めての合格状況は、専攻の学生(中国学科)については、2 年生の 3 級は約 82%の合格者(2017 年 2 月調査時点、前年度 96%、前前年度 77%)、4 年生以上の 2 級以上の合格者は約 42%(2017 年 2 月調査時点、前年度 56%、前前年度 36%)で、無料受験が徹底されなかった分、ポイントを下げる結果となった。他学科の 3 級合格者については、まだ芳しくはないが、前回よりは増えていた(3 名)。3 級の合格者ができたことは前年と比べ、進歩があり、喜ばしいことである。

今回は、試験結果についても分析してみたい。2 級の不合格者の結果をみると、1 年の留学を終えて受験した学生は、合格圏にいる。しかし、留学した学生の中でもしっかりと対策をしなかったのか、1 点足りず不合格という学生もみられることは残念である。対策を怠ったという理由しかない。留学していない学生については、リスニングよりも筆記試験に難がある。または、そもそもの基礎的能力が欠如してしまっている学生も見受けられた。

しっかりと土台を固めていかなければ、さらなる上のレベルを目指せないことは確かである。中級段階を抜けるためには、3 級レベルの中国語文法をしっかりと押さえて、さらなる文法事項をおさえること、そして、語彙量、慣用句、イディオムを抑えていかなければならない。2 級合格者は留学経験者ならびに留学しなくても国内での学習を着実にしてきた学生である。不合格者については、2 年次終了後進歩がなかったか、リスニング、筆記ともに伸び悩みの結果と思われる。

実際には、1 年次終了までに 3 級の合格、3 年次の前期(6 月)までに 2 級が合格できることが理想であると考え。実際の学習のピークや就職活動のことを考えれば、これが妥当な線であろう。

また、留学帰りの 4 年次の中には準 1 級の合格者がいること、また 1 年の 11 月段階での 3 級合格、2 年の 11 月での 2 級合格がいることは、本当にうれしいことである。全員がこれを目指すことをするのはなかなか難しいが、意識の高い学生がこのような結果をだせることはいいことである。これらはモチベーションをもって、より高い志で学習を進めた成果であり、彼らの努力の結果そのものである。また、学生のほうからも、過去問 Web を学校や自宅でやっている旨の話も聞く。今後も e-Learning 学習の利用を推進していけば、よりよい結果が見込めると考えられる。しかし、iCoToBa 事業での中国語 e-Learning も今年度で終了である。来年度からも学生たちに何らかの方法でレベル向上、レベル維持の方法を考えていかなければならない。学生に声をかけながら、しっかりと彼らの学習にかかわっていければと思う。

なお、e-Learning と専攻授業との関連づけ(=e-Learning の段階的な学習を単位取得の要件とする)に関しては、上記の国際関係学科(ロゼッタストーン/アルク・英語)、ならびにドイツ語圏専攻(ロゼッタストーン・ドイツ語)の例が挙げられる。

たとえばドイツ語圏専攻ではこの3年間、1年生の専攻語学科目の後期の単位取得要件として、ロゼッタストーンの学習を義務づけている。1年生の夏季にドイツ語圏留学を体験した学生にとっては、後期からのプログラム利用は帰国後のフォロー的側面をもつ。いずれにせよ、後期の授業を受ける1年生にあっては、留学経験の有無にかかわらず、ドイツ語学習をらせん状に補完する手段としてロゼッタストーンが活用されている。

一方で今後に向けての課題も依然としてある。学生が外国語を学ぶ動機は、各種検定試験対策、留学準備を始めとして多岐にわたるため、既存の専攻の文法・講読科目、会話やコミュニケーションを重視した授業との相互作用に対して、授業担当者・管理者には準専門的、分析的な視点が求められる。大学での専門的知見とこれらの e-Learning の相互作用を分析的に把握した上で、プログラムの取捨選択していくことが不可欠となろう。

7 アドバイジング

7.1. 語学学習アドバイジング

寺澤 君江 (iCoToBa 語学学習アドバイザー)

外国語学習のサポートを目的とした多言語学習センター開設以来、iCoToBa に所属し、センターに常駐し、アドバイジング業務を担っている。これまでの主な業務は次の 3 つである。① TOEIC、TOEFL、IELTS などの検定試験対策などに関するアドバイジング。②海外留学準備としての外国語学習および留学後のフォローアップ。③週 10 コマおよび夏、春の長期休暇中における 50 コマの語学検定対策を中心とした授業の実施。④ロゼッタストーン、アルク Net academy 2 の e-learning 学習サポート。これらの業務を効率的かつ効果的に実施するため、アドバイジングタイムの設定、学生からの要望に沿う学習アドバイスの内容、他の外国人教員達との外国語学習に関する情報交換などを心がけている。週 6 回の学習アドバイジングアワーで行ったカウンセリングおよびセッションの内容を以下に報告する。

1. 留学準備としての語学学習

英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明として TOEFL または IELTS のスコア提示を留学希望校より求められる。そのため、語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生が受験準備に関してアドバイスを求めることが多い。4 月以来、1 月中旬現在まで、のべ 396 名の学生に対応した。

今年度は留学のための受験対策に関するアドバイジングに関しては、IELTS の需要が圧倒的に多かった。昨年度に比べ、TOEFL の需要は激減した。留学を目指す 2 年生が、特に熱心に取り組んでいたパートはリスニングおよびライティングであった。集中して学習することにより、効果が現れやすいことに加え、本番のテストで力を発揮しやすいパートであることが学生の意欲を高めた。

語学学習に関するアドバイジングは原則として、学生の方からの申し出によって成り立っている。受験日までの限られた時間の中で、目標スコアを達成するための最短の方法と結果を出せるようなアドバイスを求める。学習スタイル、性格等、様々な角度からその学生の傾向をとらえ、アプローチしていくことが非常に大切であると感じた。アドバイザーが学生と積極的にコミュニケーションを心がけることが学生の意欲を安定させ、スコア達成につながる。

2. TOEIC スコアアップに関する助言および取り組み

グローバル人材プログラム修了要件の一つに TOEIC などの検定試験のスコアがあり、学生の英語学習の動機づけのひとつとなっているため、スコアアップに関するアドバイスを求められることは多い。アドバイザーによる検定対策講座 TOEIC Intensive が受験対策に極めて有効であり、3 ヶ月の講座を受講することで 150～180 のスコアアップが可能であると確信した学生は受講に積極的になり、見事に目標をクリアしていった。

また、昨年度の試みより、直前の対策講座がスコアアップにはかなり効果があることが実証されたため、今年度も昨年度同様、11 月から 12 月の 2 ヶ月間に直前対策講座(TOEIC last minute)を開講した。週 2 回、それぞれ 1 時間の演習中心の講座には、のべ 176 名の学生が参加した。直前講座は回を増すごとに受講者が増え、学生の意欲の高まりを実感した。

昨年度以来、今年度の傾向としては学生の意識と設定目標の高さが挙げられる。学年が進むに従い、目標スコアも上がり、900 を目指す学生が増えている。スコア 900 を目指す学生は、就職先には海外志向の強い企業または外資系企業を希望しており、未来のグローバル人材としての可能性を感じる。語学学習アドバイスがグローバル人材育成推進につながるととらえ、そういった学生を目の前にするたび、アドバイザーとしての使命感を確認している。

3. アドバイスの方針

語学学習アドバイスの主な要望は、留学のための TOEFL/IETS の受験対策に関するものが多い。そして、ほとんどの学生はマンツーマンのセッション指導を希望する。特に、ライティング指導の需要が多かった。ライティングに関しては、学生は「添削指導」を希望するが、実際、学生に必要な指導は「添削」ではなく「クリティカルシンキング」であると思われた。そして、ライティングを支える大学生としての一般教養や常識である。英語力の育成以上に、時事や社会問題、多文化に関する知識を身につけるための方法をアドバイスすることが求められた。

このような多岐にわたるアドバイジングをより充実させるため、週 6 コマのアドバイジングアワーだけでは、学生のリクエストに対応できないことが多かった。アドバイジングアワーが設定されていない時間帯やメールなどにより、可能な限り学生のリクエストに応えることとなった。

■まとめ

平成 28 年度は多言語学習センター iCoToBa の開設 4 年目であり、アドバイザーとしての勤務も最終年度であった。これまでの中では、今年度はアドバイジング業務が最も繁忙であったように感じた。その理由として、iCoToBa の利用価値やアドバイザーの存在および有効性などが学生に周知されたことによると思われる。

語学学習の枠を超え、アドバイジング業務を通して、個々の学生の卒業後の進路も視野に入れたアドバイジングが求められることが多くなった。計画的かつ柔軟に学生対応が展開でき、多くの学生の留学や TOEIC スコアの目標達成を支援できたことを誇りに思う。

7.2. 留学アドバイジング

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

留学アドバイジング業務は、昨年から担当者が非常勤となったため、原則として木曜日だけとしたが、学生の希望があれば他の日に対応することもあった。新入生全員との面接が叶わず、訪問者の大半は3年の秋から留学を希望する2年生であった。彼らの希望とニーズを把握し、どのような留学がベストかをアドバイスしたあと、国際交流室につなぐという交通整理役であった。国際交流室の相談業務との棲み分けは昨年通り(漠然と留学を考えている学生にはiCoToBa、具体的に留学先が決まったら国際交流室)とし、重複業務をできるだけ削減した。また留学体験発表会には国際交流室からも参加してもらい、帰国した学生からの情報を共有した。

8 学生活動

iCoToBa Supporters Club (ISC) (岩井美樹)

iCoToBa Supporters Club (ISC) は、2013 年秋に iCoToBa イベントの企画・運営を主体的に行う団体として発足し、今年度は以下 1～6 の活動を行った。過去には ISC に 50 名程度の学生が所属し、イベントごとに担当学生を決め、企画・運営を行ってきたが、昨年度よりイベントの組織的・継続的運営を行うことを目的に ISC の主要メンバーを少人数で固定化した。

今年は春に新入生の中から ISC に参加希望の学生を募集し、希望者は「留学生との交流イベント案」を提出。ISC メンバーが各学科で最も良い案を選出し、1 名ずつメンバーを採用した。今年是这样して ISC に加入した 1 年生が中心となり、上級生のサポートを受けながらイベント企画、ポスター作成、参加者の募集、準備、当日の運営・片付け、清算処理を行った。

メンバーの固定化によりイベントの企画・運営ノウハウが上級生から下級生へ受け継がれている。それぞれのプログラム内容については、第 4 章の iCoToBa イベント実施報告 (pp.67-77) を参照されたい。

- 1) 留学生歓迎会 春
- 2) 卓球大会
- 3) 留学生送別会 夏
- 4) 留学生歓迎会 秋
- 5) お茶会
- 6) 留学生送別会 冬

ISC メンバーからのコメント

今年度は主に外国語学部 1・2 年生各学科一人ずつの合計 12 人で活動した。1 年生は春の Welcome party 後に ISC メンバーの募集をかけ応募多数につき書類選考をしたこともあり、みんな非常に意欲的に活動してくれた。例年通りの留学生 Welcome party や Farewell party に加え、新たにスポーツイベントや、学外に出て犬山城やその城下町を案内するという企画も行なった。その中で次に活かすべき点やまた反省点も見つかり、メンバー共々成長するきっかけにもなっている。来年度からは外国語学部はもちろん他学部の学生にももっと iCoToBa を利用してもらえるようなイベントに取り組んでいきたいと思う。今後も iCoToBa を発展させ、また留学生と在学生の橋渡しとなれるように活動していきたい。

(中国学科 2 年 加藤綾華)

反省と今後の課題

今年の ISC メンバーは毎週月曜の昼休みをミーティングの日と定め、iCoToBa に集合して企

画のアイデア出しや実施内容の詳細決定を行った。iCoToBa では新しく来た留学生にも積極的に話しかけて仲良くなり、イベントに巻き込んでいったのが印象的であった。また、今年はメンバーから「こんな企画がやりたい」という発想が豊富に出され、これまでになかった卓球大会や歓迎会でのスタンプラリーといった新しい形での交流が可能になるイベントも目を引いた。

1 年生が不慣れなうちは参加者募集や会計での不備が目立ったが、回数を重ねるにつれてイベント運営の基本的な流れが身についてきている。現在は申込受付、参加費集計、清算処理等の対応は職員が行っているが、ISC が自力で行うよう対応を検討することも可能であると考え。現在使用しているメンバー間の SNS を活用し、来年以降はより自主的な活動を行えるよう期待する。



[打合せ中の ISC メンバー(一部)と留学生]

9 教材開発・教育実践

iCoToBa では、グローバル人材育成推進事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材作成に取り組んでいる。以下、9.1.では 2016 年度に作成した教材に関する報告をし、つづく 9.2.では、学会・研究会等で行った教育実践報告について述べる。

9.1. 教材開発

Short Essay Writing Activity Book (Fern Sakamoto)

This book was designed based on the iCoToBa Short Essay Writing course. It is essentially a teacher's resource. It provides a comprehensive course comprising thirteen lesson plans, each of which includes a summary, objectives and copiable class handouts. The course is designed to help students to develop their critical thinking and English academic writing skills and to give them practice composing short essays on a wide range of topics. It takes a process-writing approach to encourage students to critically examine the effectiveness and appropriateness of their own writing and self-edit accordingly.

Words and Phrases (寺澤君江)

グローバル人材育成プログラム修了要件の一つである「TOEIC スコア 730/800」をクリアするための単語帳として編集している。大学受験を終えた愛知県立大生が、高校での英語学習からの脱却を図る第一歩として、TOEIC 受験だけではなく、実践的英語力としての語彙力向上も目標としている。

ASEAN Café (寺澤君江)

愛知県立大生が東南アジアへ渡航する際の手引書となることを目的とした。愛知県立大生の東南アジアに対する意識調査、渡航経験のある学生の体験記、イベントなどをテーマに編集している。

iCoToBa マガジン第 3 号の作成・発行

(作成者:ダレンモルガン・フランス語圏専攻の学生ら)

iCoToBa マガジン第 2 号に引き続き、フランス語特別号である第 3 号を作成、発行した。マガジンのフランス語レベルは、初級から上級レベルまで幅広く楽しめるよう工夫した。

グローバル人材プログラムの履修科目である「リサーチ発信プロジェクト」と「ニッポンなう。」、そして「フランス語クラブ」の授業内で学生が作成した記事も掲載した。これによって、学生らが授業内で行ったプロジェクトが、マガジンという目に見えるカタチになることは、フランス語学習へのさらなる興味や自信につながれば良いと思う。

マガジンには、フランス語の授業中や、フランス語圏専攻の学生同士、フランス語圏からの留学生と一緒に楽しむ為のボードゲームやクイズが数多くあり、ネイティブ教員がいなくても、

フランス語を学ぶきっかけ、ボキャブラリーを増やすツールとして役に立つと思う。また、これまで、何度かアンケートに「今のフランスについて知りたい」「フランスの若者について知りたい」という意見があったので、フランス人が日常でよく使う表現や、若者がメールで使う略語や表現なども掲載した。

9.2. 教育実践に関する報告

JALT National Conference Presentation (Fern Sakamoto & Atsumi Miyatani)

A presentation discussing the topic of PBL for Global Communicative Competence with especial focus on the iCoToBa Local Business Student Collaborative Project class was delivered at the JALT National Conference, WINC Aichi Nagoya, November 28th 2016. The speakers briefly looked at the nature of global communicative competence, then went on to introduce the details of the Collaborative Project class and to examine its usefulness (based on student feedback) in fostering global communicative competence. The presentation was well-received, with several attendees professing interest in learning more about the project.

10 広報活動

10.1. web による広報活動

中国学科
語学学習アドバイザー

中西 千香
寺澤 君江

■HP 開設

iCoToBa（多言語学習センター）の利用促進、外国語学習に役立つ施設となるための補助的機能を果たすべく、施設のスタートと同時にホームページ（以下、HP）が開設され、今年4年目を迎えた。

HPは、多言語学習のサポート、留学のサポート、各種学内外のイベント情報を提供する場として機能する。学内イベントの詳細や学生とのやりとりは、manabaで管理されている。よりタイムリーなところはmanabaの守備範囲であり、HPとのすみわけがはかられている。

■コンテンツ

iCoToBa HPのコンテンツは、iCoToBaの基本情報、最新情報に関するページとスタッフおよび学生参加型の情報発信に関するページから成る。それぞれのページの内容は開設以来、大きく変わらず、以下の通りである。

<情報提供・共有型>

- 1) スタッフ紹介
本学iCoToBa教員紹介、学生たちへのメッセージ（目標言語、日本語にて表示）
- 2) プログラム紹介
iCoToBaで開催されている各言語の授業の紹介（目標言語、英語、日本語にて表示）
- 3) イベント紹介
iCoToBaで行われている年間イベントについて紹介
- 4) e-Learningへのリンク
本学学生が利用可能な各種e-Learning教材へのリンク
- 5) iCoToBa Wiki
本学教員による外国語学習や留学に関するアドバイスや経験に関するメッセージ

<情報発信・参加型>

- 1) iCoToBa スタッフブログ
iCoToBa教員による授業やイベントなどについての日常的な事柄に関する情報。
（英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、日本語）で表記している。

2) Students' Voice

iCoToBa の授業、イベント、報告会等に参加した学生のそれぞれに対するコメントの紹介

■問題点と課題

HP のコンテンツの充実をはかること、そして、情報発信の頻度を上げ、学生への情報共有を促進し、より活発な情報交換をしていくことを目標としてきた。しかしながら、最終年度にして、課題が多く残された状態となっており、残念である。そのいくつかの理由をあげておく。

まず、iCoToBa Wiki は外国語学部教員参加型の情報提供の場であり、学生の外国語の学習および留学に対する意欲喚起をねらった。しかし教員からの積極的な寄稿が得られず、記事が増えなかった。

さらに、iCoToBa スタッフブログでは、多文化理解および外国語習得に対する動機づけをはかることを目標としてきた。ブログ記事を通じ、iCoToBa スタッフに親近感をもち、施設利用の活発化を期待した。しかしながら、外国人ネイティブ教員による協力が期待できなかった。再三の依頼に対しても、快諾を得ることができず、ブログ更新に至らなかった。

また、学生に iCoToBa への所属意識を持たせることを狙った Students' Voice では、iCoToBa 運営に積極的に関わる学生達を中心となり、授業やイベントに対する意見や感想を発信する。タイムリーに情報やコメントを十分に加えることができず、対応できないことが多かった。

これらのコンテンツがうまく運用できなかったのには、やはり manaba 中のコミュニティでの活発な議論があったからである。時代の流れで、タイムリーに情報や考えが自由に伝えられる manaba のほうが、誰にとっても書きやすいものであったはずである。今思えば、HP はある程度、動かない情報を載せ、manaba とのうまい差別化をはかるべきであった。iCoToBa Wiki で取り上げた話題もすでに化石化してしまっている情報もある（特に留学に関する情報）。

以上、課題の多く残る iCoToBa HP ではあるが、学生たちの多言語学習に対する意識の向上およびグローバル社会への人材育成推進のための一助として、今後、改善させていく必要がある。

10.2. manaba コミュニティ:みんな集まれ iCoToBa 広場

岩井 美樹(グローバル人材育成推進室)

コミュニティの概要

2013 年度に manaba 上に iCoToBa の情報を発信するコミュニティを設立した。コミュニティでは iCoToBa の授業、イベント、施設案内を随時掲載し、情報提供をしている。iCoToBa の利用方法や外国語学習や留学についての案内、質問への受け答えも行う。iCoToBa に関する

すべての情報を得られる場にすることを目的とし、2016 年度も引き続き情報発信を行った。

メンバー数

現在のメンバー数は 449 名で、内訳は、学生 431 名(1 年生 154 名、2 年生 38 名、3 年生 197 名、4 年生 42 名)、教職員 18 名である。(平成 29 年 1 月現在)

スレッド内容

コミュニティのスレッドの内容は、イベント開催通知、ボランティアや SA (Student Assistant) の募集、論文コンテストの出場者募集等が多い。コミュニティは、一方的な情報発信の場ではなく、学生と教職員のコミュニケーションの場として機能する場を目指しているが、上記の内容の場合、お知らせのみで特にコメントがつかないことも多い。更新頻度は、平均 7 回／月であった。

[スレッドの例]

- ・ 4/14(木) 世界のパンケーキ試食会
- ・ iCoToBa Supporters Club 新メンバー募集☆★
- ・ 真夏の外国語合宿 Immersion Program 参加者募集！
- ・ 6 月 29 日(水) 留学先でリサーチを行う人必見！グローバルセミナー
- ・ 【第 9 回多言語競演レシテーション大会】 出場希望者募集！
- ・ 目指せ、Spielmeister!! ドイ科、集まれ！！
- ・ Sports Day 卓球大会のお知らせ
- ・ 卒業生に聞く！ブラジルで日本語教師をして知ったこと
- ・ 第 2 回"Cool Japan"ワークショップ 説明会開催します！
- ・ 日中関係に関する学生懸賞論文・募集のお知らせ
- ・ 国際メトロポリス会議 2016 での会場ボランティア&学生レポーターを募集します

成果と課題

メンバー数は去年の 305 名から 134 名増加した。1 年生は今年 154 人が参加しており、春のガイダンスやイベントでコミュニティへの参加を呼びかけたことの効果が現れている。効果的な広報活動の一手段とするためには、次年度も同様に多数の新入生がこのコミュニティに参加することが望まれる。

11 資料

11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧(平成 28 年 4 月～12 月)

2016 年 4 月から 12 月までの iCoToBa 利用者一覧を下に示す。

[外国語学部学生]

(人数はのべ数)

[外国語学部生]入学年度	外国語学部						
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際 関係	計
2016	327	265	582	288	799	276	2,537
2015	129	299	730	195	305	98	1,756
2014	68	94	140	116	98	111	627
2013	116	10	83	62	31	82	384
2012 以前	13	29	33	10	10	57	152
計	653	697	1,568	671	1,243	624	5,456

[外国語学部以外の学生]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		看護 学部	情報 学部	大学院	交換 留学生 ※	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 発達	社会 福祉					
2016	33	12	51	1	0	5	56	104	262
2015	0	4	3	7	0	2	6	160	182
2014	7	17	8	2	0	54	0	0	88
2013	0	0	0	0	0	3	0	0	3
2012 以前	0	0	0	0	0	5	0	0	5
計	40	33	62	10	0	69	62	264	540

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

11.2. iCoToBa 開講授業

2016 年度に iCoToBa で開講した授業一覧を下に示す。なお、各表左端の列「指定」の「○」は、外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目であることを示している。

[2016 年度前期 iCoToBa 開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
	サバイバル英語 1	Survival English 1	A2-B1 (初中級-中級)	35
	サバイバル英語 2	Survival English 2	A2-B1 (初中級-中級)	19
	トピックトーク	Topic Talk	A2-B2 (初中級-中上級)	17
○	英語で日本PRプロジェクト	J-Ambassador	B1-C1 (中級-上級)	15
○	グローバル食品産業:何を食べていますか？	The Global Food Industry: What are we eating?	B2-C1 (中上級-上級)	4
○	グローバルリーダー	Global Leader	B1-C1 (中級-上級)	12
	TED から学ぶ	TED Talks	B1-C1 (中級-上級)	12
	発音練習 1	Pronunciation Profiles 1	A2-B1 (初中級-中級)	24
	発音練習 2	Pronunciation Profiles 2	A2-B1 (初中級-中級)	15
	映画で英語学習	Study English with Movies	A2-B2 (初中級-中上級)	15
○	比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures:The English-Speaking World	A2-B1 (初中級-中級)	7
	会話を上手に	Get Good at Speaking	B1 or higher (中級以上)	13
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！1	Research and Presentation Project 1	A2-B2 (初中級-中上級)	5
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！2	Research and Presentation Project 2	A2-B2 (初中級-中上級)	15
	実際に使える英語表現・イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1 (初中級-中級)	9
	英語で自分の海外旅行計画を立てよう！	Plan a Trip in English	A2-B2 (初中級-中上級)	21
○	映画で会話力を上昇！	Talking Better with Movies	B1-C1 (中級-上級)	11
○	漫画とアメコミの文化的想像力を比べたら？	Advanced Course: The Cultural Imagination of	B2-C1 (中上級-上級)	7

		Manga and Comics		
	検定対策 TOEIC 対策 1 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 1	A1-C1 (初中級-上級)	19
	検定対策 TOEIC 対策 2 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 2	A1-C1 (初中級-上級)	13
	検定対策 TOEIC 対策 3 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 3	A1-C1 (初中級-上級)	3
	検定対策 TOEIC 対策 4 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 4	A1-C1 (初中級-上級)	4
	検定対策演習 1(早朝特訓) (他学部生受講可)	TOEIC Early Bird 1	A2-C1 (初中級-上級)	13
	検定対策演習 2(早朝特訓) (他学部生受講可)	TOEIC Early Bird 2	A2-C1 (初中級-上級)	7
	検定対策 TOEFL	Strategic TOEFL	A2-C1 (初中級-上級)	14
	検定対策 IELTS	Successful IELTS	A2-C1 (初中級-上級)	3
	検定対策ボキャブラリー (他学部生限定)	Vocabulary for Exams	A1-B2 (初級-中級)	3
	検定対策 ライティング	Writing for Exams	A2-C1 (初中級-上級)	6
	検定対策 リスニング	Listening for Exams	A2-C1 (初中級-上級)	8
	検定対策スピーキング	Speaking for Exams: integrated	A2-C1 (初中級-上級)	9
	発音サロン 1	Le français tout de suite 1	A1 (初級)	30
	発音サロン 2	Le français tout de suite 2	A1 (初級)	17
	めざせ仏検 3 級・準 2 級	Cours de préparation au DAPF - 3 kyu / jun 2 kyu	A2-B1 (初中級-中級)	5
	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B2-C1 (中上級-上級)	5
	フランス語で話そう! (3・4 年生)	Petite discussion en français	B2-C1 (中上級-上級)	4
	フランス語クラブ初・中級	Atelier de français I	A1-A2 (初級-初中級)	27
	フランス語クラブ中・上級	Atelier de français II	B1-C1 (中級-上級)	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	A2-B1 (初中級-中級)	19
○	フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	A2-B1 (初中級-中級)	15
○	リサーチ・発信プロジェクト	Recherche et	A2-B1 (初中級-中級)	25

	①	Présentation		
	スペイン語圏世界とグローバリティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad	B1-B2 (中級-中上級)	3
	DELE A1 対策 (他学科 2-4 年生対象)	Preparación para el examen DELE A1 (para los estudiantes de segundo, tercero o cuarto de otros departamentos)	A1 (初級)	7
○	比較文化研究 (スペイン語圏の学生と合同授業) (比較文化セミナー)	Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos	B1-B2 (中級-中上級)	13
○	リサーチ・発信プロジェクト ①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación	B1-B2 (中級-中上級)	12
	第2外国語としてのスペイン語 (他学科 1 年生「スペイン語 I」対象)	Español como Segunda Lengua Extranjera A1 (para los estudiantes de primero de otros departamentos)	A1(初級) 他学科/専攻用コース	6
	読解と討論 1	Lectura y Conversación A2	A2 (初中級)	5
	DELE B1 対策 + α	Preparación para el Examen DELE B1	B1 (中級)	1
	読解と討論 2	Lectura y Conversación A2	A2 (初中級)	10
	初級スペイン語 1	Español Básico Nivel A1	スペイン語圏専攻 1 年	24
	初級スペイン語 2	Español Básico Nivel A1	スペイン語圏専攻 1 年	21
	ドイツ日常語と実践会話 1	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1 (初級)	18
○	リサーチ発信プロジェクト	Forschungs- und Präsentationsprojekt	A2-B2 (初中級-中上級)	5
○	比較文化セミナー		B1- (中級 -)	2
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2 (初中級-中上級)	3
○	中国と日本の比較文化	中日文化比較	A2 (初中級)	4

	実践中国語(聴解と会話)	生活汉语(听力与会话)	B1 (中級)	3
○	リサーチ・発信プロジェクト ①	实践调查与发表	A2 (初中級)	3
	複文トレーニング	复句强化练习	A2 (初中級)	5
	発音特訓講座A	发音特训讲座 A	A1 (初級)	10
	中検 2 級対策	中检 2 级应试对策	B1 (中級)	3
	発音特訓講座 B	发音特训讲座 B	A1 (初級)	13
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2 (初中級)	4
	慣用句でリアルフレーズ	常用惯用语	B2 (中上級)	4
	発音特訓講座C	发音特训讲座C	A1 (初級)	10
	発音特訓講座D	发音特训讲座D	A1 (初級)	10
	発音特訓講座E	发音特训讲座E	A1 (初級)	10
	発音特訓講座F	发音特训讲座F	A1 (初級)	9
○	リサーチ・発信プロジェクト ②	Research and Presentation Project	A2-B2 (初中級-中上級)	5
○	留学体験発表会 1(留学 経験あり)発表者用	Presentation of Study Abroad Experience 1	A2-C1 (初中級-上級)	11
○	留学体験発表会 2(留学 経験なし)参加者用	Presentation of Study Abroad Experience 2	A2-C1 (初中級-上級)	1
○	学生共同プロジェクト (Immersion Program)	Group Work Project (Immersion Program)	A2-C1 (初中級-上級)	15
○	地域ものづくり学生共同 プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	B2-C1 (中上級-上級)	18

[2016 年度後期 iCoToBa 開講授業一覧]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
	サバイバル英語	Survival English	A2-B1 (初中級-中級)	15
	ワードパワー！	Word Power!	A2-B2 (初中級-中上級)	11
	1 分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	A2-B2 (初中級-中上級)	8
○	英語で日本 PR プロジェクト	J-Ambassador	B1-C1 (中級-上級)	3

○	グローバル食品産業:何を食べていますか?	The Global Food Industry: What are we eating?	B1-C1 (中級-上級)	5
○	グローバルリーダー	Global Leader	B1-C1 (中級-上級)	11
	TED から学ぶ	TED Talks	B2-C1 (中上級-上級)	7
	英会話:基本へ立ち返る (全学部生対象)	English: Back to Basics	A1-B1 (初級-中級)	25
○	比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう!	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World	A2-B1 (初中級-中級)	12
	英語で自分の海外旅行計画を立てよう!	Plan a Trip in English	A2-B2 (初中級-中上級)	16
○	上級コース:「日本人は社会を変える意識がない」と言われたけれど、本当にそうですか?2	Advanced Course: Politics, Social Change, and the Japanese 2	A2-B2 (初中級-中上級)	3
○	プロジェクトワークを行って発表しよう!2	Research and Presentation Project 2	A2-B2 (初中級-中上級)	6
	会話を上手に!1 (全学部生対象)	Get Good at Speaking 1	B1 or higher (中級以上)	9
	会話を上手に!2 (全学部生対象)	Get Good at Speaking 2	B1 or higher (中級以上)	14
○	日本コンテンツ文化英訳プロジェクト(全学部生対象)	Japan Contents Culture Translation Project	B1-B2 (中級-中上級)	8
○	世界ニュースと私	Global News and You	B1-C1 (中級-上級)	6
○	上級コース:「日本人は社会を変える意識がない」と言われたけれど、本当にそうですか?1	Advanced Course: Politics, Social Change, and the Japanese 1	B2-C1 (中上級-上級)	11
	検定対策 TOEIC 対策 1(外国語学部生以外)	TOEIC Intensive 1	A2-C1(初中級-上級)	10
	検定対策 TOEIC 対策 2	TOEIC Intensive 2	A2-C1(初中級-上級)	3
	検定対策 TOEIC 対策 3	TOEIC Intensive 3	A2-C1(初中級-上級)	20
	検定対策 TOEIC 対策 4	TOEIC Intensive 4	A2-C1(初中級-上級)	6

	早朝特訓 目指せスコア 800 (全学部生対象)	TOEIC Early Bird 1	A2-C1(初中級-上級)	18
	早朝特訓 目指せスコア 900 (全学部生対象)	TOEIC Early Bird 2	A2-C1(初中級-上級)	13
	早朝特訓 新形式テスト対応 (全学部生対象)	TOEIC Early Bird 3	A2-C1(初中級-上級)	22
	検定対策 スピーキング	Speaking for Exams: Integrated	A2-C1(初中級-上級)	7
	検定対策 ライティング	Writing for Exams	A2-C1(初中級-上級)	15
	検定対策 リスニング (全学部生対象)	Listening for Exams	A2-C1(初中級-上級)	3
	発音サロン 1	Le français tout de suite 1	A1 (初級)	11
	発音サロン 2	Le français tout de suite 2	A1 (初級)	6
	めざせ仏検 3 級・準 2 級	Cours de préparation au DAPF - 3 kyu / jun 2 kyu	A2-B1 (初中級-中級)	2
	めざせ仏検 準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B2-C1(中上級-上級)	11
	フランス語で話そう! (3・4 年生)	Petite discussion en français	B1-B2 (中級-中上級)	5
	フランス語クラブ 初・中級	Atelier de français I	A1-A2 (初級-初中級)	6
	フランス語クラブ 中・上級	Atelier de français II	B1-C1 (中級-上級)	3
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	A2-B1 (初中級-中級)	4
○	フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	A2-B1(初中級-中級)	7
○	リサーチ・発信プロジェクト	Recherche et Présentation	A2-B1(初中級-中級)	6
	スペイン語圏世界とグローバリ ティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad	B1-B2(中級-中上級)	8
	第 2 外国語としてのスペイン 語 A1(他学科 1 年生「スペイ ン語 I」対象)	Español como Segunda Lengua Extranjera A1 (para los estudiantes de primero de otros departamentos)	A1(初級) 他学科/専攻用コース	2
○	比較文化研究(スペイン語圏 の学生と合同授業)	Estudios Culturales Comparativos con	B1-B2(中級-中上級)	12

	(比較文化セミナー)	estudiantes hispanos		
○	リサーチ発信プロジェクト	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación	B1-B2(中級-中上級)	2
	DELE A1 対策 (他学科 2-4 年生対象)	Preparación para el examen DELE A1 (para los estudiantes de segundo, tercero o cuarto de otros departamentos)	A1(初級)他学科 2-4 年 生対象	9
	読解と発言力 1	Lectura y Conversación A2	A2(初中級)	7
	DELE B1 対策+α	Preparación para el Examen DELE B1	B1(中級)	2
	読解と発言力 2	Lectura y Conversación A2	A2(初中級)	2
	初級スペイン語 I-1	Español Básico Nivel A1	A1(初級)スペイン語圏専 攻 1 年	8
	初級スペイン語 I-2	Español Básico Nivel A1	A1(初級)スペイン語圏専 攻 1 年	5
	ドイツ日常語と実践会話	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1(初級)	6
○	ミュンスターアフターケア	Münsternachbereitung	A2-B1 (初中級-中級)	4
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2(初中級-中上級)	6
○	ドイツの文化:留学ケア	Deutsche Kultur: nach dem Auslandsstudium	B1-C1(中級-上級)	1
	発音と初級会話	发音与初级会话	A1(初級)	33
	実践中国語 A(作文)	生活汉语 A(作文)	A2(初中級)	1
	発音と朗読 a	发音与朗读	A2(初中級)	5
○	日中比較文化	中日文化比较	A2(初中級)	8
	発音と朗読 b	发音与朗读	A2(初中級)	3

	中検 3 級対策	中检 3 级应试辅导	A2(初中級)	13
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2(初中級)	8
	実践中国語 B(聴解と会話)	生活汉语 B(听力与 会话)	B1(中級)	1
	複文トレーニング	复句强化练习	B1(中級)	4
	成語、慣用句でリアルフレーズ	常用惯用语	B2(中上級)	4
○	リサーチ・発信プロジェクト	实践调查与发表	B1(中級)	6
○	地域ものづくり 学生共同プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	B2-C1 (中上級-上級)	33
○	リサーチ・発信プロジェクト②	Research and Presentation Project	A2-B2 (初中級-中上級)	85
○	留学体験発表会 1 (留学経験あり)発表者用	Presentation of Study Abroad Experience 1	A2-C1 (初中級-上級)	10
○	留学体験発表会 2 (留学経験なし)参加者用	Presentation of Study Abroad Experience 2	A2-C1 (初中級-上級)	0

[2016 年度 iCoToBa サマープログラム開講授業一覧]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
	日本を世界に紹介しよう： 日本文化プレゼンコンテス トの準備講座	Introducing Japan to the World: Speech Contest Preparation Seminar	A2 以上/初中級以上	9
	英語で遊ぼう ～こどもと英 語で楽しく遊ぶコツ	Enjoying English with Kids: Games and Tips	A1/初級以上	6
	英語の力を復帰しよう ～ 英語でゲーム・会話の時間	Get back in the groove – English game and conversation afternoon	A2 以上/初中級以上	5
	英語プレゼンテーション ワークショップ	English Presentation Skills Workshop in iCoToBa	A2-B2 / 初中級-中上級	14
	検定試験対策講座 TOEIC (新 TOEIC 受験対策)	TOEIC New	A2-C1/初中級-上級	8
	検定試験対策講座 TOEFL	TOEFL: integrated speaking	A2-C1/初中級-上級	4
	検定試験対策講座 IELTS	IELTS: listening & writing	A2-C1/初中級-上級	6

	思い出しフランス語 I	Le français dans la tête I	A2-B1/初中級-中級	3
	夏休みスペイン語力向上講座（1年生対象）	¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?	A1 /初級	3

[2016 年度 iCoToBa スプリングプログラム科目開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
	検定試験対策講座 IELTS/TOEFL	English for Exams	A2-C1/ 初中級-上級	11
	検定試験 TOEIC IP	TOEIC IP	A2-C1/初中級-上級	21
	英会話カフェ	Conversation Café	A1 以上/初級以上	2
	思い出しフランス語 II	Le français dans la tête II	B2 以上/ 中上級以上	2
	Via Lactea, México, Perú 冬休み短期講座	Español Práctico	A2-B1/初中級-中級	2
	中検 3 級試験対策 1	中検 3 級考试辅导 1	A2-B2/ 初中級-中上級	4

11.3. iCoToBa 授業アンケート集計結果

2014 年度より FD 活動の一環として、前期・後期の iCoToBa 開講授業全てにおいて授業アンケートを行った。アンケート項目は、1)学生自身の学習について、2)授業および担当教員についての 2 部構成である。以下では、2)授業および担当教員についての集計結果を掲載する。回答はそれぞれの項目で 1~5 点で点数化している。

[質問項目]

- Q1. 授業概要や学期開始時の授業に関する説明は、わかりやすかったですか。
- Q2. 授業概要や学期開始時に説明された授業の目的は、授業で達成されていたと思いますか。
- Q3. 教員の話し方、説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q4. 教材(教科書、配布物など)は、有用でしたか。
- Q5. ホワイトボードへの板書、パワーポイントなどのスライドは見やすかったですか。
- Q6. 教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか。
- Q7. 教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促しましたか。

Q8. 教員の授業への意欲・熱意は感じられましたか。

Q9. この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになりましたか。

[2016 年度前期アンケート集計結果]

担当教員: Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English 1	木 1	4.9	4.6	4.9	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.9
Survival English 2	金 1	4.8	4.5	4.6	4.6	4.6	4.8	4.8	4.9	4.9
Topic Talk	月 4	4.2	4.6	4.8	4.2	4.4	4.8	4.8	4.8	4.8
J-Ambassador	火 2	4.7	4.3	4.8	4.7	4.6	4.7	4.8	4.8	4.5
The Global Food Industry	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Global Leader	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	5.0	5.0
TED Talks	木 3	4.1	4.4	4.4	4.3	4.1	4.4	4.9	4.7	4.9

担当教員: Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Pronunciation Profiles 1	月 2	4.8	4.5	4.9	4.5	4.8	4.7	4.9	5.0	4.9
Pronunciation Profiles 2	木 5	4.9	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
Study English with Movies	火 5	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	4.9
The English-Speaking World	月 5	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Get Good at Speaking	火 4	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9
Research and Presentation Project 1	水 2	5.0	5.0	5.0	4.6	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Research and Presentation Project 2	金 4	4.9	4.7	4.9	4.8	4.9	4.9	4.9	5.0	4.8
Real-Life English Expressions and Idioms	月 4	4.3	4.0	4.3	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.7
Plan a Trip in English	木 4	4.8	4.7	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7
Talking Better with Movies	金 2	4.5	4.6	5.0	4.9	4.8	4.9	4.9	5.0	5.0
Advanced Course : The Cultural Imagination of Manga and Comics	木 2	4.5	4.5	4.8	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8

担当教員: 寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Intensive 1	月 2	4.8	4.8	4.7	4.8	4.8	4.7	4.6	4.8	4.8
TOEIC Intensive 2	月 6	4.7	4.7	4.3	4.7	4.3	4.3	3.7	4.7	5.0
TOEIC Intensive 3	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
TOEIC Intensive 4	火 6	4.5	4.5	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0	4.5
TOEIC Early Bird 1	水 1	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	4.3	5.0	5.0
TOEIC Early Bird 2	木 1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Strategic TOEFL	水 2	4.6	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Successful IELTS	木 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Vocabulary for Exams	水 4	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0
Writing for Exams	月 4	4.8	4.5	4.8	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音サロン 1	火 3	4.5	4.1	4.5	4.5	4.6	4.6	4.8	4.9	4.6
発音サロン 2	金 2	4.7	4.0	4.8	4.7	4.8	4.8	5.0	5.0	4.7
めざせ仏検 3 級・準 2 級	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検準 1 級	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語で話そう！	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ初・中級	水 3	4.5	4.4	4.6	4.3	4.4	4.5	4.6	4.8	4.6
フランス語クラブ中・上級	木 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ニッポンなう。	月 5	4.8	4.8	4.9	4.6	4.6	4.8	4.9	4.9	4.9
フランス語圏なう。	木 3	4.7	4.5	4.8	4.5	4.7	4.9	4.9	5.0	4.9
リサーチ・発信プロジェクト①	火 1	4.3	4.1	4.6	4.3	4.4	4.7	4.9	4.9	4.6

担当教員: Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	火 3	5.0	4.5	5.0	4.5	4.5	5.0	4.0	5.0	5.0
DELE A1 対策	月 5	4.3	4.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0
比較文化研究	水 4	4.2	4.7	5.0	4.8	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0
リサーチ発信プロジェクト	水 3	5.0	4.7	4.7	4.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
第 2 外国語としてのスペイン語	木 5	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	4.7	5.0	5.0
読解と討論 1	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
DELE B1 対策+α	金 3	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0
読解と討論 2	木 3	4.0	4.3	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	5.0	5.0
初級スペイン語 1	火 4	3.9	3.8	4.1	3.9	3.8	4.4	4.5	4.7	4.2
初級スペイン語 2	金 2	4.4	4.2	4.6	4.2	4.4	4.7	4.6	4.5	4.5

担当教員: Miho Strala / Martin Niers / Frank Schäfer	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話 1	木 1	3.2	3.6	3.2	3.8	4.0	3.6	4.4	4.4	4.2
リサーチ・発信プロジェクト①	木 2	4.3	4.7	5.0	5.0	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0
比較文化セミナー	金 1	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
日本紹介	月 2	4.3	4.3	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
中国と日本の比較文化	月 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
実践中国語（聴解と会話）	月 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ・発信プロジェクト①	月 1	5.0	5.0	5.0	4.7	4.7	5.0	4.7	5.0	5.0
複文トレーニング	火 3	4.8	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 A	水 1	4.9	4.9	4.9	4.7	4.4	4.9	4.7	4.9	4.9

中検 2 級対策	水 2	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 B	水 3	4.9	4.8	4.9	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
中国語で日本を紹介する	木 3	4.8	4.8	5.0	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
慣用句でリアルフレーズ	木 4	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 C	金 1	4.5	4.2	4.7	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5
発音特訓講座 D	金 1	4.6	4.4	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7
発音特訓講座 E	金 2	4.5	4.4	4.9	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9
発音特訓講座 F	金 2	4.9	4.5	5.0	4.6	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 宮谷敦美 / Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
地域ものづくり学生共同プロジェクト	水 4	4.8	4.8	4.9	4.6	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9

[2016 年度後期アンケート集計結果]

担当教員: Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English 1	木 1	4.8	4.7	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Word Power!	金 3	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0
One-minute Speech	月 4	5.0	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5
J-Ambassador	火 2	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
The Global Food Industry	金 2	5.0	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7
Global Leader	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.6	5.0	5.0	5.0	5.0
TED Talks	木 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
English : Back to Basics	水 4	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	5.0	5.0
The English Speaking World	月 2	4.8	4.7	4.9	4.6	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8
Plan a Trip in English	木 4	4.5	4.5	4.8	4.5	4.8	4.9	4.9	4.9	4.6
Advanced Course : Politics, Social Change, and the Japanese 2	木 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Research and Presentation Project 2	火 3	5.0	4.3	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7
Get Good at Speaking 1	火 5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	5.0
Get Good at Speaking 2	水 3	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Japan Contents : Culture Translation Project	金 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0
Global News and You	金 4	5.0	5.0	5.0	4.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Advanced Course : Politics, Social Change, and the Japanese 1	木 3	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Intensive 1	月 2	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.1	4.9	4.6
TOEIC Intensive 2	火 2	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0
TOEIC Intensive 3	水 2	4.9	4.8	5.0	4.9	4.9	4.8	4.2	4.9	5.0
TOEIC Early Bird 1	火 1	5.0	4.7	5.0	5.0	4.3	5.0	4.7	5.0	4.7
TOEIC Early Bird 2	水 1	4.9	4.8	4.9	5.0	4.9	5.0	4.8	4.9	5.0
TOEIC Early Bird 3	金 1	4.6	4.8	4.8	4.8	4.3	4.5	3.8	4.9	4.9
Speaking for Exams : Integrated	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams	月 3	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音サロン 1	火 3	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	4.8
発音サロン 2	金 2	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検 3 級・準 2 級	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検準 1 級	月 2	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語で話そう！	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ初・中級	水 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ中・上級	木 5	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ニッポンなう。	月 5	4.8	4.3	5.0	4.8	4.8	4.8	4.5	5.0	4.5
フランス語圏なう。	木 3	4.8	4.5	4.5	4.8	4.8	4.5	4.3	4.5	4.5
リサーチ・発信プロジェクト	火 1	4.0	3.7	4.3	4.0	4.3	4.7	4.7	4.7	4.0

担当教員: Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	月 4	4.6	4.5	4.8	4.6	4.4	4.6	4.8	4.9	4.6
第 2 外国語としてのスペイン語	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
比較文化研究	水 4	5.0	4.7	4.8	4.5	4.7	5.0	5.0	5.0	4.8
リサーチ発信プロジェクト	水 3	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0
DELE A1 対策	木 5	4.3	4.0	4.8	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	5.0
読解と発言力 1	火 2	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	5.0	5.0	4.7	5.0
DELE B1 対策+α	金 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
読解と発言力 2	木 3	4.7	4.3	5.0	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
初級スペイン語 I-1	火 4	4.0	3.8	4.4	4.3	4.1	4.4	4.8	4.4	4.0
初級スペイン語 I-2	木 4	4.0	3.5	4.3	4.0	4.3	4.8	4.8	4.8	4.3

担当教員: Miho Strala, Martin Niers, Frank Schäfer	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話	金 2	4.8	4.5	4.8	4.8	4.5	4.8	5.0	5.0	4.8
ミュンスターアフターケア	木 2	4.6	4.4	4.6	4.8	4.2	4.8	5.0	5.0	4.8

日本紹介	月 3	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
ドイツの文化：留学ケア	金 1	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0

担当教員: 顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音と初級会話	金 2	4.9	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0
実践中国語 A (作文)	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音と朗読 a	水 1	5.0	5.0	5.0	5.0	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0
日中比較文化	水 2	4.9	4.6	4.9	4.6	5.0	4.9	5.0	5.0	4.9
発音と朗読 b	水 3	5.0	4.7	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
中検 3 級対策	木 4	4.6	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.6	4.6
中国語で日本を紹介する	金 4	4.7	4.4	4.7	4.3	4.3	4.9	5.0	5.0	4.9
実践中国語 B (聴解と会話)	月 3	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
複文トレーニング	月 4	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
成語、慣用句でリアルフレーズ	木 3	4.3	5.0	5.0	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ・発信プロジェクト	金 3	4.3	4.3	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	5.0	4.7

担当教員: 宮谷敦美 / Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
地域ものづくり学生共同プロジェクト	水 4	4.5	4.3	4.7	4.8	4.8	4.7	4.9	4.8	4.7

11.4. iCoToBa 施設見学者

月日	所属・氏名	目的
6 月 17 日	愛知大学 現代中国学部長 安部悟氏 国際コミュニケーション学部長 塚本倫久氏 教学事務部長 堀真人氏 国際交流センター事務課 係長 村田安氏 名古屋学生課 課長 樋口裕嗣氏	施設見学
6 月 23 日	金城学院大学 学生支援部 国際交流センター係長 加藤祐子氏 学生支援部 ラーニングcommons係長 長坂知美氏	施設見学
9 月 15 日	愛知県 学事振興課 2 名	施設見学
11 月 1 日	愛知県 健康福祉部少子対策監 服部克己氏 子育て支援課 課長補佐 安部進矢氏	施設見学

11.5. 高等学校の iCoToBa 施設見学

月日	学校名・学年	見学内容	訪問者数			
			生徒	教諭	PTA	合計
5 月 20 日	静岡県立袋井高校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、Activity Space にて Big Pad を使い、iCoToBa についてのプレゼンテーション。	82	4	0	86
5 月 30 日	岐阜県立長良高校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、Activity Space にて Big Pad を使い、iCoToBa についてのプレゼンテーション。	80	3	0	83
6 月 17 日	愛知県立御津高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、Activity Space にて Big Pad を使い、iCoToBa についてのプレゼンテーション。	80	4	0	84
6 月 23 日	岐阜県立加茂高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、Activity Space にて Big Pad を使い、iCoToBa についてのプレゼンテーション。	108	6	0	114
6 月 24 日	愛知県立長久手高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、教室にて iCoToBa についてのプレゼンテーション。	0	3	40	43
7 月 1 日	愛知県立豊田高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、教室にて iCoToBa についてのプレゼンテーション。	0	2	80	82
7 月 4 日	愛知県立成章高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、教室にて iCoToBa についてのプレゼンテーション。	113	5	0	118
7 月 6 日	愛知県立岡崎北高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、教	0	3	85	88

		室にて iCoToBa についてのプレゼンテーション。				
9 月 2 日	三重県立津西高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、教室にて iCoToBa についてのプレゼンテーション。	33	2	0	35
9 月 30 日	愛知県立豊田西高等学校	施設および設備紹介。ランチタイムの学生の様子を見学後、教室にて iCoToBa についてのプレゼンテーション。	0	3	80	83
合計			496	35	285	816

11.6. 2016 年度 iCoToBa イベントポスター

Hungry?

Come & eat pancakes from around the world!



Thursday April 14th
16:10 ~ 17:40 @ iCoToBa
Cost: ¥300

Sign-up & pay @ iCoToBa
by Tuesday April 12th

Places are limited! Don't miss out!



WELCOME PARTY

今期 日本へやってきた 留学生のためにウェルカムパーティーを開催します。

日時: 4月27日 (水) 13:00 受付開始 13:30 スタート

場所: B101



募集人数: 70名

締め切り: 4月18日 (月)

参加費: 200円 (日本人学生のみ)

\\ iCoToBaで受付中です~ //

目指せ
Spielmeister!

 ドイ科 集まれ!! 

お昼を食べながら Schäfer先生と一緒にドイツ語でゲームしませんか?

日時: 6月3日, 10日, 17日, 24日
毎週金曜日(予定)
12:10 ~ 12:40

場所: iCoToBa

予約不要! 気軽にiCoToBaに足を運ばましょ!! ☺

◆ 第1回 ASEAN カフェのお知らせ ◆

こんにちは! 先日はアンケートへのご協力ありがとうございました。

第1回のテーマの詳細をお知らせします(^_^)


日時: 6月15日(水) 12:05 - 12:45 (ランチタイム)

場所: iCoToBa AS

テーマ: 東南アジアの * ◎ ☆ について

担当: ミャンマー(英米日高) フィリピン(国際関係小林) マレーシア(国際関係上西)

コーディネーター (iCoToBa 寺澤)



テーマの * ◎ ☆ について、ブチトークショー形式で紹介します。

みなさんからの質問も大歓迎!

東南アジアのお菓子を用意してお待ちしています。

気軽に参加してください!!

このイベントは第3回まで行う予定です。(日時未定)

1回だけの参加でもフル参加でも大丈夫なように内容を企画します。

みなさんぜひ参加してくださいね♪

質問があればこちらまでどうぞ。 → icotoba@for.aichi-pu.ac.jp

Kangaroo burgers!

Come & make Australian
burgers and sweets.

Menu:
✓ kangaroo
burgers
✓ apricot delight



Wednesday June 22nd
12:10 ~ 14:00 @ F211 (near iCoToBa)

Cost: ¥600

Sign-up & pay @ iCoToBa by June 15th

Places are limited! Don't miss out!
Questions? Talk to Fern, or ask at iCoToBa.

グローバルセミナー

リサーチプロジェクトを行うためのアドバイス セッション

Spanish Culture: Paella, flamenco, la siesta, las fiestas.

Can I do research about these subjects?

Cultura de España: Paella, flamenco, la siesta, las fiestas.

¿Puedo hacer investigación sobre estos temas?

【日時】 6月29日 (水)
12:50~14:20

【場所】 H201教室

【講師】 中京大学
国際教養学部
Francisco Barrera 准教授



講演は日本語で行われます。
スペイン学科の学生だけでなく、留学先でのリサーチに興味のある全ての人を歓迎します!



参加申込は
iCoToBaで。

グローバル化が叫ばれる昨今、留学経験や語学力がもっとも評価されています。

留学先で、語学力だけではなく、リサーチプロジェクトにしっかり取り組み卒業論文にも役に立ちます。まずはリサーチ・研究・レポート・論文・感想文等を明確に区別することが極めて重要です。

リサーチの特徴を理解する際は、スペインで研究できる色々なテーマを紹介して、そこからどのテーマがオリジナリティのある研究になるのか皆でディスカッションを行います。

プロジェクトに対して細やかなアドバイスやアイデアを受けながら、目的を考えて、それによって研究方法(アンケート調査など)の決め方を学びます。

Francisco Barrera

ドイツデー

留学に行った先輩や、これから
留学する先輩の話を聞いたり
先輩と話したりしませんか?

日時: 6月29日 (水) 12:10~14:20 (予定)

場所: iCoToBa iLounge

申し込み: iCoToBa受付

費用無料!

お昼ご飯を持って

iCoToBaに komm komm!!

Sports Day 卓球

The
First
Game



○日時 6月29日(水)
○場所 武道場
○アイトバにて申し込み

iCoToBa ちゃい語 de 映画祭

～iCoToBa 汉语电影节～

今年度第一回目は……

《沉睡魔咒》

MALEFICENT です。

ディズニー映画『マレフィセント』の中国語版です。

物語を知っていれば、ある程度すんなり入ってきます。聞き取りが苦手でも、中国語字幕が助けてくれます。

中国語が全部分からなくても、最後まで見られるはず。

中国語のシャワーを浴びましょう。もちろん、中国学科以外の学生さんも歓迎!!

画像

日時：2016年7月6日(水) 13:30～

映画は98分、15:00 すぎには終わります。

場所：iCoToBa 内テレビの前

※お菓子、飲み物は各自持参してください。

farewell PARTY

7/13(水)

13:00受付開始 13:30スタート

場所 B棟101教室

参加費 200円

申し込みはiCoToBaまで!

申し込み締め切り 7/5(火)

先着60人
(各学科15人)付。
お早め!

日本に来てくれてありがとう
県大に来てくれてありがとう
出会いに感謝。
See you again!



卒業生に聞く

ブラジルで日本語教師をして知ったこと

日時
7月19日 (火曜日)
12:05～12:45

場所
iCoToBaラウンジ
※昼食可

スピーカー：藤森優さん (本学英米学科卒業生、JICA青年ボランティア)

藤森さんは、在学中から豊田市保見団地や長久手市の日本語教室でボランティア活動とおして、在住外国人の支援を行ってきました。社会人経験後、2年前からJICAボランティアとしてブラジルで日本語教育に携わっています。海外でのボランティア活動や、日本語教師に興味がある人は、ぜひ参加してください。

WELCOME PARTY!!

留学生

13:00～受付 13:30スタート

参加費 200円 場所: B101

申込は10/5(水)～10/14(金)に

iCoToBaでできます

各学科・専攻で7人まで! お早めに!!

◆第2回 ASEAN カフェのお知らせ◆

こんにちは！先日はアンケートへのご協力ありがとうございました。

第2回のテーマの詳細をお知らせします(^_^)

日時: 11月25日(金) 12:05 - 12:45 (ランチタイム)

場所: iCoToBa AS

テーマ: 東南アジアでできる体験・言語教育 について

担当: 【留学】現地語留学: 日高(英米/ミャンマー) 山田(国関/インドネシア)

英語留学: 小林(国関/フィリピン)

【インターンシップ】上西(国関/マレーシア)

【ボランティア】古田(独/カンボジア) 黒川(英米/タイ)

【コーディネーター】寺澤(iCoToBa)



このテーマをブチトークショー形式で紹介します。みなさんからの質問も大歓迎!

東南アジアのお菓子を用意してお待ちしています。気軽に参加してください!!

このイベントは1回目に参加していない人も楽しめるような内容を企画しています。

みなさんぜひ参加してくださいね♪

質問があればこちらまでどうぞ。 → icotoba@for.aichi-pu.ac.jp

餃子12月14日(水) パーティー 14:30-17:00

申し込み方法: 300円を持って
iCoToBaへ

定員: 30人



応募〆切12月12日

iCoToBa 試飲体験: American Christmas Treats
(エッグノッグ)
Egg Nog and Christmas Cookies
世界一贅沢な
ソフトドリンク!
アイシングで
好きなデザインを!
主役のクリスマスケーキ!

場所: 調理室 (F211)
日付: 12月19日(月曜日)
時間: ランチ・3限
途中参加・退場可能
チャージ: 300円 (予約時)
12月16日(金)までにiCoToBa受付で予約してください。

Come taste it!
フレンチの大好物!



iCoToBa ちゃい語 de 映画祭

～iCoToBa 汉语电影节～

第二回目は……

《疯狂动物城》 ZOOTOPIA です。

『ズートピア』の中国語版です。音声字幕ともに中国語で鑑賞します。日本語で知ってるあの映画が中国語になると…というのが体験できます。聞き取りが苦手でも、中国語字幕が助けてくれます。中国語が全部分からなくても、最後まで見られるはず。中国語のシャワーを浴びましょう。中国学科以外の学生さんも大歓迎!

画像

日時: 2016年12月21日(水)

13:30～(映画は108分です。)

場所: iCoToBa 内テレビの前


※お菓子、飲み物は各自持参してください。

2017.11.11
tea
お茶会

全学部
対象

留学生と一緒に
お抹茶体験をしよう!

場所 iCoToBa
時間 13時～
参加費 100円
募集人数 40名
お申し込みは、iCoToBaまで
申し込み締切日 2017.1.6.金
ぜひご参加ください!



FAREWELL
PARTY

全学部対象
定員 30人

日時 2017年1月18日(木)
13時半受付開始、14時スタート

参加費 200円 (留学生は無料)

場所 iCoToBa

締め切り 18:00
1月17日(水)

申し込みは iCoToBaまで



◇ASEAN カフェ final◇

日時: 2月1日(水) 12:10 - 12:50 (ランチタイム～)

場所: iCoToBa AS and 調理室

テーマ: 「アセアンキッチン」体験

担当: iCoToBa Kimie TERAZAWA

6月と11月に実施したASEANカフェが好評につき、第3回を実施する運びとなりました。今回は最終です。
試食中の忙しい時間帯ですが、ランチタイムのひとときをASEANキッチンで過ごしませんか?
前回は、新々園のASEANカフェに参加していない人もwelcomeです。

お気軽にどうぞ!! **Mari kita cakup dan makan makanan ASEAN** たくさんの参加をお待ちしています

上のオレンジ色のフレイズを受付の人に渡ってから申し込みください

申し込み: 1月27日(金) 午後5:00まで
iCoToBa 受付の申し込み用紙に名前と電話番号を書くだけでOK

参加費用: 無料

内容: アジアのおやつと飲み物を作って試食します。(何を食べるかは...その日までにヒミツ!!)

材料: 小麦粉、ヨーグルト、ジャガイモ、人参、玉葱、カレーパウダー、バナナ、香辛料、油、紅茶、コーヒーマルク、砂糖

☆賞品があれば iCoToBa 受付まで☆



県大祭期間中のイベントのお知らせ

予約不要
参加無料

第9回 多言語競演
レシテーション大会

2016年11月5日(土)
10:30 ~ 13:30

愛知県立大学 長久手キャンパス
S201(特別講義棟2階) リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩3分

当日はそれぞれの言語の日本語解説が映像、配布資料にて紹介されます。
全く聞いたことがない言語でも雰囲気味わえます。
外国語を学び始めて半年あまりの一年生による歌唱は
まさに一年後の皆さんがもしも...
それぞれの言語の独特の響きや
リズムに耳を傾けてみませんか。

レシテーション大会とは

大学祭の期間中、日頃外国語学習に
いそいそ果敢と、外国語の文学作品などの
一歩をリサイト(歌唱)し、学習の成果を
競い合うレシテーション大会が開催されます。
今回の大会で披露される言語は以下の予定です。

英語 フランス語
スペイン語 カタルーニャ語
中国語 韓国・朝鮮語
ドイツ語 ロシア語
ポルトガル語

お問い合わせ 0561-76-8833 愛知県立大学 外国語学部
E-mail icotoba@for.aichi-pu.ac.jp




編集後記

中西 千香（中国学科）

4年間の iCoToBa の事業が一つの区切りを迎えようとしている。4年間、委員として携わってきたということもあって、この編集後記を任された。ここに、最後の言葉を記していくことにする。

iCoToBa の仕事の中で、ご苦労されたのは、実際に学生たちに外国語を学ぶ楽しみ、苦しみなどを伝えてくださった iCoToBa 教員のみなさんであると思う。正規授業とは異なる、学生の興味あるカリキュラムを作り、学生たちの正規授業のない時間をうまく探して、スケジューリングをすることは、容易なことではない。そして、学生に授業に参加してもらおうと、また E 棟 2F の iCoToBa の利用促進のため、手を変え、品を変えてとさまざまな「営業」活動を展開されていたはずである。

それは、4月のウェルカムウィークから始まり、お昼のランチタイム、授業以外の時間でも学生が来れば、笑顔で対応しておられた。また、その国の食文化をつたえるべく、餃子やカンガルーバーガーを作って、パーティーも行われた。その努力の甲斐あって、毎日の平均利用者数は、一定の数を維持できたと思われる。これらは、iCoToBa 教員のみなさんの努力の賜物なのである。この4年間の奮闘に感謝したい。

さて、形を変えて再出発する iCoToBa の全体像が見えない中、5年目の春を迎えようとしている。それでも変わらず、iCoToBa は、愛知県立大学の学生の外国語学習の何らかのサポートをしていく機関として機能していかなければならない。

最近インターネットサイトで、外国語学習に成功する人の特徴について書かれたものがあつた。自分も外国語を学び、教える立場であることもあり、あるべき姿というのはわかっているつもりだが、以下、サイトの内容をみながらやっぱりこれしかないと感じる次第である。

外国語学習に成功する人の特徴として、一つ目は「**継続的に学習する**」こと。カルチャーセンターの週一回程度ではだめで、もっと短いスパンで継続せよということである。今の本学学生には整った環境と言えよう。

二つ目は、「**詰め込みをしない**」こと。ここでは分量の話で、一気にやるのではなく、少しずつ継続的にインプットせよということであつた。詰め込みという言葉借りて、筆者が追記するならば、勢いでなんとなくの感覚で学ぶことも好ましくない。基礎がしっかりしていなければ、長期的に自律した学習者を育てるには、途中で挫折してしまいかねない。大学教育での外国語教育である以上、大学在学中はもちろんのこと、卒業して、社会人になっても、しっかり学びなおしができるくらいの足腰は鍛えてあげたいものである。

最後は、「**復習をする**」ことである。これもありきたりであるが、学生をみているとこれをしないことで挫折している印象を受ける。何より大切なものは「復習」なのである。

この三つを意識しながら、学習を導いてあげられるのが大学在学中であり、卒業までに徐々に自律させていくことがわれわれの使命なのであろう。本学の教育活動においても、この外国語学習と同じく、細く長く続けていかなければならない。

しかし、外国語を学習させることだけに専念していればいいのか。そんなはずはない。外国語を使って、自分の言葉を発信していくこと、外国人とのコミュニケーションをはかることができるようになることが何よりも大事なのである。そのための「人間教育」も重要であると考え。

本学の学生とつきあっていると、これは大人対大人のやりとりなのか、大人対子供のやりとりなのかと悩むことが多々ある。もちろん理想は大人対大人である。教員と学生の関係は、単なる知識を与える—もらう関係であって、それ以外は高校とは異なる大人対大人の関係でいいと筆者は考えている。与えるばかりではなく、教える側も知識をもらうときだってあるからだ。

早く大人の立ち振る舞いができるように、卒業までにどんな人間になる、そのためにはどんな努力をしないといけないのか、二手先、三手先を考えて、計画的に行動ができるようになってほしいのである。これは、外国語が話せることよりも大事なことはないだろうか。柔軟な考え方をもち、誰にでも同じように接することができる広い視野を持ち、好奇心旺盛にいろんなところに飛び込んでいける、常に前進ができるタフな体力とメンタルを身につけて、送り出すことも必要である。

今後も、頭でっかちではない、真のグローバル人材を目指して、今後も学生たちをサポートし、この変化めまぐるしい時代に対応できる人材を育つことを期待したい。

参照サイト:週末勉強する人は続かない—データから見えた外国語学習に成功する人の 3 つの特徴 <http://jp.techcrunch.com/2016/12/20/duolingo/>

iCoToBa 年報 第4号

2017（平成 29）年 3 月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480－1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522－3 外国語学部棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail : icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa Annual Report
Aichi Prefectural University